

塚本学院校友会誌ウイングス
Number 45
Wings
January.2024





塚本学院校友会
会長 福永 亮碩

出会いと繋がりを大切に

校友会の皆様、お元気でいらっしゃいますか！

会誌 WINGS45号をお届けします。

今年卒業されました皆様に初めて会誌をお送りさせていただきます。塚本学院校友会は、大阪芸術大学、大阪芸術大学短期大学部、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校の校友組織として、「会員相互の親睦と母校の発展に寄与」する目的で、昭和44年に発足し、現会員は、11万5千人を超える大きな組織です。そして会員は、全国各地は無論のこと広く海外でも活躍しています。

校友会は来年設立55周年を迎えることとなります。そこで記念事業を計画するにあたり、55周年記念事業検討委員会を発足しました。

会員の皆様との出会いと繋がりを大切に、また、母校の発展に貢献する事業を計画しています。

会員の皆様、ぜひ会場に足を運んでいただき校友の輪を広げてください。

役員一同大歓迎でお待ち申し上げます。

大阪芸術大学では、女子駅伝の北川星瑠（ひかる）さんが2023年8月に行われました世界ユニバーシティ大会（中国・成都）の女子ハーフマラソンで金メダルに輝きました。おめでとうございます。また、10月に開催された全日本大学女子駅伝競技大会では期待も高まりましたがアクシデントに見舞われ結果14位となりました。しかし、4年生トリオが襷に込められた意志を受け継ぎ最後まで襷をつないでくれました。本当に感動しました。その反面、団体競技の難しさがにじみでたように感じました。

校友会では、新たな地域支部（香川県支部と三重県支部）を立ち上げました。今後も新しい支部の開拓に力を入れ、会員相互の親睦と学院の発展に寄与していきたいと願っています。ご興味のある方はぜひ支部運営にご協力願います。

来年は辰年です。辰は龍（竜）のことで、干支の中で唯一架空の生き物です。

会員の皆様におかれましては、大空を自由に駆け巡り、龍のごとく飛躍して欲しいと願っています。

1 令和4年12月4日(日) 定例役員会

- ①理事1名が選任された。
- ②役員全員の再任が決定した。
- ③各委員会の活動報告が行われた。

2 令和5年6月18日(日) 定例役員会

- ①監事1名、理事1名の辞任及び、参与1名、理事1名の退任が承認された。
- ②副会長1名、監事1名、常任理事7名、理事4名が選任された。
- ③令和4年度事業報告・決算が承認された。
- ④令和5年度事業計画・予算が承認された。
- ⑤各委員会の活動報告が行われた。

塚本学院校友会一般会計 (単位：円)

	科目	令和4年度決算額	令和5年度予算額
収入の部	前年度繰越金	9,709,731	9,522,000
	名簿頒布金	0	0
	基金受取利息	155,846	68,000
	預金受取利息	59	1,000
	一般寄付金	0	0
	広告収入	160,000	160,000
	基金繰入金	55,000,000	80,000,000
	雑収入	23,000	0
	合計	65,048,636	89,751,000
	支出の部	会議費 (各種会議開催経費)	4,318,619
名簿調整費		0	0
会誌発行費 (wings印刷・送付経費)		20,078,597	24,300,000
表彰協賛費 (催し物協賛)		1,269,594	3,000,000
準会員費 (奨学金等在校生支援費)		8,704,080	13,000,000
渉外慶弔費		634,620	1,000,000
支部開設費 (支部開設準備・運営費)		135,015	1,500,000
記念行事費		0	2,000,000
ITシステム諸費 (ホームページ運営経費)		137,852	5,200,000
雑支出		79,293	800,000
事務局費 (事務局人件費・事務用品等)		20,169,051	22,830,000
予備費		0	6,621,000
合計		55,526,721	89,751,000
差引繰越額	9,521,915		

会長挨拶 1

役員会報告 2

学校法人塚本学院副理事長
塚本 英邦氏 インタビュー 4



あのことろ、あの場所で、
アルバムに残された青春 Part 4 10



卒業生が働く会社訪問 14
家族の移動の安心・安全を支える
OGK 技研株式会社

ギャラリー白 画廊街小史 18
吉澤 敬子さん



母校愛のきずな「親子二代Vol.12」 22

高橋善丸先生 書籍について 24

高田 雄吉先生・杉崎 真之助先生 26
展覧会報告

交感するアート 27
プチギャラリー Wings

工芸のちから 28

新企画
まだ道の途中! 応援します卒業生。 30
『面より点で』ogurock 地元からの放物線
小黒 真平さん



前中 妙先生 追悼文 34

武友 正修さんの思い出 35

奨学生の声 36

関西学生・全日本大学
対校女子駅伝結果報告 38

凸凹母校 活躍するOB・OG特集 40

プチギャラリー Wings 52

ハガキ短信 56

書籍・CD・DVD出版 60

令和5年度
校友会社会貢献等支援事業概要 61

支部活動 開催報告 62

大阪芸術大学
学園祭の様子 70

学校便り 72

クレナズム 76
香川 文人さんと齋藤 信先生の思い出

学びのフィールド 79

2024 卒業制作展のご案内 80

執筆等、お世話になった方々 82

卒業してよかったと思ってもらえる大学であり続けたい

塚本学院の副理事長であり、大阪芸術大学の副学長、短期大学部の学長など大阪芸大グループの中核でさまざまな要職を兼務される塚本英邦先生。プライベートでは小学生のお子さま二人を連れて旅行に行くのが趣味という子煩悩である一方、仕事では優れた企画力と実行力で前進を続ける開拓者でもいらっしゃいます。

そんな芸大グループの未来を主導する若きリーダーに、これまでのお仕事や今後の展望について、大阪芸術大学教授の竹垣恵子と大阪美術専門学校特任教授の東陰地正喜が伺いました。



学生時代から塚本学院への就職まで

東陰地(以下:東)

本日はお忙しいところありがとうございます。

早速ですが、古い卒業生には英邦先生のことは馴染みがないかと思いますので、少し先生ご自身のことを伺いたと思います。学生時代のことから伺ってもよろしいですか？

大学-大学院では社会学を専攻しており、アウトソーシング、特にSE(システムエンジニア)について研究をしていました。社会学や経営学の教授の許で研究していましたが、その先生が退官されたので、情報工学の先生のところに移って、SE向けのマニュアル開発に携わっていました。元々文系なのに工学博士号を持っているのは、そのためです。

東 なるほど。では学校を卒業された後は？

塚本学院に就職して、専任講師として大学で一般教養の社会学を教えたり、短大の方でコンピュータを教えたりしていました。

竹垣(以下:竹)

一般教養の試験監督と一緒にしましたよね。あの時、なんかトラブルがあって、そのとき英邦先生「ぼく、取ってきます!」ってサッと行ってくださったの、覚えています。



そうでしたかね(笑)

週4日授業を担当する一方で、学院本部の理事長室主査の仕事も並行してやっていました。最初から教員と職員の兼務です。授業の準備もしないといけないし、他の仕事もあって、割と忙しくしていました。

アイデアと実行力

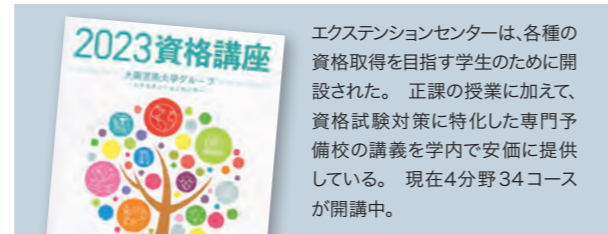
東 理事長室主査というのは、どういうお仕事なんですか？

なんでしょう(笑)。理事長の見習いみたいなもんです。まあ、言ってしまうと、何でも屋です。今も何でも屋ですけど。

竹・東 いやいやいや(笑)。

いや、ほんまに何でもやりましたよ。

1日目ですかね、エクステンションセンターを立ち上げました。委託業者の選定から冊子作り、ルール作り、事務所作りなどセンター開設の準備全般に関わりました。



竹 あれは画期的でしたね。

2日目には芸大テレビを作りました。これは私から提案して実現しました。学外などで演奏会とかあって、すごくいいコンサートなんです。でもせっかくの催しなのに、演奏学科以

外の学生は知らなかったり、見に行かない人も多いんです。そうすると、そこで終わってしまうじゃないですか。だから、一期一会の舞台の魅力、その全部は伝わらないにせよ、少しでも多く知ってもらいたい、広めたい、と思ったんです。

竹 プランニング力と実行力がすごいですね。受験生も含め、外部に向けた芸大の知名度やイメージがアップした一因かもしれないですね。

芸大テレビの媒体は、最初ウェブだけだったんです。その後、奈良テレビ放送の方から番組として放送させてほしいという依頼があったんです。そうして、奈良テレビ放送、KBS京都、テレビ和歌山、サンテレビ、と広がりました。現在、KBS京都を除く3局で放送されています。



それと、学内に専用テレビモニターを設けて芸大テレビのコンテンツをずっと放映しています。今では当たり前になっていると思いますが、あれを置く前は、学生は隣の学科で何やってるか、ほとんど知らなかったと思うんですね。それが、学内でずっと流していることで、他学科のことを知ってもらえるようになったと思います。学科間の敷居を低めて、なんていうか一体感というか、そういうものも出てきたような気がします。

東 その後のお仕事で主だったものというと？

それ以降はもう、大学に関わることに全般的にわたって、みんなでやってきています。

そのなかでも、企画広報部は私が作って、部長をしています。6-7年前のことです。主に大学案内のパンフレットなど



手前が昨年度版(2023入学案内)、奥が今年度版(2024入学案内)



を作っています。美専のパンフレットは校長の三木健先生にお任せしていますが、大学と短大のパンフレットは企画広報部で作っています。ちょうど今年のが届いたところ。昨年までは表紙に中村佑介さんのイラストを使用していたが、今回からケイゴイノウエさんをお願いしました。お二人とも大阪芸大の卒業生です。

キラキラで大学の入学案内には見えないでしょ。中身も斬新なんですよ。たとえば各学科コースで多くの先生を紹介しています。大学のパンフレットで先生を大きく紹介しているところなんて、他にほとんどありませんが、入り口として受験生に興味を持ってもらえるような人を取り上げています。



(上) 大阪芸術大学 2024 入学案内 A4変形(232x297mm) 272P
(下) 大阪芸術大学短期大学部 2024 入学案内 A4変形(215x297mm) 104P
いずれもホログラム箔押しが施され、光の向きによって表情を変える

竹 先生のお話を伺っていると、仕事が大好きで、人も大好き、と感じます。

仕事は楽しいですね。企画とか、何かを作るのが好きなんです。人が好きっていうか、人を喜ばせるのが好きなんですかね。学生に喜んでほしい、っていうのはずっと一貫しています。

新校舎建設秘話

東 新しい校舎も話題になりました。2018年のアートサイエンス学科棟、そして2021年のキャラクター造形学科のお城。まずアートサイエンス棟のことからお聞かせください。妹島和世さんの設計ですが、あれは最初から妹島さんに依頼しようと考えていたんですか？



そうです、妹島さんに私が頼みに行きました。妹島さんと西沢立衛さんの建築ユニットSANAAの作品で、スイス連邦工科大学ローザンヌ校にあるロレックス・ラーニングセンターという建物があります。ああいうのを芸大にも建てたいなあと思って、ちょうどアートサイエンス学科が創設されるのにあわせて、建てようと考えました。だから、基本的に妹島さんに一切をお任せしました。

実は妹島さんには、最初は先生としてお願いに行ったんですよ。でも、お忙しいということで断られて。じゃあ代わりに校舎建ててくださいって頼んだら快諾してもらえた、という経緯だったんです。それで「建てたからには教えにもきてもらわんとね」ってことで(笑)、今は客員教授としてお迎えしています。建築学科長の門内先生にも協力してもらって。



竹 すごいですね。でもあの建築は本当に美しいですね。

はい、全てがすごく凝っています。壁も天井もクネクネウネウネしてますでしょ。だから周囲のガラスとか1枚として同じ物がない、すべて特注品です。コンクリートを打つときに囲む板も全部サイズが違っていているから使い回せなかったし、コン

クリートの構造も特殊で空洞のあるものになっています。そんな特殊な部材や工法でやっていますから、普通の建物よりお金がかかりました。でも、あの建物自体がアートですから、建物全体をアート作品として観たら、むしろ安いと思います。キャンパスに入ってすぐのところにありますから、芸大に来たら誰でも、おおすごい!ってなるじゃないですか。そういう意味でも大成功だったと思います。

高橋誠一先生が設計した芸術情報センターの隣に建てると

いうことで、妹島さんもプレッシャーを感じながら仕事をしてくださったと思います。彼女からすると、直接の師匠ではありませんが、師匠の世代の尊敬する方の作品と並び建つわけですからね。

東 なるほど。では次に、あのお城はどういう経緯だったんですか？

アートサイエンス棟ができた後、理事長がキャラクター造形学科のために新校舎も建てようとして、「キャラ造いいうたらお城やろ」って。みんなそれ聞いて、ああそやなって(笑)。それで、「お城いうたらディズニーランドのシンデレラ城やろ」っていうことになりまして、シンデレラ城のモデルはドイツのノイシュバンシュタイン城なので、建築家の方にドイツに行って見学してくるよう頼みました。コロナ禍になる前のことです。



ノイシュバンシュタイン城は、塔を正面に見る角度からだとシンデレラ城の形なんですけど、別の角度から見ると、横に長く連なっていて教会みたいな建築なんです。それで、実物を見学してきた建築家が最初に提案してきた3Dプリンタによるモデルもその形を踏襲していました。その全体像を見てお城というより教会みたいと思って、ちょっと違うと感じたんです。それで私なりに他のヨーロッパの城を色々調べて、色々注文をつけて修正してもらって、そうやって作ったんです。あの校舎は入ると、吹き抜けのエントランスになっているんですが、その部分に教會的なもの名残があります。

東 じゃあこっこの計画にも、がっつり関わってたんですね。

そりゃもう、自分の家建てるくらいにあれこれ考えて決めましたよ。内装の壁はこれ、ここはこんな感じでって。私が凝るもんですから、建築家も凝らざるを得なくて。トイレとかもめっちゃ凝ってます。

竹 ほんま、中もかっこいいですね。

東 それって時期的にはコロナのころですか？

そうですね。コロナ禍の時期に竣工しましたから。だから、コロナ禍と言っても、何も止まらなかったんです。

コロナ禍での対応 決断とスピード

東 コロナの話が出てきたところで、やはりあの時期のさまざまな対策について伺わないわけにいきません。未曾有の事態で、相当にご苦労があったかと思うんですが。



めっちゃたいへんでしたよ。ええ大人が右往左往して。最初の年は全国的に卒業式が中止になって、オープンキャンパスも予定していた3月の1回は中止になりました。4月に入って入学式もできなくなって、そのまま緊急事態宣言下に

なって、5月末まで遠隔授業のみで。ただ、6月から小・中学校の登校が再開されるということで、それに合わせて、芸大も実習系の授業は対面でやろうと決めました。

竹 その決断力というか、みんなまだ怖がっているなかでの英断ですね。

いやいや。3月の段階で、学科長会議で4月からの授業どうしよう。4年で卒業させないといけないのに、2ヶ月も3ヶ月も授業をしないというわけにはいかない。それで、とりあえずZOOMでやろうと準備を進めて。それで何とか5月まで乗り切った。工芸の先生とかZOOMで自宅で実習とか、たいへんやったと思いますが。



竹 そうなんです、教員としては、せっかく学校にはいい設備や機材があるのに、すごく学生がかわいそう。そんなときに、6月から対面を再開できるとなって、本当に助かりました。

学科長だけで話し合うと、どうしても慎重論に傾くんですよ。もし何かあったら、責任が生じますから。対面に戻したら、「学生がコロナになったらどうするんだ」って言われかねないですからね。そのなかで決断するのは、正直怖かったです。それでも学生のことを思うと、講義形式の授業は遠隔を続けるにせよ、実習形式の授業は対面を再開すべきだと、学科長会議に入らせてもらって、各大学の状況を調べたデータも示しながら、お願いしました。もちろん、強制ではなく、来たい人は来てね、来れない人はZOOMで、という形にして。それぞれ担当の先生方にも教室のレイアウトや人の配置を再考してもらい、事前に教務課でチェックする、という体制を取りました。

竹 今から思うと、教員としても新しいチャレンジができて、いい機会だったと思いますが、他の大学に比べていち

早く対面授業を再開すると決断されたのは、本当にありがとうございました。

東 しかし、その後もコロナの感染拡大は長く続きました。

二年目になって、厚労省からワクチンの職域接種という話が出て、すぐに芸大でもできないかと準備を始めました。本当にたいへんでしたが、かなり早い時期に実施にこぎつけました。大学の場合、医学部・大学病院のあるところは早く対応できるんですよ。既に診療所があるから。6月20日が第一弾で、そこに間に合ったのは、そういう大学ですね。うちの場合は、診療所の登録から始めないといけなくて。でもスピーディーに準備を進めて、すぐ追いつこうと。結果、第二弾の6月27日から始められました。



一日でも早くやりたいと必死でした。書類の準備は膨大な上、医師や看護師も確保しないと。それに職域接種独特のスペースレイアウトや案内のオペレーションもあり、病院に見学に行ったりしてました。医師と看護師以外は自前の職員で回して、と計画を進めて、バタバタと3週間くらいで実施まで持っていったんです。

それで、始まったら始まったで、次は？ 何回接種するの？ 何人分用意すんの？ って次々と対応しないといけないことが続きましたね。



自らがモデルとなったイラスト作品(次ページ参照)を紹介。どんなにイジられても「おもしろいでしょ」と鷹揚な人柄がうかがわれる。

東 おかげで私も芸大で接種しました。ご家族連れで接種されている先生や学生もいたようですね。

そうですね、うちは掃除の方などの業者さんも、学生のご家族の方も、受け入れましたから。

そうやってコロナと付き合ってきましたが、卒業式なんかは密を避けるために午前・午後と分けて1日で2回やったりしました。

竹 たいへんですね。先生の卒業式での振る舞いにはいつも驚かされます。卒業証書の授与とか、各賞の表彰を代読されるのをずっと続けていらして、しかもお一人お一人にちゃんと全文読んで「おめでとう」って心からお祝いされているのが、すごいと思います。

学生にしてみればね、ちゃんと表彰してほしいと思うんですよ、「以下同文」じゃなくてね。私の考え方は全て学生中心、常に学生のことを第一に考えるようにしています。卒業式とかそういう場に限らず、何事においてもです。

東 そして、コロナもやっと収束しました。

この4月から、すべて元に戻しました。今後は、どうアップグレードして戻すか、という課題になります。

私は国際部長も兼務してまして、今年の夏、オックスフォードへの研修を再開するんですよ。学生たちも行きたいと思うんですよ、オックスフォードのカレッジの寮に入って学習したり、ロンドンに遊びに行ったり。学生の時にしかできない貴重な体験です。その機会を3年間作れなかったのですが、やっとまた提供できます。

コロナ禍でも、作品交流だけではありましたが、日中交流作品展と日韓交流作品展は続けてきました。人的交流も復活させていきたいですね。

卒業してよかったと思われる学校に

東 では最後に、これからの芸大グループをどうしていきたいか、展望をお聞かせください。

うちの学校に来てよかったな、卒業してよかったなって思ってもらえる、そんな学校にもっとしていきたい、それだけですかね。いい施設を用意して、いい先生に来てもらって、いい教育をして、いい卒業生を出すっていう、それをまじめにしていだけなんです。それがいい学校であり、学生のためにもなる、ということです。

東 なるほど、真っ直ぐ正道を歩むということですね、新かな手を打つとかではなく。

ただただ愚直にやって来たから、芸大はもちろん、短大も定員をオーバーするほど入学してもらってますし、美専も新しく三木校長になって、みんなでがんばってもらって伸びてきています。

東 たしかに。

芸大をはじめ、うちのグループは、受験生がどんどん増えてきてるんですよ。

一方で今、どこそこの短大が募集停止したとか、つぶれたとか、実際にそういう時代になって来ています。少子化が進んで、去年の出生数が79万人でしょ。ぼくらのときは200万人です。うちは今のところ大丈夫ですが、これからますます勝ち組と負け組に二極化して、大学も淘汰されていく時代です。全国で小・中学校、高校が統廃合されていますから、当然、大学もそうなっていきます。

だから、今、入学者数を伸ばしておかないと、生き残れないんです。現状維持ではダメなんです、伸ばさないと。

竹 私が卒業した高校も統廃合されて、自分が学んだところがぜんぜん知らない学校になってしまったんですよ。それって何かすごく寂しいんですよ。だから芸大は絶対に残ってもらわんと。

竹垣先生が100歳くらいになるまでは大丈夫です(笑)、まあ、ぼくらの世代までは大丈夫です。これを次の世代にどう残すかですが、そのための盤石な基盤を作っておかないといけないと思っています。

竹 ありがとうございます(笑)

そのためにも、繰り返しになりますが、学生のため、というのを第一に進めていきます。それで卒業生が各分野で活躍してくれば、その人に憧れて大阪芸大を目指す人が増えて、次の入学者につながる。そういう良い循環ができてきていますので、これをさらに拡げてきたいですね。

東 卒業生として、教員として、先生の実直なお考えを聞かせてもらえて、本当に良かったです。

竹・東 本日は本当にありがとうございました。

取材／2023. 5. 8

文責／竹垣恵子(企画広報副委員長)・東陰地正喜(企画広報委員長)

写真／松本晴名(校友会事務局)



©Manga Designers Lab.

塚本英邦

博士(工学)名誉経済学博士

Hidekuni TSUKAMOTO

学校法人塚本学院 副理事長・国際部長・企画広報部長

大阪芸術大学 副学長・教授

大阪芸術大学短期大学部 学長

ラジオ大阪で放送されている番組「大阪芸大スカイキャンパス」ではパーソナリティもつとめ、大阪芸大グループ出身の著名な卒業生をゲストに迎え、第一線で活躍するクリエイターのリアルな声を引き出している。



©JUN ICHIKAWA



©JUN ICHIKAWA

連載企画

あのころ、あの場所で、Part 4 アルバムに残された青春

- 取材・文責/企画広報委員 和田 貢
- 資料提供/企画広報委員 竹垣 恵子
- 写真提供/フォトスタジオトキワ



芸大で過ごした思い出の場所を、当時の写真から探訪し、あの場所は今？を探る『あのころ、あの場所で、』は4回目の連載となりました。今回は大阪芸術大学工芸学科 工芸・染織・テキスタイルデザインの教授で校友会企画広報委員の竹垣恵子さんから提供いただきました、1985年～1988年までの卒業アルバムからセレクトした写真をもとに『あのころ、あの場所』に思いを馳せます。



1985年の校舎全景とロケーション



喜志駅改札付近通学風景は今も昔も変わらず、満員の金剛バスが懐かしい。2023年、富田林駅や喜志 駅などから各市町村内を結ぶ路線の廃止が決定し、今では金剛バスでの風景も見られません。

卒業アルバムは、在学生による『アルバム委員会』が企画、立案し奈良県大和郡山市にあるフォトスタジオトキワさんの協力で制作していました。アルバムは各学科ごとの授業風景や学内でのひとコマに始まり、学科ごとに氏名と、フリーに撮影された個人写真、各クラブ活動やゼミの様子、教授の紹介写真などで構成されていました。個人情報保護法 肖像権などが厳しくなった今では作れない希少なアルバムになっています。そこでその部分に触れることに注意してボカシ処理などでセレクトしました。各自の表情や雰囲気が伝わりづらいかも知れませんが、当時を知る貴重な1枚として御覧ください。尚、印刷物からのスキャンですので、不明確な部分がありますが、ご容赦ください。



1985年度の卒業生は22歳で卒業として現在は60歳、還暦を迎えています。時の流れを感じますね。当時の重大ニュースは『日航ジャンボ機墜落事故』『豊田商会长刺殺事件』などがありますが、明るい話題では『青函トンネル貫通・新幹線上野駅開業』また携帯電話の先駆けとなる『ショルダーフォンの登場』ファミコンソフト『スーパーマリオブラザーズ』が大ヒットしたのもこの年で、流行語では『イッキ！イッキ！』が金賞を受賞しています。



各学科の実習風景。実習室や機材の古さが時代を感じさせます。熱心に実習に取り組む姿は昔も同じですね。

Campus Life 1985~1987

学園祭、クラブ活動、学生食堂は卒業アルバムではキャンパスでのひとコマに必ず使われています。思い出をたどって見ましょう。



学生のお腹を支える学生食堂。今も健在なメニューが残ってます。芸犬?も居ましたね。

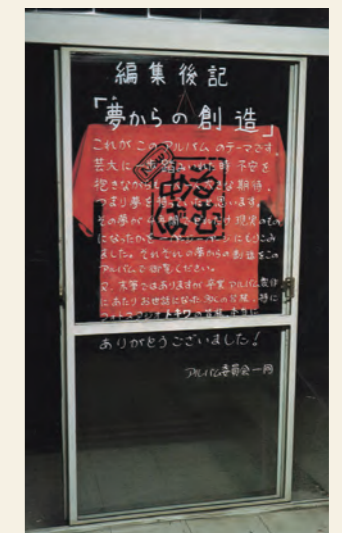


芸大祭、コスプレは当時から祭りの花。模擬店もB1グルメ並みに本格的。ところで味のほうは…?



男らしさがプンプン香る?? 寮生活! ※当時の表現です

クラブ対抗運動会(左上)
2022年度芸術計画学科による「青春ノスタルジック~過去のきらめきをもう一度」の「芸ジャー復刻プロジェクト」でもおなじみの当時の体育授業用のリアルジャージ



華麗に綺麗に! レディースマンション暮らし ※当時の表現です



1987年版のアルバムにこのような編集後記が載っていました。『夢(ム)からの創造』これがこのアルバムのテーマです。芸大に一步踏み入れた時、不安を抱きながらも一人一人大きな期待、つまり夢を持っていたと思います。その夢が4年間でどれだけ現実のものになったかを1ページ1ページにもりこみました。それぞれの夢からの創造をこのアルバムで御覧ください。又、末筆ではありますが卒業アルバム製作にあたりお世話になった多くの皆様、特にフォトスタジオトキワの皆様、本当にありがとうございました! アルバム委員会一同! 以上原文のまま

募集のお知らせ

塚本学院校友会誌ウイングスでは、会員の皆さまからの『あの頃の写真』を募集しています。写真にエピソードなど添えて、校友会事務局まで、お送りください。(メール可)

塚本学院校友会事務局
『あのころ、あの場所で』係宛
〒546-0023 大阪市東住吉区矢田2-14-19
E-mail : tgkouyukai-3@giga.ocn.ne.jp

家族の移動の安心・安全を支える OGK技研株式会社

脇田 昌美さん
大阪芸術大学工芸学科染織専攻 1982年卒業
市場開発本部 商品開発部

田島 剛毅さん
大阪美術専門学校デザイン学科インテリアデザイン専攻 1988年卒業
市場開発本部 顧客開発部 係長
兼 人材採用担当

松本 唯さん
大阪芸術大学デザイン学科プロダクトデザイン専攻 2012年卒業
市場開発本部 顧客開発部



左から、田島剛毅さん、松本 唯さん、脇田昌美さん

70年以上にわたり、自転車パーツを中心に、顧客の日常に寄り添ったものづくりを続けてきたOGK技研株式会社。自転車のチャイルドシートやバスケットなど、国内トップのシェアを誇り、積極的に海外への展開も行っている東大阪の企業です。人の心を和ませ、家族の移動における安心・安全をサポートするものづくりを続ける職場に3名の大阪芸大グループ卒業生がいると聞いて、訪ねてみました。

学生時代 警備員さんから夜食の差し入れ

——本日はお忙しいなか、みなさんありがとうございます。早速ですが、学生時代の思い出などから伺ってもよろしいでしょうか。

田島：決して真面目な学生ではなかったです。課題の評価はいつも良かったんですが、授業態度が良くないということで成績は悪かったです。教室にほとんどいなくて、いつも学生ラウンジでたばこ吸いながら課題をやっていましたね。

松本：大学では、授業より研究会をずっとがんばってき



OGKは大阪グリップ加工の略。社名の由来となっている自転車のグリップの初期製品。

たっていう感じですね。プロダクトデザインだったので、モビリティとかロボットとか、産学連携で、先生が作ったゼミの延長のような研究サークルです。理系的なものや芸術的なものを橋渡しするような開発やデザインを目指してました。提携先の企業さんに、当時最先端の3Dプリンタとか使わせてもらったり、もしかしら自分が大学に払った授業料より多いくらいの資金をかけてもらってたかも(笑)

脇田：私は工芸学科の染織だったので、大学にいる時間が長くて、みんな仲良しでとにかく楽しかったです。構想を練ったりするのは家でも出来ますが、作業に入ると学校でしかできないでしょ。広さや設備の面で。だから、必然的にみんな学校に残って作業するんですよ。課題が間に合わず学校に泊まり込んだりしてましたよ。警備員さんも「帰れ」とは言わず、ご飯炊いてくれたり、秋刀魚焼いてくれたりしてもらったこともあります。

——そうなんです!今やったら考えられへん話ですが、当時の雰囲気が伝わるエピソードですね。

脇田：ただ、先生はめっちゃ厳しくて、合評の時は怖かったですね。もう人間性を否定されるようなことも言われて。その分、学生同士は励ましあって仲良くなりますよね。当時の友だちとは今も仲いいですよ。今日の取材の話をしたら、学生時代の昔の写真がたくさん送られてきました。

OGK入社まで それぞれの業種で得た経験

——ところで、みなさん、こちらの会社には中途採用と

伺いましたが、こちらに入られるまでの経緯をお聞かせください。田島さんは美専に入学する前に2年間仕事をされていたということですが。

田島：バイク用品店に勤めていました。バイクや車が好きだったので、ポルシェ買うためにお金を貯めようと思ってました。でも、そこが閉店することになったんです。それで、なんか手に職つけて別の仕事しようかなと思いついて。当時、店のお客さんにデザイナーの方が何人かいらっちゃって、みんなええ車乗ってるんですよ。デザイナーって儲かるんや(笑)と思ったのと、子供の頃から絵は得意でし、デザインにも興味があって。例えば働いていた店の陳列棚とか、なんでこの幅やねん、とか気になっていたこともあって、それで美専のインテリアデザインに入りました。車買うために貯めてたお金は全部入学金とか授業料に使いました。さっき言ったように、あまり真面目な学生ではなかったんですが、先生には色々相談して、就職の時も「一番仕事が早く覚えれる会社はどこですか?」て訊いたりして、それで内装の会社に入りました。当時は建築ブームということもあって、もうめちゃうちゃ仕事がありました。確かに知識や技術はすごいスピードで身につけていったんですけど、忙しすぎて体を壊してしまい、退職しました。休んだ後、再就職する際に、OGK販売(現在のOGKカブト)がグラフィックデザイナーを募集していて、応募したら採用されて、っていう感じですね。グラフィックデザインは初めてで、広告代理店から来た



同僚に一から広告のノウハウとかグラフィックデザインの基礎を教わりました。OGK技研に転属後、初めてパソコンが導入され、イラストレータなど、ほぼ独学で覚えながら仕事をしていましたが、会社は優しく見守ってくれるという感じでした。前の職場とずいぶん違うなあと思いました(笑)

松本：大学では研究会にどっぷりだったんで、まともに就活してなくて、そしたら産学連携している企業さんから「うち来る?」って誘ってもらって、すぐに決まりました。金属がメインの会社で商品開発に携わっていました。その後、この会社に入って、今年で8年目かな。

——田島さんは前職とはずいぶん雰囲気違ったとおっしゃってましたが、松本さんから見てこの会社の印象はどうですか?

松本：そうですね。かなり自由にやりたいことをさせてくれる会社やなって思います。例えば、商品開発のためにユーザーの行動観察をしたいが、出社してから行ったら観察対象のピークの時間に間に合わないって説明したら、あっさり直行を許可してもらえたり。

——脇田さんは、最初はやはり繊維関係だったんですか?

脇田：いいえ、当時はバブル期で、ウィンドウディスプレイがすごく華やかで憧れだったんです。それでそういう販促の仕事もある流通系の会社に就職しました。その先輩に色々教わりましたね。お洒落なもの、センス、流行、そういうものをすごく敏感にキャッチする方だったので、私も勉強になりました。ただ、当時は一生働くつもりはなくて、結婚して退社しました。

結婚後も、元の仕事のつながりで、フリーランスとして仕事をしていましたが、バブルが弾けて、そういう仕事も減って、だんだん声がかからなくなって。もう一回働きに出たいと思って、ベビーカーを作る会社で企画に携わったり、家庭日用品のメーカーで事務をしていたらいつの間にかシールラベルのデザインやることになったり。そこで初めてイラストレータを覚えました。その後、100円ショップや子供服・玩具店に商材を卸す会社で、今度は



脇田さんが友人から送ってもらったという昔の写真を披露。ひとしきり思い出話に花が咲く。



喜志駅にて(1979-80年ごろ)



染織専攻での合評前(1979-80年ごろ)



田島さんがプランニング・デザインしたショールーム (OGK 本社 2F)



松本さんが企画提案・設計したチャイルドシート。機能性をアップするだけでなく、従来品では2つの金型で2つの製品だったのを1つの金型で2つの製品を作れるようにリニューアル。



松本さんが設計したチャイルドシートに、脇田さんがデザイン・開発した晴雨兼用のシートカバーが装着されている。

紙のデザイン以外のデザインの仕事もしました。そこで定年を迎えましたが、まだ働きたかったので、ここに入社しました。それまで勤めた会社もそうですが、この会社も働きやすくて、松本さんが言ったように、やりたいことをやらせてくれるところですよ。

田島：チャレンジすることを否定しない会社です。デザインしたい、ものづくりしたい、っていう人には向いていると思います。



学生時代に学んだこと 心構え

— 学生時代に学んだことが今の仕事に生かされている点があれば教えてください。松本さん

松本：はプロダクト出身で、先ほどの産学連携とかのお話からすると、現在のお仕事に直結していますよね？

松本：まあそうですね。今は顧客開発部で、主にマーケティングをしています。大学の授業で先生から、プロダクトと言っても、ものを作るだけじゃない、まずは行動観察から、というのを叩き込まれたので、さっき話したように、この会社で商品デザインするときも、まずはユーザーの行動を観察したり、お客さまの声を聞いたりしながら、困り事や隠れたニーズに気づくっていうことをしていたので、そこは今も変わってないですね。あと、大学で先生に言われた「相談できる同業の友人を作れ」という言葉は印象に残っていますね。

— 脇田さんはどうですか？染織とは全く違う業界ですが。

脇田：ものづくりの姿勢というのか、心構えは同じですよ。まず、誰のために作るのかっていうのを考えて、構想を練って色々試行錯誤した上で、製品化していきますから。本質の部分は共通していると思います。

田島：私は、学生時代に学んだことと仕事って、ほとんど繋がっていないと思います。色彩学とかは役に立っていると思いますが、内装の仕事していた時でも、それこそ図面の引き方からして、学校で教わるのと現場のやり方って全然違って。美専では、先生がことあるごとに「君らが今学校でやってることなんて、基礎の基礎でしかないよ。仕事は全然レベルが違う、現場の仕事は現場でないと身につかない」っておっしゃってました。課題や卒制でいくら評価されても、仕事になったら全然役に立たない、そういう覚悟が、卒業する前からできたことが、かえってよかったと思います。

— なるほど。田島さんは現在採用担当もされていると伺いましたが、こんな学生に来てもらいたい、とかありますか？

田島：学生の方をインターンとして迎えることがありますが、今の学生は全体的に正直ちょっと甘いと思います。

脇田：情報が多すぎて、そもそも自分が何をしたいのかが、はっきりしてない場合も多いのではないかと感じます。



田島：そうそう。働くってということに対する気構えができてないというか。まあ世代格差はしゃあない部分もあるんですけど。我々が求めているのは、知識とか技術とか以上に結局「やる気」なんです。やる気があれば、踏ん張れるし、仕事も覚えるし、すぐに伸びます。せめて、これがしたい、こういう仕事をしたいっていう部分をはっきりさせるだけでも違うと思うんですけどね。あと、独りよがりなデザインする方は、いくら技術があっ



てもうちの会社では厳しいですね。自分の好きな世界があっても、それだけでは商品になりませんから。

松本：確かに。お客さんから汲み取ったニーズを製品に落とし込んでいくのが仕事。自分の作りたい理想のプロダクトはあっても、コストをはじめ色んな制約がたくさんあって、結局量産品を作っている、という現実があります。でも、そこで腐るんじゃなくて、それを昇華していくってところに仕事の面白さがあると思います。



— ありがとうございます。卒業生より現役の学生に聞かせたいお話でしたね。

今後の目標 とにかく楽しく

— 最後に、みなさんの今後の目標をお聞かせください。



脇田：私はもうすぐ定年なので、会社を辞めた後のことになりますが、ものづくりには、ずっと関わっていききたいなと思っています。昔の仲間と一緒になにかを作ることができたら、と。

松本：私は、とにかく週末を楽しく過ごすことですね。

— えっ？お話を伺っていると、松本さんは仕事人間かと思いましたが。

松本：いえいえ、うっかり働いてしまってますけど、可能なら毎日遊んでいたいんです。キャンプとかゲームとか旅行とか。

脇田：休みの日にしっかり遊んで外向きにストレスを発散させて、エネルギーをチャージして、また生き生きと仕事に戻ってくる、という感じなんです、彼女。

松本：そうなんですかね。まあ凝り性なんで、仕事はとこ

とんやりしますが、あくまで目的は週末ですね。そのために生きています(笑) いろんなことに興味を持って体験して、そのうちの一部分が仕事に活かされれば、という感じです。

田島：私は、もともと落語好きなんで、定年退職したら上方落語協会のスタッフやりたいって考えてたんですよ。繁昌亭の運営のお手伝いとかね。米朝事務所のスタッフとか。内装とか広報できるし、話し方とか声の出し方とか今も勉強しているんで、そういうものを生かされるんちゃうかなって(笑)

脇田：田島さんは喋りの方を活かすべきですよ。

田島：いや嘶家さんには敵いませんって。ただ、自分の身につけたものを誰かに伝えたいですね、今からでも。特に芸大生とか若い人に向けて、実践的な心構えとかを伝えたいです。愛とか夢とか希望だけでは食っていけないよ、と。

脇田：愛とか夢とか希望も大事ですよ。

田島：もちろんそうなんですけどね(笑)

— 本日は貴重なお話をたくさんうかがえました。本当にありがとうございました。

取材 / 2023. 9. 14
文責 / 東陰地 正喜 (企画広報委員長)
写真 / 菅原 広司 (企画広報委員)



オージーケー技研株式会社

1948年に設立。東大阪を拠点に自転車用チャイルドシートやバスケット、ドレスガード、発泡車輪など樹脂製自転車部品の製造販売を行うリーディングカンパニー。高井田の本社のほか水走に工場を、江蘇省昆山市に中国事務所を持つ。また関連企業に、オートバイや自転車のヘルメットなどを扱うOGKカブトのほか、OGKヨーロッパ、韓国OGKなどがあり、国内だけでなくグローバルに展開している。

今橋画廊を原点に、鳥山 健が「ギャラリー白」を。 松原 光江が「番画廊」を、西天満画廊街に進出した。 そこでは、大阪芸術大学グループの教員、 卒業生、学生の発表の場が広がった。

又、この地域の老舗画廊でも、卒業生の個展、グループ展が数多く展開されている。

ギャラリー白誕生

有限会社ギャラリー白(はく)は1979年10月3日に代表取締役鳥山健(とりやまたけし 1922年11月1日-2013年5月5日)が、太田由子、山口順三、山路康夫、山本あゆ子と大阪市北区西天満4丁目6-14千福ビル2階に2会場オープン致しました。

初日は、会場の絨毯に幾つもの車座ができた程の盛況振りででした。

同年6月に南に徒歩5分位の所に番画廊(-2013年)が、同年9月に北に徒歩5分位の所に天野画廊オープンと言う、西天満の歴史的と言っても過言ではない画廊街の幕開けです。



鳥山 健

大阪芸術大学、大阪芸術大学短期大学部、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校との関わりは、オープン以前からありました。

鳥山が以前に開廊していた今橋画廊の時代から、塚本学院の先生方、卒業生の展覧会を多数開催していたからです。



1997年のギャラリー白外観(千福ビル)

今橋画廊

鳥山、番画廊の松原光江さんが、以前に勤めていたのが、大阪市中央区今橋にあった今橋画廊(1969年-1979年)です。

美術作家たちだけでなく、デザイナー、書家、小説家、

詩人などが集まり、鳥山はユニークな展覧会を次々と開催していました。

早川良雄さん、宮島久七さん、横尾忠則さん、田中一光さん、大高猛さんなど、デザイナーの方の展覧会が多かった様です。引き続き、ギャラリー白でも開催して頂きました。

当時、短大陶芸の森淳さんは、個展も開催されていますが、小説家の藤本義一さん、書家の長浜光さんとのコラボ作品も発表されました。

泉茂さん、柳原睦夫さん、松井公一さん、井関和代さん、小野山和代さん、近藤佐江子さん、竹垣恵子さんなど、塚本学院の先生方の展覧会が多数ありました。

解散後、すぐに、松原さんは番画廊、鳥山はギャラリー白を開廊しました。

スタッフ

ギャラリースタッフも塚本学院の卒業生にお世話になっています。堀野利久さんのご紹介で短大の田月昌代が勤めてくれ、次に大芸泉茂ゼミの茂野多津子、船井裕ゼミの福田新之助、泉ゼミの館勝生、美専の高木義隆、現在も大芸の南野馨、美専の山内亮が働いています。勿論他大学卒のマツモトヨーコ、真木智子、井沢以佐子にもお世話になりました。

開廊当初学生アルバイトスタッフとして働き始めた私ですが、今回、1980年代を中心に思い出すままに書きとめてみたいと思います。



スタッフ(左から 山内 亮、高木 義隆、吉澤 敬子、南野 馨、福田 新之助)

印象深い作家たち

展覧会の内容は、絵画、彫刻、版画、陶芸、写真、インスタレーションなど多様です。

オープン直後から、「走泥社シリーズ」「華麗なる変身シリーズ」「Ceramic Site」「ペインタリアネス」「無作為の作為」「平面を這う立体作品」「装飾の原点」「褻のものを晴れのものに」「いとおいしい美術を求めて」など、鳥山は独自の企画展を多数開催しました。

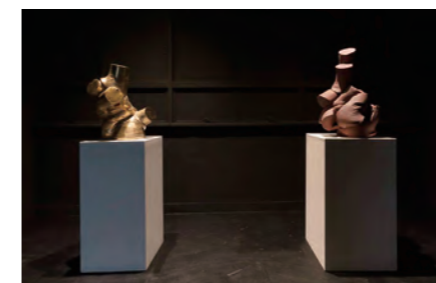
大芸の先生方、陶芸の山田光さん、林康夫さん、柳原睦夫さん、田嶋悦子さん、大原千尋さん、三木陽子さん、秋永邦洋さん、画家の泉茂さん、津高和一さん、元永定正さん、矢野正治さん、近藤佐江子さん、長尾圭さん、中川佳宣さん、彫刻の増田正和さん、伊藤隆さん、染織の金田恵美子さん、竹垣恵子さん、版画の持田総章さん、山本善一郎さん、安井寿磨子さん、大山幸子さん、デザインの喜多俊之さんなどに展覧会を開催して頂きました。三村逸子さん、山本修司さん、松井浩一さん、西村充さん、堤展子さん、冬耳さん、増田敏也さん、金理有さんなどの卒業生にも次々と発表して頂いています。

1980年代は大作が多く、平面、立体を問わずインスタレーションも多数ありました。

特に印象的だったのは、陶による大作です。

短大の堀野利久さんは、短大で教鞭を取りながら、コンスタントに展覧会を開催しています。

当初から圧巻という言葉がぴったりの天井に届く程の陶彫作品を制作されていました。また毎年作品のテーマを変化されるのも特徴です。円、地藏、亀、犬、人物、御所車、器と言った形体であったり、形が無かったりです。抽象的な作品で印象的だったのは、2015年の「無作為の作為」という強固な作品で、陶芸作品のみならず、ブロンズでも制作されました。



堀野 利久(2017)



堀野 利久

短大、美専で版画を教えている大船光洋さんは、美専、短大、大芸を卒業された稀有な存在です。美しいシルクスクリーン作品を発表する作家として、また、同時に丁寧な先生としても学生たちに慕われています。

スタッフでもあった大芸卒の福田新之助は、モノタイプ

の版画作品、彫刻、ドローイング、タブローとジャンルに捉われない作品を制作しています。

3年生でグループ展を申し込みに来る程、早熟でした。在学中から、浜本隆司さん、中澤てるゆきさんとTRIOと言うグループを結成したり、他のメンバーとの企画展を開催したり、個展も毎年開催し、今も発表し続けています。また、海外に行くなど活発な活動をし、周りの作家たちに大きな影響を与えました。

大芸の南野馨は、無数の陶のパーツを組み合わせた作品を制作しています。現在、大芸などで教鞭を取りながら、毎年、個展、グループ展を開催。ギャラリー白では展覧会の写真撮影とHP制作の仕事もしてくれています。初期の作品から「高性能なものは美しい」と言うコメントを書いていました。色彩も主に白と黒に限定し、画廊空間のみならず、美術館や屋外でも耐え得る大作を生み出しています。



福田 新之助(2016)



TRIO EXHIBITION(2023)



南野 馨(2016) 185.0(h)x195.0(w)x195.0(d) cm

30代で東京の原美術と三重県立美術館で個展を開催し、他に類を見ない程の画家として活躍した館勝生は残念ながら45歳で亡くなりました。亡くなる直前まで作品制作と共にギャラリー白の作品撮影とHPの仕事をしていました。国立国際美術館、京セラ美術館、和歌山県



館 勝生 (2018)



高木 義隆 (2020)



山内 亮 (2023)

立近代美術館、愛知県立美術館、三重県立美術館、甲南大学などに作品が収蔵されています。

その他、高木義隆、山内亮など、ほとんどのスタッフが作家として、今も活躍中です。

塚本学院以外でも、赤松玉女さん、青木野枝さん、伊藤誠さん、遠藤利克さん、大城国夫さん、河崎晃一さん、川俣正さん、清水六兵衛さん、重松あゆみさん、善住芳枝さん、辰野登恵子さん、日比野克彦さん、福嶋敬恭さん、福田匡伸さん、森村泰昌さん、山部泰司さん、渡辺信明さん、渡辺智子さんなど印象的な作家は枚挙にいとまがありません。

印象的な画廊

近隣画廊のオーナーで印象的な方が沢山おられました。信濃橋画廊(1965年-2010年)の山口勝子さん。大阪府立現代美術センターにて、一緒に参加していました「大阪現代アートフェア」[画廊の視点]での会議での発言が的を得ていて素敵でした。信濃橋画廊では、尾崎実哉さん他の展覧会が開催されました。

番画廊の松原さんは、毎週、あちこちの画廊周りをされていて、よくご一緒させて頂いていました。美術館のオープニングにも連れて行って頂きました。

泉茂さん、山中嘉一さん、河合隆三さん、田中昇さん、坪田政彦さん、呉本俊松さん、高橋善丸さん、杉崎真之助さん、川島慶樹さん、阿部真理子さん、三澤浩二さん、町谷武士さん、坂井淳二さん、川北博子さん、竹崎勝代さんなどの展覧会を開催されていて、番と白で「バンパク(万博)」と呼ばれていました。

他に近隣で印象的だったのは、カサハラ画廊(1972年-2003年)、靱ギャラリー(1978年-1985年)、画廊みやざき(1969年-1997年)、ONギャラリー、ギャラリークオーレなど。

現在も活動されている画廊では、伊藤均さん、中西學さんの展覧会を開催されている天野画廊の天野和夫さん。日下部一司さんの展覧会を開催されているOギャラリーeyesの唐木満さん。

辻司さん、菅原二郎さん、坪田政彦さん、坪田昌之さん、高橋亜希さんの展覧会を開催されている山木美術の山木武夫さんなどがいらっしゃいます。

活動内容

ギャラリー白は、画廊以外の場でも活動をしています。1980年代から、心齋橋パルコ、なんばCITY、キリンプラザ、京阪百貨店、国内外のアートフェアなどの展覧会

企画、出展、開催をしていました。企業が元気な時代でした。特につかしんなどの西武の動きが活発だったと覚えています。現在も、毎年、京阪神で現代美術の現場にかかわる画廊による「gallerism」や各百貨店との活動を続けています。

案内状の制作も多様です。ハガキから、カタログ、ポスターなども制作しています。

鳥山は、早くから、カタログ制作に力を入れていました。かつて大芸に勤めておられた村松寛さん、高橋亨さんをはじめ、木村重信さん、乾由明さん、建島哲さん、村田慶之輔さん、宮島久雄さん、篠原資明さん、谷新さん、中井康之さん、安來正博さん、尾崎信一郎さん、奥村泰彦さん、マルテル坂本牧子さんなど色々な美術館学芸員や評論家の方々に案内状やカタログにテキストをたくさん頂いています。

時には、学芸員さんと作家によるギャラリートークも開催しています。

「YES ART」(1982年-1990年)と言う若手作家の展覧会については多くの方々の記憶に残っているかと思います。最初は、大阪芸術大学、京都市立芸術大学の作家を中心とした企画からスタートし、東京、福岡、その他の作家さんたちにも参加して頂いたりしました。



YES ART

会場も東京の佐賀町エキジビットスペースなどに協力して頂いたり、企業では、ハインケンやサントリーからビールが届くと言う協賛もありました。好景気が後押ししていました。1990年代は、バブル崩壊の影響が色濃く、美術館、画廊、作家さんたちにも大なり小なり影が差してきました。その上に、1995年の阪神淡路大震災が心まで凍らせた時代でした。

しかし、作家さんたちのエネルギーによって、前を向いて行こうと思え、随分助けて頂きました。

2002年2月2日に鳥山の体調を考慮して一旦ギャラリー白を閉廊しましたが、体調が良くなり、9月30日にデザイナーの今竹翠さんのお誘いで、現在の西天満4-3-3星光ビルの2階で再開しました。

今竹さんには、1979年の開廊時にも場所のご紹介と内装をして頂きました。当時、今竹デザイン事務所は、オーバンドやメンソレータムのデザインを手掛けた今竹七郎さん(1905年-2000年)がいらっしゃいました。

新しいギャラリー白のこれから

2013年に鳥山が亡くなり、どの様に継続しようかと思案していたところ、2016年にお世話になっている作家さんたち10名の方々に支援して頂き星光ビルを購入しました。

会場も3部屋に増やし、shopも作り、天野画廊さん、gekilin.さんにも入って頂き、「白ビル」「ギャラリービル」と呼んで頂く様になりました。

キャリア53年の天野画廊の天野さん、44年の私、13年のgekilin.のイノマサリさんと、企画内容も顧客さんも異なる画廊の共存は頼もしく、素晴らしい相乗効果を発揮していると自負しています。イノさんは大芸卒で、現在教鞭をとられています。

ただ、残念ながら、ビルの老朽化は致し方なく、2024年末をもって、ビルを手放なそうと思っています。数え切れない方々に支えて頂いたことは、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後の活動は、若い方たちにバトンタッチして、後方支



現在のギャラリー白外観(星光ビル)

援していきたいと思っています。引き続き、よろしく申し上げます。

作家になる

最後に、これから、作家になろうと言う方々へ一言。作家として、大学卒業後に、コツコツと制作をし、教師などをして働きながら、毎年展覧会を開催し続けることは、容易ではありません。

アトリエ、倉庫などを保つことも大変かと思えます。作家、恩師、先輩、友人、コレクター、美術館、画廊の方々が、たくさんの方針を示してくださっています。相談にも乗ってくださいます。

続ける事も才能のうちです。ひとりでも多くの作家に発表を続けて欲しいと思います。画廊はその助けになっていると信じています。

今回、「WINGS」企画広報委員の田村昭彦さんから西天満界限の画廊についての執筆のご依頼を頂きました。展覧会をされた方は他にも多くいらっしゃいます。紙面の都合で今回は掲載することができませんでした。改めて、開廊当初からのことを思い出す素晴らしい機会となりましたことに深く感謝しています。ありがとうございました。

ギャラリー白 吉澤 敬子

吉澤 敬子(よしざわ けいこ) プロフィール

- 1957年 奈良生まれ。
- 1979年 10月有限会社ギャラリー白開廊時から、学生アルバイトとして勤務。
- 1980年 追手門学院大学文学部心理学卒業
- 2002年 2月ギャラリー白閉廊。
- 同年9月 現在の星光ビルにて再開。
- 2013年 5月ギャラリー白オーナーの鳥山健が亡くなり後継者となる。
- 2016年 5月有限会社星光ビルオーナーとなる。

ギャラリー白

〒530-0047 大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル
TEL/FAX 06-6363-0493
E-mail:art@galleryhaku.com Web:http://galleryhaku.com/

母校愛のきずな
親子二代
Vol.12

上田 和典さん
真由美さん
昌さん 親子



上田家(ノートギャラリーにて、展示は谷森ゆかりさん(美術学科)の個展)

Profile

上田 和典 Ueda Kazunori
学生番号 T83-013
1986年度 大阪芸術大学 芸術計画学科 卒業

上田 真由美 Ueda Mayumi (旧姓 古川)
学生番号 F86-108
1989年度 大阪芸術大学 美術学科 卒業

上田 昌 Ueda Aki
学生番号 Q16018
2019年度 大阪芸術大学 キャラクター造形学科 卒業

早速ですが、3人にお伺いします。

大阪芸術大学に進学しようと思われたのはどのようなきっかけだったのでしょうか？

父の和典さん(以下、父)

父：美術が好きで、自分の興味のあることを深く学びたく、地元大阪の芸大を受験しました。

母の真由美さん(以下、母)

母：小さい頃から絵を描くことが好きでした。父親が大阪芸術大学への進学を勧めてくれました。

息子の昌さん(以下、子)

子：高校生の時小説にはまり、自分でも何か作品が作りたくて、創作を学びに大阪芸大に進学しようと思いました。

息子さんにお伺いします。

ご両親がそれぞれ、大阪芸術大学の芸術計画学科と美術学科の卒業生でいらしたわけですが、進学をされるときにきっかけのひとつになりましたか？

きっかけになったとしたら、具体的にはどのようなことだったのでしょうか？

何か影響を受けられたことなどございましたか？

子：複数の大学で悩んでいた時に、両親からの勧めで大阪芸大に決めました。

ご両親に伺います。

息子さんが大阪芸大に進学されることをどのように感じられましたか？

父：自分の好きな道を歩むためのステップとして良い選択だと感じました。私自身美術に携わる仕事に就かせていただき、大阪芸術大学を卒業させていただいたことが様々な場面で大きな支えになっています。

母：息子が大阪芸術大学へ進学したことにより、また母校とご縁につながったことをうれしく思いました。先生や友だちのみなさんと交流して創作する楽しさを広げていってほしいと思いました。

3人にお伺いします。

学生時代に影響を受けた先生を教えてください。

また、印象に残ったことなど教えてください。

父：赤瀬川原平さんの著書に影響を受け、まだ見ぬ美や美術の冒険に思いを馳せいつもワクワクしていました。



上田真由美さん(母)の学生時代の写真(写真の左端)

母：泉茂先生です。私に作品の見せ方など、幅広い視点を持つようお話して下さったことが印象に残っています。先生の雲形定規を使った色彩豊かなお作品が好きです。



小池一夫先生と特別授業にて

3人にお伺いします。

もしよろしければ、現在のお仕事についてお話しください。

父：日本画・洋画を扱う画廊で仕事をしています。

家内の仕事のサポートもしています。

母：現代美術を扱うノートギャラリーを運営しています。大阪芸術大学出身の作家さんとも一緒にお仕事をさせていただいています。2024年3月には石原三加さん(工芸学科卒業)の個展を予定しています。

子：イラスト関係の仕事をしています。

子：小池一夫先生です。

特別授業で来てくださったときに、創作の心構えや創作のコツなどを教えていただき、今でも思い出します。

3人にお伺いします。今後の展望或いは目標のようなものがあれば教えてください。

父：画商として先輩方の仕事を引き継ぎ、現代日本画の伴走者でありたいと思います。

母：数年前から自然やお茶の文化に興味を持ち勉強しています。今運営しているギャラリーを総合芸術の視点からユニークな現代美術のギャラリーにできればと思っています。



ART OSAKA 2023 Expanded 会場
《大阪芸大卒業生出展者》長谷川政弘さん(工芸学科)、釜本幸治さん(工芸学科)



ART OSAKA 2023 Galleries 会場
《大阪芸大卒業生出展者》谷森ゆかりさん(美術学科)、西 崇さん(工芸学科)、大船光洋さん(美術学科)

子：まだまだ未熟で学ぶことが多く、早く一人前になりたいです。

最後に母校や校友会に対して期待していることなどございましたらお話しください。

父：様々なところで卒業生の方にお会いすることができてうれしく思います。みなさまのますますのご活躍をお祈りしています。

母：さまざまな展覧会を拝見に伺うと大阪芸大の卒業生のみなさんのお作品に出会う機会があり励まされています。みなさんのご活躍を心よりお祈りしています。

子：お仕事などで大阪芸大出身の方とご一緒する機会がより一層増えることを期待します。

この度はお忙しい中、取材協力していただき、有難うございました。

文責/企画広報委員 竹垣 恵子・高橋 亜希



ノートギャラリーの庭。茶室をイメージして作られたギャラリー。



ノートギャラリー(内観)。美術学科卒業の谷森ゆかりさんの個展。

ノートギャラリー

573-0057
大阪府枚方市堤町8-15
12:00 ~ 17:00
火・水 休廊
URL:
notegallery.jimdo.com

展覧会情報(大阪芸大卒業生関連)

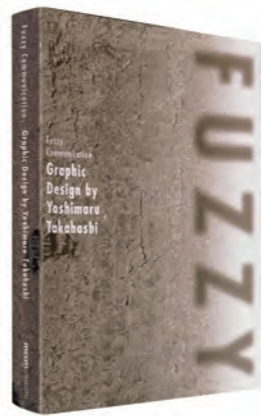
2023年
11月5日(日)-25(土) 長谷川真由美さん(前号親子二代に掲載) 個展も開催します。
2024年 予定
3月 石原三加さん(工芸学科)
5月 佐川好弘さん(大阪芸術大学短期大学部)
6月 山村幸則さん(工芸学科)

多くのアート系の著書を持つ高橋善丸先生 この秋また新刊を上梓しました。

情報のデジタル化にともない、この頃本を読む学生はすっかり減っていますが、意外に書籍のファンも根強く、書店はにぎわっています。それは書籍には情報だけではなく、特有の存在感や所有感が愛着を持つ対象となるからでしょう。高橋先生はこの所、そんな書籍に拘って出版活動を続けています。通常書籍は、企画、編集、執筆、撮影、デザインなどの役割分担によって作られているのですが、彼の場合はその全てを1人でやることに拘っています。それは本を単にメディアとしてだけでなく、一つのオブジェと捉え、彫刻作品を作るように取り組んでいるからです。そんな中から主な著書を3つのジャンルにわけて紹介します。

デザイン書シリーズ

『こちいい文字』は、文字デザインの制作手法を作例を通して紹介する本です。ロゴタイプ制作を8段階のステップで紹介し、続いてフォントなど文字デザイン制作関連を語っています。この本は好評を得、3版の他中国や台湾での出版もされました。続いてブックデザインの制作手法を紹介したのが『こちいい本』で、シリーズ展開となりました。『曖昧なコミュニケーション』は、日本人の美意識を独自にカテゴライズした所から自身の作例を語るというもの。これは、ドイツのハンブルク美術工芸博物館で展覧会をした時の図録もかねており、同美術館の発行です。



『曖昧なコミュニケーション』
ハンブルク美術工芸博物館
MCMCcreation

レトロコレクションシリーズ

本人のコレクションによるシリーズです。『くすりとほほえむ元気の素』は、昔の売薬さんの薬のパッケージ千点を、時代別にデザインと背景を紹介しています。『レトロな印刷物ご家族の博物紙』は、ラベルデザインを、家族それぞれユーザーの立ち位置に分けて紹介しています。これらから時代背景がよく捉えられると同時に、心和ませる懐かしさを楽しめます。壺中天をもじった『箱中天』は、往年の小さな箱に施された様々な工夫を紹介しています。旅に携帯するなど、極小の容器の中にかに多くの機能性を持たせるかに挑んだ、当時の匠たちの努力とアイデアの結晶です。



左より『箱中天』、『くすりとほほえむ元気の素』、『レトロな印刷物ご家族の博物紙』
光村推古書院

アート書シリーズ

幻想耽美というアートシリーズで、著書というより企画から編集、デザインまでをしたものです。『幻想耽美』は、耽美で退廃的な現代アート作家を集めたディープなファンのために企画したのですが、好評を博したのでシリーズ展開となりました。『幻想耽美Ⅱ』はカテゴリーを広げ、シリーズ3冊目は世界の幻想耽美とし、『Dark & Fetish』のタイトルで海外同時発売をしました。いずれもサブカルチャーとして見られていた領域を、あえて純粋美術との壁を作らずに同列で紹介し、開放的にアートシーンを見ていくことに拘っています。



左より『幻想耽美』、『幻想耽美Ⅱ』、『世界の幻想耽美』
パイ・インターナショナル

この秋の新刊

先月発刊されたばかりのあたらしい本『暗き麗女たち』。これは現代の風潮として、明るく元気でポジティブな人たちがばかりが求められる中、それらに背を向けながらも、憂いを含み知的で思慮深く美しい人たちの魅力に認識を新たに注目し、その絵画的表現の作家を集めました。この「暗い」というネガティブな言葉を、これからの時代に求められる要因の一つではないかと考え、あえて肯定的に捉えテーマとしています。

情報がデジタル化しても、愛される宝箱としての書籍需要はまだまだ続くでしょう。



『暗き麗女たち』
パイ・インターナショナル



高橋善丸 (アートディレクター)
ブランディングからブックデザインまでタイポグラフィを主軸としたデザインを研究し、アジアから欧米までの大学や美術館での、講演、審査員、企画展等に多く取り組んでいる。大阪芸術大学教授、デザイン学科長。中国寧波大学客座教授。株式会社広告丸主宰。日本タイポグラフィ協会理事長。1975年大阪芸術大学デザイン学科卒業。
HP www.kokokumaru.com



右より『こちいい文字』、『こちいい本』
パイ・インターナショナル
台湾繁体字版(2冊)/龍溪図書
中国简体字版/重慶大学出版社

高田雄吉

大阪芸術大学デザイン学科教授
グラフィックデザインコース



「高田雄吉ミュージアムショップ展」を8月7日から19日まで大阪堺筋本町の不二画廊において開催。サントリーミュージアム天保山や神戸ファッションミュージアム、近つ飛鳥博物館のミュージアムショップで販売したグッズに新作を加えた、グラフィックデザインでのプロダクトと言える作品です。

①はウクライナ支援のための Tシャツです。過去にウクライナの4th Block エコポスタートリエンナーレで奨励賞を2度いただいたご縁もあり、売上の80%をピースポート災害支援センターを通じてウクライナに寄付させていただきます。

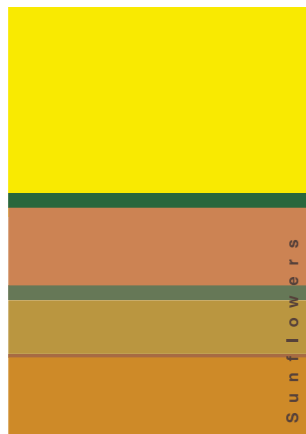
②百舌鳥古市古墳群クリアフォルダ、③Color Palett ポスターカード「ゴッホ：ひまわり」、④シートカレンダー



①

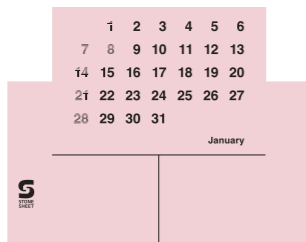


②



③

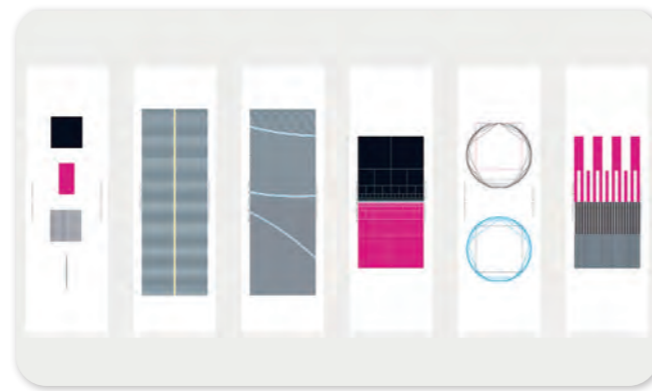
高田雄吉 Yukichi Takada
大阪芸術大学デザイン学科 1976年卒。
主な仕事に近鉄不動産ローレル、山陽電鉄、
プライトンホテル CI など。主な受賞に、愛知
万博誘致シンボルマークグランプリ、ウクラ
イナ 4th Block 奨励賞、ジェシュア国際シア
ターポスタービエンナーレ特別賞。JTA 理事、
NYTDC 会員、DAS 理事。著書に「ロゴ・ロジッ
ク」、「タイポグラフィ・ペインティング」。



④

杉崎真之助

大阪芸術大学デザイン学科教授
株式会社真之助デザイン代表
1975年 大阪芸術大学卒 (D1083)



展覧会

「カタチのキモチ FEEL of FORM」を開催。

真之助デザインが創立40周年を迎えた2023年、8月1日から9日まで平和紙業ペーパーボイス大阪で「カタチのキモチ 杉崎真之助デザイン FEEL of FORM」を開催しました。これまでのグラフィックデザインの軌跡を経て、これからのつくる、伝える、つなぐへ。キモチから生まれたカタチがキモチに届くことをテーマに制作した展覧会です。オープニングには多くの方が来場し、ゼミの大学生や若いデザイナーの姿も目立ちました。

展示した大型作品16点は、それぞれ長さ約3mの和紙に文字、造形、色彩などのカタチを表現し、日本語と英語のコピーを組んでいます。視覚的なカタチを印象的なコトバとともに提示することで、キモチとキモチを自然につなぐコミュニケーションをめざしました。とくに注目を集めたのは「点で始まり点で終わる」や「文字は重なり交わる」「色は多くを伝える」などの作品。ポスターではなく掛け軸を並べたような独特の展示方法も好評でした。

また会場では書籍「40 1983-2023 shinnoske DESIGN」の試作版も展示しました。これはあまり目に触れることのない事務所の日常シーンを大量のスケッチや試作、風景のスナップなどで構成したビジュアルブック。完成版は近日発行予定です。



交感するアート展

in shibatacho

2023年10月19日~23日

信州と関西の作家の交流を目的に、両地で交互に開催。今年で、30回を迎えた。(30名の出展)
関西からは塚本学院(大阪芸術大学グループ)の卒業生が多数出展している。



井本 雄三(上)
東陰地 正喜(左)

松井 公一



伊賀 幸雄

鎌倉 俊文

高澤 圭多



竹垣 恵子

関西：伊賀幸雄・石田 早・井本雄三・坂本政幸・
迫畑和生・竹垣恵子・中谷悦子・服部年弘・東陰地
正喜・平田正行・松井公一・わらびもち 他

信州：鎌倉俊文(長野市)・豊田富晴(飯綱町)・
野原未知(青木村)・岡澤孝昭(長野市)・中部黒石
(長野市) 他

これ程長く続いている交流展は珍しいと思う。毎回
拝見しているが、今回も立体・半立体・映像・平面
等々楽しめる展示内容であった。

企画広報委員 田村 昭彦

プチギャラリー Wings

大阪芸術大学附属
大阪美術専門学校

作品サイズの単位は mm



本物の自画像
川西 広也
1620×1300
油彩/キャンバス



あんぱんほっぺ
福崎 美珠
1620×1300
油彩/キャンバス



AGALLEYES
高木 颯
453×604
シルクスクリーン/紙



優しい生物(ピンク)
森原 陽菜
653×503
シルクスクリーン/紙



猫のお面
中山 滯
H 155×W 135×D 35
打ち出し/銅



赤子の心
中野 豊和
H 338×W 273×D 40
打ち出し、緑青、硫化仕上げ/銅



淡路島産のたまねぎ
深井 菜々子
H 180×W 210×D 200
手捻り/陶土



猫壺
北川 優佳
H 310×W 250×D 230
(猫)手捻り、象嵌/信楽土、赤土、白化粧、
コバルト、垂鉛結晶釉、透明釉
(マフラー)こま編み/アクリル毛糸

ちから 工芸の



工芸のちから2021展 あべのハルクス近鉄本店 会場展示風景

工芸学科では2016年より「工芸のちから」展という展覧会を開催しております。この展示は、工芸学科ガラス工芸コースでご指導されておられた故内村由紀先生の「卒業生たちの制作活動を応援したい」との思いから「日常のガラス」と題して、若手ガラス作家展をあべのハルクス近鉄本店にて開催したところからスタートしました。



工芸のちから2021展 あべのハルクス近鉄本店 会場展示風景

翌年の2017年には陶芸コースが加わり「ガラスと陶の新進作家展」として開催、続いて2018年には、テキスタイル・染織コース、金属工芸コースが加わり工芸学科4コース全てが参加する「工芸のちから～大阪芸術大学工芸学科新進作家展～」へと発展しました。2019年には、会場内に教員ブースを増設し、これまで以上に卒業生と連携しながら展覧会を進めました。年を追うごとに展覧会を楽しみにご来場いただく方も増え、これから活動の機会を増やしていきたい卒業生の貴重な発表の場となってきました。

そんな中、2020年には工芸学科が創設50周年を迎える年になり、これまでの工芸のちから展に「新進作家展」「選抜作家展」「教員展」の3つの柱を立て大規模な記念展を企画しました。しかしながら世界で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響で、中止を余儀なくされ、工芸学科50周年記念を含めた展覧会出品予定者の図録を発行するのみとなり、記念の年を終えることになりました。

その後のさらなるパンデミックは、感染対策として人間同士の距離を取ることや、リモートワークでの活動が推奨され、素材を通して人と人が直接対話し、響き合いながら存在する工芸分野にとって、非常に大きな影響を与えるものとなりました。

コロナ禍の厳しい状況下で、様々な活動の可能性を模索する中で、こんな時だからこそ「卒業生たちの制作活動を応援する」という内村先生のご意思を繋げ「もう一度みんなで力を合わせて工芸のちから展を開催したい!」との思いのもと、金属工芸コースの長谷川政弘先生が実行委員長を引き継がれ、工芸学科創設50周年記念事業、3本柱の1つとして、記念の年から一年遅れの「工芸のちから2021」が開催されました。

2021年展では、これまでと同様に卒業したばかりの新人作家、新進作家に加え幅広い年代の経験豊かな作家、

総勢45名が参加。1年のブランクがあったものの、この展示の再開を心待ちにご来場いただくお客様も多く、また工芸学科の在學生も多数見学に訪れ、先輩作家と熱心に交流する姿も見られました。こうして工芸学科が再び丸となって開催した2021年展では、工芸学科出身の作家の魅力、造形美のセンスを広く知ってもらおうと共に、目標を大きく超える成果となり、出品作家の作品に対する情熱が結果にも結び付く充実した展覧会となりました。

またこのあべのハルクス近鉄本店での展示販売形式の工芸のちから展は現在、卒業生有志が自主的に企画・運営し、工芸学科がバックアップする形で継続しており、様々なジャンルの工芸表現の場として根づきつつあります。



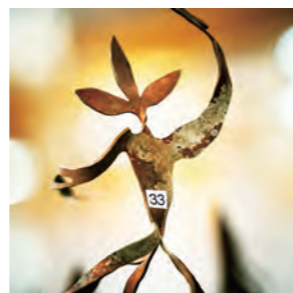
ガラス工芸コース作品



陶芸コース作品



テキスタイル・染織コース作品



金属工芸コース作品

続いて2022年には、大阪芸術大学の芸術情報センター展示ホールで「工芸のちから2022-教員・スタッフ展-」を開催しました。普段から実習授業では密に連携していますが、作品発表についてはそれぞれが独立して活動しており、工芸学科4コースに所属する全ての教員、スタッフ総勢45名の作品が一堂に会する展覧会は、これまでにない試みの中での展示となりました。会場では、キャリアや立場に関係なく参加者全員がフラットな状態で発表し、それぞれの作品の純粋な魅力を感じていただけるように構成しました。

学会会場での展示は在學生にとっても、授業を担当している先生やスタッフの作品を間近で見て、疑問に思ったことを質問したり、仲間同士で感想をすぐに共有したりできる場となりました。また専攻コースの教員やスタッフの作品はよく知っている、それ以外のコースの作品を全て見ることが出来る機会はありません、様々な方向性が勉強できる



工芸のちから2023展 会場内展示風景



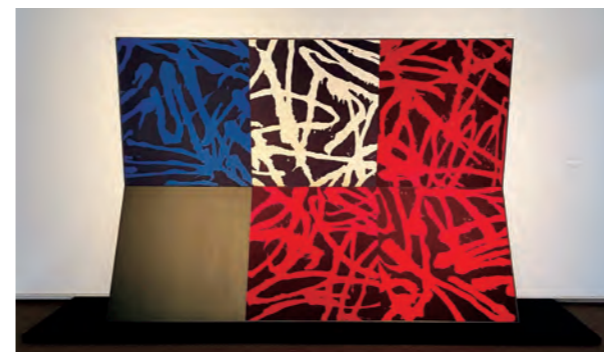
誠実な口調で白磁に取り組んでいった日々を語る前田昭博先生



滑らかでしっとりとした質感に面取りが陰影をあたえる前田先生の「白瓷掬面取壺」

貴重な展示になったのではないかと思います。

2023年の工芸のちから展では、この2022年展の経験を踏まえ、展覧会内での関連イベントを企画しました。展示会場では「工芸のあゆみ」として、これまでに工芸学科の礎を築かれ2代目学科長を務められた故本野東一先生の作品を展示しご紹介させていただきました。蠟をヤカンに入れて注ぐことでダイナミックなイメージを生み出した本野先生のろうけつ染めの作品は非常に斬新な構図で展示され、長い年月を経た作品とは思えない迫力で会場を盛り上げていただきました。



蠟をヤカンに入れて注ぎダイナミックなイメージを生み出した、故本野東一教授のろうけつ染め「Color No.5」



銀澄を溶着した吹きガラスの表面にイメージを描くことで静謐な世界観を生み出した山野宏教授の「Drawing on the Vessel」

また会期中のオープンキャンパス開催に合わせたスペシャルイベントとして、工芸学科の卒業生で客員教授の前田昭博先生（重要無形文化財保持者/人間国宝）による特別講義を開催しました。

ご講義では、ご自身の作品について、あえて有田などの本場の地で修業しなかったこと、そして数えきれない失敗の先に独自の技術を生み出してきたからこそ、身についたもののお話や、ご経験から様々なアドバイスをいただき、これから独自の造形表現を目指す卒業生、またオープンキャンパスに参加した未来の作家を目指す高校生にとって、ものづくりへの向き合い方の大きなヒントになったことと思います。加えて2023年展からは、同時開催企画の作品展「工芸のたまご」を開催しました。この展示は工芸学

科の4年生全員が参加する初めての試みで、金属工芸、陶芸、ガラス工芸、テキスタイル・染織の4コースから2名ずつ選出された実行委員を中心に展覧会の全てのことを学生主体で運営します。会期中は学生たちが交代で会場に立ち、鑑賞者とコミュニケーションすることでより実践的な感覚で作品と向き合うことができ、確かな手応えを得ることができました。

こうして、2016年よりこれまで様々な形を模索し、回を重ねるごとに経験と反省を次に生かしながら進んできた「工芸のちから」は、まさに失敗を繰り返しながら、直向きに造形表現を追い求める工芸の作品制作そのもののような気がしてなりません。時代がどのように変化しても決して無くなることのない工芸、コロナウイルスが猛威を振るいデジタルツールの真価が問われたことで、それはより一層確信できるものになりました。またかつてのアナログ時代からデジタル社会へと進んだ現在、それは新しい次世代のアナログとして、ものづくりの未来へ繋がるのではないのでしょうか？

最後に、2016年よりこれまで展覧会の開催にあたり多大なるお力添えをいただきました大阪芸術大学、大阪芸術大学校友会の皆様、ご来場いただいた皆様に深く感謝申し上げます。今後も工芸学科は、創造力を養い、伝統を尊重しながらも未来への架け橋となる才能を育む場として日々研鑽を深め、ものづくりのちからが大きく広がっていくことを願っています。 工芸学科一同



吹き抜けから陽光が燦々と注ぎ込むアートホールに学生たちの作品が展示された



展示スペースの奥まで鑑賞者を引き込むよう回廊のエントランスにはテキスタイル・染織コースの作品を中心に展示

新企画 まだ道の途中! 応援します卒業生。

『面より点で』ogurock 地元からの放物線

取材・文責 / 企画広報委員 和田 貢 ■現地取材協力・撮影 / 古市 真崇 (写真学科2010年卒)

夢に向かって頑張っている卒業生、その道半ばにスポットをあててみました。今回は三重県を中心に地道に活動範囲を広め、地元で活躍するミュージシャン 小黒真平さんをご紹介します。舞台芸術学科を卒業し、大阪で放送関係などの仕事を経て、地元(伊勢市)に帰り、ストリートミュージシャンとして活動を開始、全国を5年かけて飲食店やライブハウスを行脚し、完遂後、三重県では沢山の出演オファーを受け、ライブ活動を軸にラジオ・TVにも活躍の場を広げています。



『ogurock』こと小黒真平

れていなかったようです。周りでは目指すところに行くために強い意志をもって、日々勤勉に頑張っている学生が沢山いましたが、思えば私にはそこまでの決意がなく、おぼろげなビジョンしか描けていなかったようです。当時、舞芸(舞台芸術学科)は『USJ』や『劇団四季』などを目指す学生が多く、今では双方で活躍している舞芸の卒業生が沢山います。あのころ目標に向かって努力を重ねていた学生たちです。私もあこがれだけが先行しつつ、ショービジネス系に就職チャレンジしましたが、結果は惨敗でした。

和田：で、結局どうになりました？

小黒：今から思えば、伊勢を出る動機付けが大学入学になっていたような気がします。あこがれの世界には到底到達できないことを知り、挫折感と虚無感を味わいました。その後TV局スタッフのアルバイトやライブハウスの裏方などの仕事をしていましたが、追いかけていた夢も敗れ敗北感のみを背負って過ごしていました。

●郷里で挫折感を払拭

和田：失礼ですけど、そんな小黒さんが何故ストリートミュージシャンに？

小黒：あることがきっかけでした。

2013年、伊勢で行われた式年遷宮です。伊勢の



伊勢神宮 式年遷宮の「お白石持行事」に地元の仲間たちと参加中の小黒さん

実家は鰹節屋ですが、伊勢神宮両宮正殿の造り替えのとき御垣内に敷き詰める白石を神領民が奉納する行事に「お白石持行事」があるのですが、その行事にちなんだ町内の祭りを父をはじめとする町内会で取り仕切っていました。当時は町内で参加できる若者が少なく、若衆として参加してほしいとのことでした。夢敗れた時でしたから、都落ちの心境で『とりあえず帰ってみるか?』で帰省したのが27歳の時です。

和田：そこから『ogurock』が始まるのですね!

小黒：まだ先なんです。父は家業の鰹節屋を自分の代で終わらせようと思っていたのですが、私個人としては、ご町内の皆さんと働くことを大切にしたいので、すぐ近くの塩業屋で働くことにしました。始まりは、父が望んでいた式年遷宮の「お白石持行事」に参加しはじめてからです。

和田：郷里での再スタートはどうでしたか？

小黒：塩業で仕事をしながら、「お白石持行事」に参加しているうちに、町民が式年遷宮と同じ目標に向かって、結束してひとつのことに取り組む姿勢が、舞台をつくる過程と合致しているように思えてきたのです。また町内の皆さんからも地元民と



音楽好きの父親が残してくれた自宅のスタジオに仲間が集まれば即、セッションが始まる



鰹節販売の小久保商店を妻と二人三脚で切り盛り!仕事の合間を縫って積極的にライブ活動を展開



ということで、ウエルカムしていただけたのも、都落ちの心境から地元で、伊勢で、認められる人間になってみようという思いへと変わってきました。『伊勢っていいところだなあ、帰ってきて良かった』と前向きな気持ちになり、目立ちたがり屋の自分が活躍できる、かつて芸大で目指していた光り輝く世界が、規模は随分小さくなりましたが、ここ伊勢には有るのでは…と思い始めたのです。行事は2年間続けました。



『ogurock』路上ライブの原点まんぶく食堂前

●『ogurock』本格的に始動

小黒：仕事や町内の活動にも慣れ、ちらほらと友達も増えだしたころ、趣味のギターやライブハウス、放送関連の仕事をしてたことを聞きつけた知人から路上ライブへの誘いがありました。私の路上ライブのイメージはひとり、もしくはふたりで、



尺八演奏者 竹内 洋司とギターと尺八という異色の構成ユニットでのライブ

2016年、共に日本全国を回る全国行脚ツアーをスタート。三重県内の現場をこなしつつ、2年で40県を回る、途中コロナウィルスの影響で全国行脚は一時停止状態になるが2023年 全国行脚完遂

街角に立って孤独に歌や演奏をする感がありましたので、当初は乗り気ではなかったです。でもいざ行ってみると、伊勢の路上ライブは集団でセッションするのが主流で、アマチュア達が集まって、それぞれの得意分野で共演するかたちになっていました。実家にほど近い宇治山田駅の高架下などがライブ会場でした。宇治山田駅は天皇陛下や総理大臣も伊勢神宮参拝の際に利用されるという由緒ある格式高い駅ですが、駅前高架下の『まんぶく食堂』周辺が集う場所になっていました。

和田：路上ライブに参加し始めて小黒さんの生き方どのような変化がありましたか？

小黒：趣味としてスタートしましたが、集団でひとつのものに向かう楽しさに、のめり込んでいくうちに「お白石持行事」での集団行事と同じ感覚が生まれ、なにかここならやれそうな気持ちが沸いてきました。メジャーなショービジネスの世界にあこがれ、夢破れ挫折を経験しましたが、郷里の伊勢で地元メジャーをめざしてみようか？と思いはじめたのです。そして私に訪れたチャンスは、まさに時を同じくして伊勢・鳥羽・志摩で開催された、『伊勢・志摩サミット』でした。伊勢って『伊勢神宮』や『おかげ横丁』『赤福餅』などは皆さんご存じですが、ほかの告知商材が少なく『伊勢・志摩サミット』で伊勢がブレイクした時、TV局などマスコミがネタを探して伊勢市にも沢山きました。そこで口コミで集団路上ライブを聞きつけた、東海圏のテレビ局からの取材を何度か受けました。一度電波にのると、知名度は一気に加速しました。その時からこの地域発で、路上ミュージシャンのブランディング化を試みようとして活動し、学生の頃に名乗っていた『ogurock』をリスタートさせてみよう



と思いました。その後、同県在住の尺八演奏者竹内洋司さんと知り合い、ギターと尺八という異色の構成ユニットを結成、2014年から洋楽器と和楽器によるコラボライブをスタートしたのです。

●人生の転機がふたたび

和田：全国ライブ行脚の旅を行ったとお聞きしましたが？

小黒：伊勢から発信し始めたコラボライブは口コミで広まり、有料も含め沢山のオファーをいただけるようになって来ました。熱いうちに、この波を地方にも広げようと、全国ライブ行脚の旅を計画し始めました。矢先！父が急死し家業の鰹節屋をどうするのか？という問題に直面、店じまいを考えましたが、納品先である飲食店の皆さんから猛反対を受け、家業を継ぐことに決めました。商売も落ち着いてきた2016年ごろから、全国ライブ行脚の旅を再開しました。都市部のライブハウスは平日に、逆に平日の稼働率が低い地方は土・日・祝を中心に、『伊勢』という小さな街から全国



へ向けて、芸術活動をしている様(さま)を発信したい！』という思いで、きついスケジュールもこなしてきました。今は他府県からも少しずつですが、伊勢ブランドの和洋コラボを聴きに来られる方が増えてきています。そして今年、全国行脚の旅を完遂しました。まだまだ夢の途中ですが、醒めない夢の途中にいるまま、愛する伊勢志摩から音楽を発信する旅を続けて行きたいと思っています。ありがとうございました。

和田：ありがとうございました。



▲『X/Y』尺八演奏者 竹内 洋司+ ogurock
◀ Beautiful Life

『ogurock』としては初の単独名義作品。20歳の頃、よく喧嘩をしている友人カップルを見て、さっさと仲直りしろよと思いつきながら作った曲が、あれから15年の時を経て、誰かの背中を、ほんのちょっとだけ押すための応援歌として僕の中で昇華されました。

小黒 真平 プロフィール

大阪芸術大学 舞台芸術学科 2009年卒
三重県伊勢市在住

『ogurock』として路上ミュージシャン活動を展開。同県在住の尺八演奏者 竹内洋司とギターと尺八という異色の構成ユニットを結成、洋楽器と和楽器による、ありそうでなかった組み合わせのセッションが口コミで広がり、話題を呼び県内外のイベント出演から文化会館・ホール公演・記念式典・祭典・社寺での奉納演奏、ライブハウスから老人ホームに至るまで幅広くパフォーマンスを行っています。時に静かに、時に荒々しく、静と動と和と洋が入り乱れたパフォーマンスの程度は高く、一方では「まるで漫才を見ているようだ」と評される喋りも相まって、好評を博しています。

- 2016年夏 名古屋ポップアーティストライセンス取得
- 2018年春 全国ライブ行脚の旅をスタート
- 2018年夏 初のCD『X/Y』を発売
- 2019年6月 第70回全国植樹祭あいち2019 ゲスト出演
- 2023年春 全国行脚の旅を完遂
- 2024年1月 伊勢市二見町の国定重要文化財、「寶日館」にてワンマンライブを開催予定。他にもCD『Beautiful life』を発売。このミュージックビデオは同級生で友人の大阪芸術大学写真学科卒の古市真崇さんが制作に携わっています。またFM三重の番組などにもゲスト出演し、放送、音楽関係者との交流を通じて、自らの活動を発信中。



撮影/取材協力 2010年写真学科卒
写真映像・ドローン撮影などをメインとする合同会社 World's Edge 代表
古市 真崇さん



校友会から三重県支部設立のお知らせ

塚本学院校友会では県や学科、クラブOBの校友会支部に追随し2024年から『三重県支部』『香川県支部』を設立致します。三重県支部では先立って準備委員会を設立し、卒業生の会員を募集しています。現在2023年の時点で、三重県では松阪、鈴鹿、伊勢、津、伊賀市などから在住の20数名の加入があり、親睦会や情報交換会などを開催しています。今回の取材でご紹介しました、『ogurock』さんや写真学科卒のphotographer古市さんも三重県支部に加入しています。三重県在住のOBの皆さん、気楽にご加入ください。詳しくは塚本学院校友会事務局にお問い合わせください。
〒546-0023 大阪市東住吉区矢田2-14-19 TEL:06-6607-1988まで



大阪芸術大学に入学し、最初に出会う先生のお一人であった前中妙先生が、2022年8月21日にお亡くなりになりました。享年83才。長く基礎造形をご担当され、多くの卒業生の心に残る先生のおひとりだったかと思ひます。有志の皆さんからのメッセージをここに紹介いたします。

企画広報 副委員長 竹垣 恵子

おしゃれな服装に素敵なメガネ、つばの広い帽子。約50年前、前中先生と初めてお会いした時のファッションだ。私の憧れの先生。先生のような人になりたいとずっと思っている。奇しくも先生の御命日は私の誕生日。

大阪芸術大学 特任教授 小野山 和代

先生との出会いは50年前、芸大1回生の時です。生意気な私は研究室にお邪魔してはよく「議論」しました。先生は「頭でっかち」の変な学生に困っておられたと思います。それでもちゃんと相手をしてくださいました。ありがたく思っております。

C3 元中学校教諭 浅野 眞吾

プレハブB棟が、先生との初めての出逢いの場でした。そして若気の至り、先生の研究室に入り浸りの毎日。ズバット本音で時にはユーモアたっぷりに。先生はいつでもどこでもカッコイイ！きつと天国でもカッコイイ！合掌

C7 ノマド研究所所長 杉原 直美(旧姓 佐々木)

先生には、つくることを通して、人として、そして教員としての品格を教わったように思います。先生の書斎にお邪魔したときに、「恵ちゃん自由とはなんやと思う？」と問われたことを、今強烈に思い出します。

C3 大阪芸術大学 教授 竹垣 恵子

トレンチコートの襟を立ててハット帽に大きなサングラス、前中先生の出立ちはキャリアを感じるハンサムレディ。ピシャリと一言でおっしゃるご指導は、厳しくも心温かさが印象的でした。基礎造形の研修旅行で五島列島へ行ったこと、今でも懐かしく思い出されます。

C7 大阪芸術大学 教授 田嶋 悦子



大阪芸術大学通信教育部 教科書「平面基礎」
共著／前中妙 金田 恵美子
家始 繁光 上村 和夫

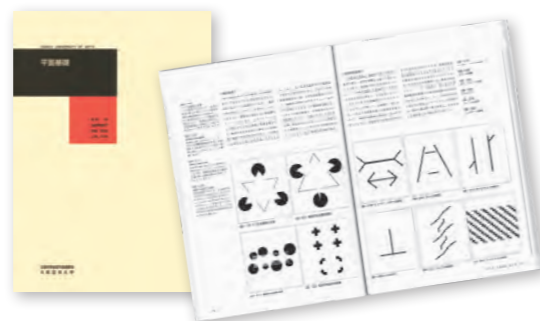


イラスト 松井 公一

第11回 民族芸術学会の大会が大阪芸術大学で開催された。森淳先生からの指名で、前中先生と私が広報を担当することになった。打合せは先生の研究室で、毎回しなやかな美しい形で、おいしいお茶を淹れていただいた。退職されて随分たってから、あの個性的な声で電話をいただいた。用件は猫の事、そして呑みに来いと…。「はようこんと死んでしまおうよ!!」「そのうちきつと参ります。」 合掌

大阪芸術大学 元教授 田村 昭彦

前中先生の思い出

教室の黒板の真ん中に大きな力強い文字で名前を書きながら、「私は前中妙と申します。ご覧の通り、女偏に少ないと書きます。」

新入生ガイダンス第一声でした。

塚本学院校友会 副会長 松井 公一

最寄りの駅が同じ所にお住まいでした。その後引越され随分経った頃、地下鉄でばったりお会いしました。聞けば以前からの美容院に行かれていたと。何十年経っても同じように接してください、思いがけない嬉しい出会いでした。

C3 宮木 久美子

大学生の時、男装の麗人の如く帽子を被り、颯爽と教室に入ってこられた姿が今でも思い出されます。課題の提出が遅れましたが大変お世話になりました。前中先生、ご冥福を心よりお祈り致します。どうか今後とも我々をお見守りください。

C3 九世 吉向 松月(孝造)

浪速短期大学(現、大阪芸術大学短期大学部)デザイン美術科グラフィックデザイン2期の卒業生(1962年)草創期の浪短に、力強いリーダーシップを持った武友正修が在籍した。(2年後の1964年 浪速芸術大学が創立。1966年に大阪芸術大学と改名した。)



酒場川柳 夜目遠目
武友六歩 著
(六歩はペンネーム)
2007年1月1日 発行

夜の川柳 千鳥足
武友正修 著
1996年12月10日 発行



(左から) 娘の美登利さん、武友正修さん、朋子さん

武友さんとの出会いは、同郷 和歌山で、高校の先輩。美術の先生から紹介していただき、浪速短大を知ることになった。

入試対応の鉛筆デッサン等の指導を受け入学。入学後も、武友先輩がリーダーとなり、クロッキーやスケッチ等の特訓を受けた。そのグループ(10名くらいだったか)には奥様の朋子(旧姓 森)先輩も居られたと思う。私はあまり良い生徒ではなかった。塚本英世学長が、ニコニコとして見学にこられた事を思い出します。

そして、岩田専太郎のイラストが大好きだったことも。令和2年11月逝去 享年81才 大先輩 武友正修さんの「人を、ここよく酔わせるユーモアと粋な感性」に献杯。

そして合掌

後輩 田村 昭彦

武友 正修 Masanobu Taketomo

コピーライター/アートディレクター
1964年 和歌山市内に広告の制作事務所
ロクデザインサービス 設立

1939年 和歌山県紀の川市生まれ
農業土木、染織工、国家公務員を経て浪速短期大学卒
大高デザインアソシエーツ勤務



地方広告 / 武友正修 著
2009年2月1日 発行

口説25年武友正修広告文案
武友正修 著 1989年8月 発行



浪速短期大学(現 大阪芸術大学短期大学部)デザイン美術科1回生(第3期生)、2回生(第2期生)
仁川ピクニックセンターでの集合写真 武友正修さん(後列のフラッグ左側)と朋子さん(後列のフラッグ右側)

和歌山における広告デザインの先駆者として活躍され晩年は和歌山の風景のパステル画に打ち込んだ。



塗装工(宇須)



水やり作業(宇須)



和田川(坂田付近)



2018年 武友正修パステル画展より

◆◆奨学生の声

大阪芸術大学 大阪芸術大学短期大学部 大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

◆大阪芸術大学 K・T

この度、塚本学院校友会奨学生に認定頂きありがとうございます。一度社会人を経験してから、大学に入学したので年齢制限にかかって取得できないでいました。制度だと年齢制限にかかって取得できないでいました。校友会の奨学生になったことは本当に嬉しく思います。この1年で制作に関わる材料費が倍近くになってきました。卒業制作で今まで学習したことを全力で出し切りたいと思うと、どうしても材料費が気になっていました。今回の奨学金を頂けたことで制作に集中することが出来ます。残り3ヶ月悔いのない卒業制作になるように、力いっぱい制作したいと思います。卒業制作展で自信をもって作品を発表できるようにしたいと思います。

◆大阪芸術大学 K・S

この度は、塚本学院校友会の奨学金に認定していただきありがとうございます。幼い頃から人と違うことで、息苦しさを感じていた私に、大阪芸術大学で出会った方々が温かく手を差し伸べて居場所を作ってくださいました。この私の人生で経験した事を、これからの若い方々の力になれるように頑張ろうと思います。卒業後も学びを止める事なく、留学していた韓国に戻りワーキングホリデーをする予定です。最後になりましたが、塚本学院校友会会長をはじめ、関係者の皆様、本当にありがとうございます。覚悟と感謝を大切にして、これからさらに頑張ります。

◆大阪芸術大学 短期大学部 T・M

私は現在、大阪芸術大学短期大学部の絵画コースに所属しています。絵の具や筆などの画材は自分たちで購入しなければならぬため、道具一式を揃えるために多くのお金が必要になります。また、私は本学を卒業後、大阪芸術大学への編入を希望しています。編入後も油画を制作する予定なので、今後も画材を購入するには今の経済状況では厳しいと考えていました。ですが、塚本学院校友会奨学金を頂けたことを知った時は本当に嬉しい気持ちでいっぱいでした。塚本学院校友会の関係者の皆様、この度は誠にありがとうございます。奨学金は必要な道具や使用したことのない画材を購入する費用、編入後の学費に使用させていただきます。

◆大阪芸術大学 短期大学部 T・A

私は母子家庭の長女で下にもまだ兄妹がいるため余裕のあるような家庭では無いにも関わらず、芸術大学への進学を許してくれた母に負担をかけまいと自分で工面をしながら生活をしていたので今回の支援金制度にとっても助けられました。この支援金によって、自分の出来ることや可能性が広がり、より一層勉学や作品作りに力が入ると共に、楽しい気持ちが増え上がっています。色々な方に助けていただいて今の自分が居ることを改めて自覚できる機会にもなりました。最後になりましたが、塚本学院校友会会長をはじめとした関係者の皆様、本当にありがとうございます。この支援金を活用し、より一層精進して参ります。本当にありがとうございます。

◆大阪芸術大学 H・A

この度は、令和五年度塚本学院校友会の奨学生に認定していただき、誠にありがとうございます。私は三歳からクラシックバレエを学び、中学入学を機に、ダンス部に入部し、ストリートダンスに出会いました。それと同時に両親が離婚しましたが、母は私と姉に絶対に我慢をさせまいと汗水たらして働き、私達の意志を一番大切にしてくれました。しかし、医療従事者であったために義務づけられていたコロナウイルスのワクチン接種による神経障害の疑いで、八月に退職せざるを得ない状態になりました。私自身、何よりも母が大切であったため、大学卒業を諦めることを視野に入れていた時、皆様が救いの手を差しのべてくださいました。心から感謝するとともに、きちんと卒業し、母のようにだれかのために尽くすことができる社会人になります。

◆大阪芸術大学 Y・Y

私の夢は自分の手がけた作品でたくさんの人を笑顔にしたり、心を動かすことです。私の家庭は裕福ではありません。しかし、たくさんの方々の心を動かしたい、エンターテインメントに関わりたいたいという夢を心から応援してくれる家族がいます。金銭的に厳しいにも関わらず夢を応援してくれる家族の為に、私は自分の夢を諦めず叶えたいし、塚本学院校友会奨学生としての自覚を持ち、自分のやりたい仕事が出来ること感謝して現状に満足せず努力していきたいです。また、残り半年の学生生活、悔いのないよう作品制作に取り組みようと考えています。そして応援し続けてくれる家族、奨学生に選んでくださった校友会の皆様へ感謝を伝えたいです。本当にありがとうございます。

◆大阪芸術大学 短期大学部 O・Y

この度は、本奨学金制度の対象者にお選び頂き誠にありがとうございます。私の家は両親共に病気で怪我で働けず、少し苦しい生活を送っておりましたので、こういった奨学金の対象者に選ばれて、家族全員心から感謝しております。私は今音楽を勉強し、作成や演奏をさせて頂いているのですが、そういった費用に使える選択肢が増えるという事にとっても有難く思います。

普段音楽に励まされたり、共感させて貰ったりしているので私自身もそういった素晴らしい音楽を創り演奏し、皆様に届けられるようこれからもより一層精進して参ります。最後になりましたが、塚本学院校友会の皆様へ改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

◆大阪芸術大学 短期大学部 K・E

私は五年間の社会人経験を経て、心機一転、再進学の道を選択しました。学費や生活費は社会人時代の貯金と、在学中のアルバイトで考えていましたが、学業優先の思いが強く、思うようにアルバイトに時間を割くことができずいました。生活費等、想像以上に費用がかかり、残りの学費の納入が難しい状況となりました。そのため、奨学生を志望させていただきました。今回いただいた奨学金は全額学費の納入に使わせていただきます。卒業後は、奨学生として恥じる事のないよう、クリエイティブを通して社会貢献できるように、クリエティブを通して社会貢献できるように、奨学金に携わることを目標に突き進んでいきます。この度は、奨学生として認定していただき、ありがとうございます。

塚本学院校友会奨学金検討委員会からのお知らせ 学生生活活動支援制度

塚本学院校友会では、充実した学生生活の創造と社会にとって有用な人材の育成を図ることを目指して、学生個人として修学上有益な自主活動（以下「支援対象活動」という。）に対する支援を行っています。

支援対象活動の例示

公募展への出展、コンテスト、コンクールへの出場、調査・研究

- ※1 支援対象経費
支援対象活動を行うために必要な経費
但し、対象外経費に注意してください。
(詳細はしおりにて)

支援申請の対象者

(以下の要件を満たしている者)

- 1 大阪芸術大学、大阪芸術大学 短期大学部及び大阪美術専門学校の在学学生
- 2 塚本学院校友会の入会手続きを完了していること。(準会員)
- 3 学業を継続する意思と能力がありかつ学業・人物とも優秀であること

支援上限額 10万円
支援金受給制限 年度内1回限り
支援申請用紙について

制度の詳細説明と支援申請書がついた「学生生活活動支援制度申請のしおり」は、塚本学院校友会ホームページからダウンロードするか、塚本学院校友会事務局にて配布しております。

提出方法

塚本学院校友会事務局へ直接届け出るか、郵送にて提出してください。

締切日

偶数月の末日(末日が休日の場合は翌日)
但し12月は第3週の金曜日

支援申請窓口・問い合わせ

塚本学院校友会奨学金検討委員会
塚本学院校友会 事務局
〒546-0023 大阪市東住吉区矢田2-14-19
TEL:06-6607-1988 FAX:06-6607-7485
Email:tgkouyukai-3@giga.ocn.ne.jp
HP:http://koyukai.osaka-geidai.ac.jp



塚本学院校友会奨学金検討委員会では、大阪芸術大学グループ各校の最終学年を対象に、奨学金を希望する学生を募集し、奨学金を給付しております。令和五年度は各校から合わせて8件の申請があり、書類選考・面接審査を経て8名の奨学金が認定されました。ここでは奨学金から寄せられた感想文を紹介いたします。

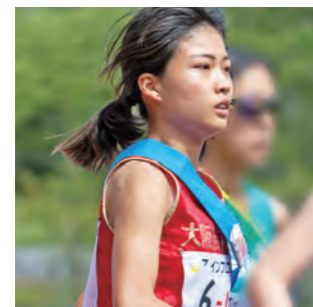
第33回関西学生対校女子駅伝競走大会 総合4位で全国大会出場権獲得

今年も駅伝シーズンがやってきた。「走れるアーティスト」大阪芸大女子駅伝部の選手たちはこの1年、中瀬監督の厳しくも細やかな指導の下にトレーニングを重ねてきた。各地の記録会や競技大会で大きな成果を上げた選手も多い。その成果を携えて第33回関西学生対校女子駅伝競走大会(全国大会予選)に臨んだ。コロナ禍の3年間は応援自粛となったが、私たち塚本学院校友会応援団も4年ぶりの、声を限りの声援となった。

今年も当日の競技の様子は、YouTube アスリートチャンネルでライブ配信された。

9月23日(土)神戸しあわせの村周回コース(6区間30km)で競われたこの大会は、シード校を含む20校が参加。シード校の他、上位3校が全国大会の出場権を得る。

12時号砲。1区3.9kmは古原夏音(工芸4年)。大会経験は充分で、先行して流れを作りたいところだが7位通過は意外。(区間13'15" 7位 通過7位)タスキを受けた2区3.3kmは小倉侑々(初等芸術教育1年)。1年生ながら5000mが16分台の実力。果敢な走りで順位を2つ上げ5位に。愈々粘りを発揮し始めた芸大チーム。ここで先頭の大阪学院大との差、1'11"。(区間10'49" 3位 通過5位)3区6.5kmこの大会最初の長丁場。ここはやはりエース北川星瑠(舞台芸術4年)。今や国際レースでもメダルを獲った本格派。力強いピッチでコースを2周し、順位を押し上げて3位でタスキを繋いだ。(区間2位 21'59" 通過3位)4区6.5kmは経験・力が備わった鈴木杏奈(初等芸術教育4年)。「1周目は冷静に、2周目は果敢に」。懸命の走り



1区 古原選手

2区 小倉選手

を見せるが、順位を1つ下げて4位。(区間22'41" 6位 通過4位)5区3.3kmスピード区間を担うのは星野梨歩(初等芸術教育1年)。実力どおりの走りで前を追うがその差が縮まらない。1位大阪学院大との差、1'25"。(区間11'01" 3位 通過4位)6区6.5km何とか差を詰めたい菅崎南花(建築2年)。日差しも強く、トラックを出てからの登りから長い下り。そしてゴール手前トラックへのアプローチなど2周目最後の踏ん張りどころ。意地の走りを見せてゴール。(区間23'48" 7位 1:43'24" 総合4位)

全国大会の出場権を得たのはシード校の立命館大・大阪学院大・関西大と成績上位の大阪芸大・関西外国語大・京都光華女子大の6校。

今大会も全国大会のシード校、立命館大・大阪学院大・関西大の強さに揺るぎは無かった。芸大チームはこれら強豪校に全区間で絡めず、3位でゴールした関西大とは約2分の差。夏休み明けのコロナ感染による活動停止期間もあり十分に実力を発揮で出来なかったことも否めないが、ここは切り替えて全国大会に向けて奮起を期待しよう。

(敬称略)

第33回関西学生対校女子駅伝競走大会 2023.9.23 神戸しあわせの村周回

区間	選手名	学科	距離	記録	区間順位	通過順位
1区	古原 夏音	工芸4	3.9km	13分15秒	7	7
2区	小倉 侑々	初等芸術教育1	3.3km	10分49秒	3	5
3区	北川 星瑠	舞台芸術4	6.5km	21分50秒	2	3
4区	鈴木 杏奈	初等芸術教育4	6.5km	22分41秒	6	4
5区	星野 梨歩	初等芸術教育1	3.3km	11分01秒	3	4
6区	菅崎 南花	建築2	6.5km	23分48秒	7	4
total			30.0km	1時間43分24秒		総合4位



沿道の卒業生の応援

沿道に校友会員の応援

5区・6区の沿道に大阪芸大の応援幟を持った声援があった。声援を送っていたのは大阪芸大放送学科、昭和54年卒業で校友会員の佐藤 博さん。仙台在住で従来から応援していた。

大阪芸大が初出場した年から第5中継所付近専属で応援しております。ここは交通が不便な為、各大学の応援が手薄になる場所です。「何で芸大が駅伝出るの」とよく言われますが、異種なることに挑戦することに意義があります、と答えています。現代では建設会社が農業にも進出する時代ですから。



1区 小倉選手 2区 星野選手 3区 菅崎選手 4区 鈴木選手 5区 北川選手 6区 古原選手

第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 大阪芸術大学女子駅伝部 総合14位 途中アクシデントも

10月29日(日)仙台市陸上競技場(弘進ゴムアスリートパーク仙台)を中心に仙台市内を巡る6区間38.0kmで全国大会が行われた。今年は1区・2区・3区・6区で大きくコース変更があり、陸上競技場がスタート・ゴールとなった。今年の出場校はこれまで6連覇の名城大学をはじめとする8校のシード校、各地区を勝ち抜いた17校、オープン参加の東北学連選抜の26チームで競われた。

この大会では芸大チームは昨年10位。今年も選手が自分の実力を発揮できれば、目標のシード権奪取は十分に狙える。レースを競うのは6名の選手だけではない。控えの選手たちは、各区の中継所での選手サポートや沿道での応援・情報提供などでレースを支えている。チーム一丸だ。校友会応援団も各区へ赴いて声援を送る。

1区(6.6km) 小倉侑々(初等芸術教育1)は1年生にして初の全国大会。序盤のレースの流れを作る重要区間を集団後方に付き、トラック周回後に一般道へ。選手のけん制・駆け引きもありながら集団の1kmの入りか3分14秒。小倉選手は硬さもあってか21位でタスキをリレー。(区間22'37" 21位 通過20位)2区(4.0km)短距離のスピード区間を任されたのは星野梨歩(初等芸術教育1)。星野は関西大会でも5区(3.3km)を区間3位。ここ仙台でも快走を見せて5人をごぼう抜き。区間6位で3区へタスキを引き継いだ。(区間13'19" 6位 通過15位)3区(5.8km)タスキを受けたのは菅崎南花(建築2)。今年になって力をつけ始めた期待の選手。住宅地のコースから広瀬川を渡って副都心の長町へ。太白区役所の第3中継所手前約250mで菅崎選手にアクシデント。足がもつれ数回転倒するがタスキを繋ぐ思いは強く、倒れ込みながら第3中継所へ。確かにタスキは繋がった。(区間22'01" 26位 通過23位)4区(4.8km)菅崎

選手の到着を待つ鈴木杏奈の心中は如何ばかりか。菅崎選手の肩口から自らの手でタスキを外し冷静にスタートした。鈴木選手は日本学生ハーフマラソン大会(女子)4位の本格派。懸命に前を追う。再び広瀬川を渡る愛宕橋手前の緩い下りから、さらに緩い登りが続く第4中継所までが踏ん張りどころ。実力どおりの走りで区間9位。順位も上げた。(区間16'33" 9位 通過20位)5区(9.2km)長丁場のエース区間は北川星瑠(舞台芸術4)。自分を「自称、日本で唯一ミュージカルを学ぶ長距離選手」と呼ぶまさに「走れるアーティスト」。中国成都でのワールドユニバーシティゲームズ(旧ユニバーシアード)1位。松江市で行われた全日本学生ハーフマラソン大会(女子)では並み居る強豪を抑えて1位など輝かしい経歴を持つ、絶対的エース。期待どおりの走行で名城大2年原田選手、大阪学院大3年 永長選手などを超越する区間3位。順位も上げた。(区間30'13" 3位 通過17位)6区(7.6km)ここも実力者古原夏音(工芸4)がタスキを運ぶ。古原選手は西日本インカレ女子5000m2位の記録。台原の住宅地から市内中心部へ、今年から大きく変わったコース。自信に満ちた余裕の走りで前を追い、さらに順位を上げて陸上競技場でゴール。(区間25'29" 6位 総合14位)

前半区間で遅れを取らず、後半でリカバーするという中瀬監督の作戦は一部叶わなかった。途中の大きなアクシデントなどもあり、大きなレースでは本当に何が起こるかかわからない。しかしこれも今後への糧として選手の皆さんにはさらに研鑽を積んで、そして2時間8分の壁を越えよう。選手の皆さんと私たち卒業生のタスキはいつも繋がっている。

第41回全日本大学女子駅伝競走大会 2023.10.29 仙台市陸上競技場

区間	選手名	学科	距離	記録	区間順位	通過順位
1区	小倉 侑々	初等芸術教育1	6.6km	22分37秒	21	20
2区	星野 梨歩	初等芸術教育1	4.0km	13分19秒	6	15
3区	菅崎 南花	建築2	5.8km	22分01秒	26	23
4区	鈴木 杏奈	初等芸術教育4	4.8km	16分33秒	9	20
5区	北川 星瑠	舞台芸術4	9.2km	30分13秒	3	17
6区	古原 夏音	工芸4	7.6km	25分29秒	6	14
total			38.0km	2時間10分12秒		総合14位

写真提供 / 大阪芸術大学 写真学科 1年生 川村 幸詩さん
校友会応援団
文責 / 校友会 常任理事 留目 正文(建築8期)



女子駅伝部監督
中瀬 洋一

レース後の中瀬監督のことは

関西のチームが17位以内に芸大しか入れなかったため、来年の全国大会出場の間西枠は、関西のシード校以外1校になってしまった。来年の神戸の関西大会でシード校を除いて1位にならないと、全国大会には出場できない厳しい状況になった。4年生が卒業した後、危機感を持ってもう一度立て直していく。指導環境が大きく変わって叱りにくくなったが、みんなでよい順位だったら喜びたい。悪い順位だったらみんなで悲しみたい。いつも応援していただきとても感謝している。

* 仙台市や宮城県下その他東北地方在住で、来年以降沿道で応援していただけの卒業生の方々は事務局へご連絡ください。開催日時など詳細は大会HPをご覧ください。



どこへ連れて行かれるかわからない

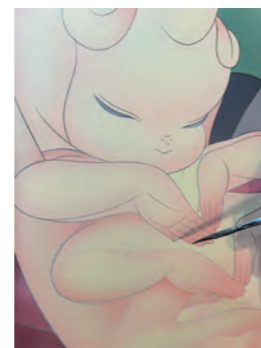
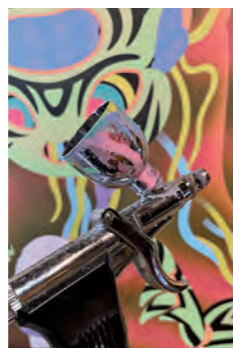
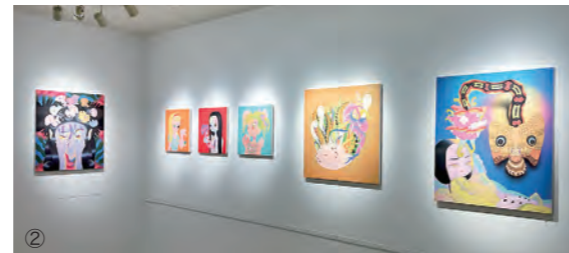
かつてのわたしはブルーノ・ムナーリやレイモン・サヴィニャックへの憧れからデザイン科へと進学し、グラフィックデザインを専攻していました。彼らのようにポスター画や児童書の挿画、絵本を描くのが夢でしたが、当時のわたしは自分の表現上の強みを掴めずにいました。学科の先生が「イラストレーションは言語情報に添えられた視覚情報の道案内のようなものなのに、あなたの絵はどこへ連れて行かれちゃうのかわからない」とおっしゃられたことを今でも時折昨日のこのように思い出します。絵を描くことが好きでも、役割を担った視覚表現が不得手だということを先生との対話の中で気づくことができたことが、自分の中のふわふわしたものを少しずつ固めていったと思います。好きな手仕事のことだけではなくアートワークを取り巻くデザインの仕事について理解を深めたいと思い、デザインの職に就きました。線と文字と空間の設計の世界で、絵を描くことでは身につかない神経感覚を鍛えられたと思いますが、体を壊してしまい制作の現場から離れて働くことになりました。

薬指 ささく

大阪芸術大学 / デザイン学科 (VD)
2004年卒業

プロフィール

和歌山在住、ペインター。
原風景と親愛なる隣人をモチーフに描く、日々の雑記を制作主軸とし、国内外の展示にて作品を発表している。



- ① WAVE 展
- ② 初個展
- ③ DIESEL ギャラリーにて
- ④ 制作の道具
- ⑤ 制作の様子



Instagram/kusuriyubi3339

自分の生活から絵を描くことが抜け落ちて初めて、わたしは学びを始めて以降「役割を与えられていない絵」を描いたことがないことに気がつきました。自分が描きたい絵を描くということは心身のバランスが不安定だったわたしのセラピーとなり、また、自分の記憶や気持ちをまざる術となりました。苦手だったSNSを始めたことにより、わたしの絵は多くの方々に見ていただけるようになり描く事がわたしの生業となりました。学生だった当時の自分には、絵から離れることも、絵と出会い直して一緒に歩んでいるとは思っていません。わたしにとって絵は、どこへ連れて行かれるのかわからないものです。

推薦者 / 大阪芸術大学 デザイン学科 学科長 高橋 善丸

私を輝かせてくれるのは、人との出会い、町との出会い



紀平 真理 (きひら まり) 本名「大塚真理子」

大阪芸術大学 放送学科 1975年3月卒業
佛教大学 社会福祉学科 2006年3月卒業

フリーアナウンサー・女優。現在は大阪芸術大学において後進の指導を行う。また地元、東横堀川界隈を魅力溢れる町にするためe-よこ会の幹事として活動するとともに、一般社団法人水辺ラボ理事を務める。社会福祉主事・アイアンガーヨガ認定指導員。



メディアの第一線を目指す学生の感性を大切にしたい

放送界デビューは、大阪芸術大学3年生の時でした。きっかけはラジオのグループ実習の授業からです。

私たちの実習グループでは、「観光・信仰・恋の寺」というテーマで和歌山県高郡日高川町にある道成寺の和尚さんにインタビューを行いました。それを、ラジオ番組の録音構成スタイルにまとめ、私はインタビューとナレーションを担当しました。

実習とはいえ、グループのメンバー全員が、プロの評価を強く希望しており、ラジオ大阪のディレクターさんに送ったところなんと、ディレクターさんから、たいへん参考となる評価やアドバイスをいただくことができました。

さらに、私のナレーションを気に入ってくださり、スカウトいただきました。私は在学中でありながら、キャンパスDJとして放送界にデビューすることになったのです。以降、主に、小松左京氏、上岡龍太郎氏、佐川満男氏、海原小浜師匠といったビッグタレントのアシスタントを長年務め、NHK TV (今日の料理・おしゃれ工房)、朝日放送TV (あっちこっち丁稚)、毎日放送 (ヤングタウン)、ラジオ大阪 (バンザイ歌謡曲・小松左京のガタガタゴットン・上岡龍太郎の飛んで1800秒)、ラジオ関西 (海原小浜の太陽におはよう・佐川満男のブギウギ神戸丸)、FM大阪 (ポールモーリア・ポピュレール) などに出演しました。

また、東京文化放送でも5年にわたり、全国ネット「走れ歌謡曲」でパーソナリティー「走れの恋さん」として、深夜番組を愛してくださるファンの方々との交流を重ねることができました。

現在は毎週月曜日22時よりYes'fmのJAZZ番組「夫婦でオジャ漬け」を担当。2024年11月24日に行われる『大塚善章音楽生活70周年記念卒寿リサイタル』では、プロデュースやMCを担当する予定です。



Yes'fmのJAZZ番組「夫婦でオジャ漬け」。毎週月曜日22時より



夫婦でオジャ漬け
大阪ミナミのコミュニティFM
YES-fm (yesfm.jp)



大塚善章公式サイト
Zenshow Ohtsuka Official Site
大塚善章 公式サイト

2010年4月から京都文教短期大学、2013年4月より佛教大学の非常勤講師を務め、同時期に、母校・大阪芸術大学グループの短期大学部メディア芸術学科の非常勤講師としての活動もスタートしました。以後、2018年4月、大阪芸術大学・放送学科より客員教授に迎えられ、現在は授業を通して人間生活において最も大切な「コミュニケーション能力を高める指導」を中心に、発声や表現など理論と実践を交えた講義を展開しています。

一方、2006年7月にスタートした地域住民や界隈で働く人々、ショップオーナーなどが水辺の魅力づくりを行う「東横堀川 水辺再生協議会 (e-よこ会)」で出会った有志メンバーと、2019年「一般社団法人水辺ラボ」を設立し、現在理事を務めています。水辺ラボでは、「町と水辺



β本町橋に行けば、誰かに会える。そんな想いから生まれた水辺の実験基地にもっとワクワクを」をテーマに、「そこに行けば、誰かに会える」「この指とまれが見つかる」「かつての“空き地”のような場所がいま改めて、町に必要なかもしれない」。そんな熱い想いを胸に水辺の実験基地『β本町橋』を作り、地元の人々との多彩な交流を深めています。また、アイアンガーヨガ認定指導員などを務める傍ら、社会福祉主事としての一面もあり、ガン征圧運動のイベントや、音楽リサイタルのプロデュースなどを行い、これまでの経験や体験で培ったご縁やノウハウを存分に発揮し、充実した日々を送っています。



一般社団法人水辺ラボ
運営団体・メンバー紹介 | β本町橋 (ベータ本町橋)
(hommachibashi.jp)

推薦者 / 大阪芸術大学 放送学科 学科長 石川 豊子



みやたけつばさ
宮武 翼

大阪芸術大学/キャラクター造形学科/2020年卒業

2020年、週刊少年ジャンプの新世界漫画賞にて佳作を受賞。その後、苦汁を舐めながらも2022年に週刊少年ジャンプ本誌に読切漫画を掲載。椎間板ヘルニアを患い腰がお釈迦になるも、掲載作品がボイスコミック化した喜びで持ち直す。現在連載ネームを執筆中。嘘みたいにお金が無い時、嘘だと思われるのが酷く悲しい。

何が起こるか分からない人生で何を成すのか

在学中は音楽にのめり込んでしまい、漫画をほとんど描くことなく卒業してしまいました。厳密に言うと、きちんと作品の形に仕上げたのは4年間を通して、卒業制作で描いた1本だけでした。

オリンピックじゃないんだから、と思われたことでしょう。僕も思いました。もっとちゃんと漫画を描いていればと、後悔の波のプールが押し寄せたこともありましたが。それでもあの日々を過ごしていなかったら、今の自分の思考や発想は無かったと思うので、やはり「過ごして良かった」時間です。描いた1本は在学中にあった「出張編集部」で名刺をくださった月刊少年マガジンの新人賞に応募し、見事「最終選考止まり」という、雑誌の片隅にボツと名前が載るだけの結果に終わりました。血が出ない程度に唇を噛み締めたのを今でも覚えています。

卒業後は副助手として先生方のお手伝いをさせてもらいながら、うんしょ、うんしょ、と制作に励みました。作品が描き終わる頃に、丁度好きな漫画家さんが新人賞の特別審査員をしていたので、週刊少年ジャンプに投稿しました。そこで有難いことに1番に選んでいただけたことで、今の人生を歩めています。もしここで受賞できていなかったら、ちょっと元氣な無職になっていたのが本当ありがとうございました。

先生方にもたくさんアドバイスをいただけたりと、年下の在學生が受賞してお腹が痛くなるほど焦ったりと、刺激に満ち溢れた環境だったからこそ自分を鼓舞し続けられたんだと思います。本当に感謝しています。

その後1年、頭がおかしくなるほどのボツを経て、受賞から2年後、週刊少年ジャンプの本誌に「PainKiller」という読切を掲載させていただき、これはプロの声優さんがアフレコしてくださるボイスコミックというものにもなりました。アニメ化が死ぬまでに叶えたい夢の1つなので、貴重な経験をさせていただきました。連載が始まったら、応援よろしくお願いたします。

推薦者/大阪芸術大学 キャラクター造形学科 学科長 里中 満智子



本誌掲載作品「PainKiller」カラー扉絵



本誌掲載作品「PainKiller」



受賞作品



Youtube「ジャンプチャンネル」



©週刊少年ジャンプ 2022年20号/集英社

たくさんの 出会いを通して

笹川 晃希

大阪芸術大学 初等芸術教育学科 2021年卒業

卒業後 初等芸術教育学科の副手になり、教員採用試験の勉強をする傍ら、コロナ禍であったため、学生が楽しめるイベントを企画したり、「アートの森」などボランティアに参加。

翌年、教員採用試験に合格し箕面市立中小学校4年生担任として勤務。

今年度は、支援学級担任として勤務。

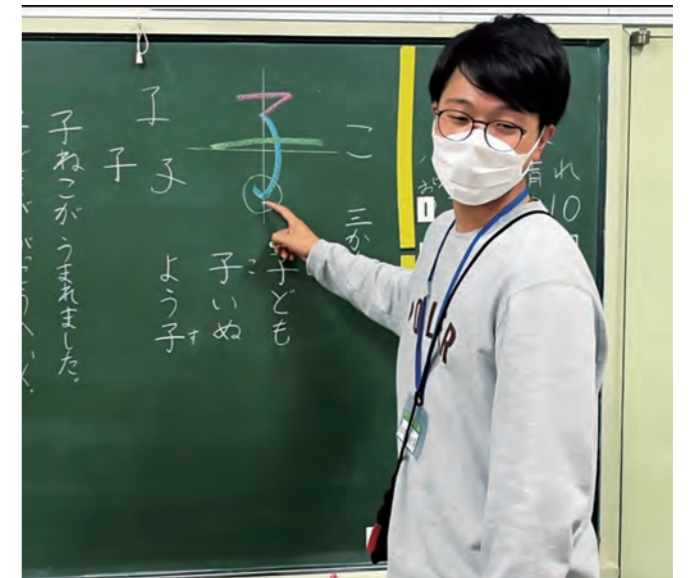
私は絵を描くことや物をつくるのが好きだったので芸大に行きたいと思い受験しましたが、仕事や将来の事を何も考えていなかったため、教員免許がとれる初等芸術教育学科を選びました。そのため、教師になりたいという気持ちはなく、子どもが好きというより苦手意識があったので、入学当初は不安な気持ちで過ごしていました。

ある時、教授から「ボランティアでアートの森に来ないか」と声をかけられました。

「アートの森」では、子どもたちが自由に制作を楽しむ姿や考える姿、また、子どもだけでなく保護者やスタッフも一緒に楽しみ、考え、様々なものを自由に制作している姿がありました。その光景が、とても印象的で今でもはっきり、鮮明に覚えています。

今まで、子どもと触れ合う機会がなかったため、どう接したらよいか分からず、苦手意識を持っていましたが、アートの森に来ていた子どもたちの自由な発想や、思いを表現する姿、一生懸命にものをつくる姿勢が本当に素敵でした。そんな中、一人の子が「先生、こうしたいんやけど、どうしたらいいかなー」と聞いてきました。私は一緒に考え「こうしたらいいんじゃない」と提案すると、黙々と作りはじめました。その作品が完成した時の子どもの嬉しそうな顔、満足そうな顔が本当に素敵で、私も幸せな気持ちになりました。

子どもたちからは「先生ありがとう」「先生できたー」と声をかけられ、まだ学生の私を先生と言ってくれる子ども達の嬉しそうな顔や、私の一声でハッと閃いて制作する子どもたちをみて、将来、教師という仕事も



良いかもしれないと思えたきっかけがこの「アートの森」でした。

ボランティア(大学のイベントなど)に参加したことで、何事にも積極的に取り組むことや挑戦することができるようになったと思います。

また、人に教えることの楽しさ、様々な人の思いや考えを聞く面白さ、人前で話す難しさを知り、何事にも挑戦してみる勇気が湧いてきました。

他にも教授から声をかけていただき、根付コンペティションに応募したり、アクセサリを販売したりと自分のスキルが広がり、様々な職種の方や人と話す機会も増え、色々な経験をする事ができました。これらの経験や体験が、今の仕事に大きく繋がっています。

現在は支援学級担任として子どもたちに寄り添い、どうしたらその子のためになるのか、どうしたら楽しく学べるのか、今までの経験を思い出しながら考え、子どもたちを支援しています。

推薦者/大阪芸術大学 初等芸術教育学科
学科長 車谷 哲明



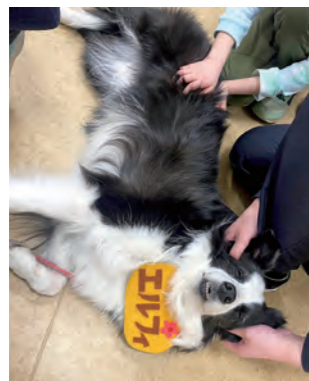
次は若いリンクと世界を目指します

宮越 衣絵 (S-05)

大阪芸術大学 舞台芸術学科
ミュージカルコース 2009年卒業

ドッグダンスインストラクター
Marie dog studio 主催 ドッグダンス
チームLink Sound 共同代表 JKCドッグ
ダンス審査員
主な成績: 2018年OEC スイス大会
日本代表/2023年OEC ハンガリー
大会 日本代表
国内最高位2位/ 他、ドッグダンスコン
ペティションで入賞多数

ダンスと共に私が大切にしている活動にドッグセラピーがあります。活動状況や愛犬に関する様子、ドッグダンス等に関してはこちらに。



セラピー犬のお仕事

愛犬と世界で踊る舞台芸術学 OG

私は2005年、舞台芸術学科ミュージカルコースに入学しました。在学中「冰山ルリの大航海」のルリ役に2回生で抜擢され、先輩達に混じったものの、自分だけ上手く芝居ができず葛藤がありました。そんな時、恩師の浜畑先生に言われた言葉を思い出します。「リアルに、心を動かすんだよ」と。今はドッグダンスという世界に舞台が変わりましたが、大阪芸術大学で学んだ事が生きています。浜畑先生の授業で、コーラスラインのワンシーンをやったのが印象強く記憶に残っています。浜畑先生演じるザック、生徒がキャシーを演じました。今思えば、すごく贅沢な授業だったなと思に残っています。



「冰山ルリの大航海」ルリ役を演じる
宮越さん(中央)

世界大会へのストーリー

愛犬エルフィは10歳も近いボーダーコリー。もう海外へは行かないと決めていましたが、5年前にスイス大会に行った時に、「もう一度ヨーロッパに来ようね。」とエルフィに言っていた事を思い出し、エルフィとは最後のチャンス。ドッグダンスの世界大会、2023 OEC in ハンガリー大会への出場を決意しました。ハンガリー大会での演技中、ブロードウェイのミュージカル『ウィキッド』(Wicked)の曲、「Defying Gravity」に乗せて、主人公エルファバの心を通し、愛犬エルフィの体も借りて、リアルな私の心や想いが溢れ出した感覚がありました。沢山の方から「感動した、涙が出た」との言葉を貰い、これが私がやりたかったドッグダンスなのだと思います。結果はエルフィの頑張り、世界から集まった54組中26位。エルフィと向き合ってきた中での辛さ、悔しさ、喜び、感謝、色んな思いが詰まった4分間でした。エルフィと諦めずにダンスを頑張ってきて良かったと心から思えました。



エルフィと世界を魅了した4分間の演技

チームの大会へ向けての準備段階から大変でしたが、ドッグダンスジャパンのバックアップやユニフォームデザインは芸大の先輩ヒロセマリさん(V9)にご協力をいただき、無事にハンガリーへ出発することが出来ました。大会中はチームリーダーの役割も多く、また出国から帰国まで渡航する犬達も含めチームに気を配ることは、自分の演技や愛犬のエルフィだけに集中出来ないのが大変な思いをすることもありました。でも大学時代にミュージカルで培ったチームワーク力と度胸で乗り越えることが出来たと思います。とても良い経験でしたし、出発前より自分が強くなって帰って来れました。

昨年から劇団四季で活躍していたS-05ミュージカルの同級生、秋山舞さんにLink Sound主催で定期的にレッスンをお願いしています。舞さんも、今ではドッグダンス世界大会出場選手の振付も多数担当するようになりました。ハンガリー大会やデンマークの大会でも、どれも素敵な振付です。彼女も日本のドッグダンスの芸術的レベルをグッと上げてくれる存在です。



舞台芸術学科 × 映像学科のコラボ
映像学科 OG ヒロセマリ (V9)
2023 Dog Dance ハンガリー大会、チーム JAPAN のデザインを担当。
映像学科卒業後、N.Y. 留学。TV 局勤務を経て独立。グラフィック、インテリア等のデザインを手がけ、今回、愛犬家である浜畑学科長のご縁から、宮越氏と知り合う。愛犬は宮越氏のエルフィと同じボーダーコリー Abbie。

推薦者 / 大阪芸術大学 舞台芸術学科 学科長 浜畑 賢吉



大阪芸術大学 舞台芸術学科
学科長 浜畑 賢吉

俳優養成所を経て劇団四季へ。1970年前後からテレビでも活躍し、大河ドラマ初のカラー作品『天と地と』(1969年)に出演。『コーラスライン』では1979年の初演以来、800回出演してきたほか、『ハムレット』『ジキルとハイド』など多数の演目出演を果たす。ブロードウェイミュージカル『ピクチャー・ピクトリア』などの演出も手がける。

「冰山ルリの大航海」

つい先日、昔撮った旅行ビデオ「2005年2月南米パタゴニアの旅15日間」を見ました。大きな氷河の滑落到驚き、海に浮いている氷山の美しい姿に感動もし、そのかけらを掴ってもらってウイスキーのオンザロックも味わったのです。

その翌年5月、氷山がまだ目の奥に焼き付いている時に理事長のご指示を受けて、高円宮妃久子殿下原作の絵本「冰山ルリの大航海」をミュージカルにする作業が始まりました。上演が10月ですから余裕などありません。まず飛んで行ったのが放送学科故岩崎富士男(作詞家クロード・Q)学科長。

二人で構想を練り私が台本を書く前にクロード・Qさんは作詞完了、作曲のヴァイオリン奏者川合郁子先生へ。学科の業務ではないので、お稽古は全て放課後。矢田の短大体育館を借りたこともありました。



舞芸学内公演 宮越さん(中央)

懐かしいメンバーの顔が浮かんできます。主人公ルリを演じてくれた宮越衣絵さん、今はドッグダンスで世界を駆けまわっています。オサガメの谷口祐奈さんはレミゼラブルでテレビエの女房役などで活躍。オーシャンの長谷川貴司さんは京都で料理人。ホワイトの武田良太さんはディズニーを辞めて関西で活動。イビスの保木本真也さんは劇作家。スタークの菊池雄太さんは東京で役者。キキの安養寺美樹さんはトレーナー。オーロラ妃の原田真由子さんは劇団四季・・・などなど、皆さんそれぞれの分野で立派に活躍してくれています。

そしてメンバーを変えての何度かの再演を経て、大変革のオペラ化を致しました。

クロード・Qさんはいないので私が7曲の作詞を加えたのが2018年。

指揮に大友直人先生を迎えてのフルオーケストラ。舞台装置も一新しての上演でした。

その公演で北極狐のオーシャンを演じてくれた安田楓太さんは卒業後劇団四季で活躍。ルリを演じた菅原あや乃さんも四季入団が決まったそうで、「冰山ルリの大航海」は大阪芸大の歴史にも大きな痕跡を残して来たと言えるでしょう。

2024年3月8日(金)兵庫県立芸術文化センターで、またまた新たなメンバーでの挑戦が始まります。卒業生の皆様、特にこの作品に関係された方々はぜひ駆けつけて頂きたいと願っております。ちなみにサブタイトルは「ビッグブルーミュージカル」から「ビッグブルーオペラ」に変わっています。



舞芸学内公演



芸大のラジオ番組収録中にて、
宮越衣絵さんと舞台芸術学科長 浜畑賢吉先生

特定非営利活動法人音頭座からく



いしだ よしたか せんば よしたか
石田 善隆(扇羽 祥嵩)

大阪芸術大学/放送学科/
1988(昭和63年)卒業

17歳のときに河内音頭界に入門。大学卒業後は河内音頭の演奏活動をつづけながら、商社にて商品企画・開発に従事。

2016年 河内音頭のCD「時代を超えて、炸裂する「祭魂」！」をリリース。

2020年 6月より だいとうFM(インターネットラジオ局)にて番組配信中。

現在、河内音頭をはじめとする伝統芸能・文化の伝承と活性化を図るべく「祭り・イベントコーディネーター」として活動中。



なかにし きみえ
中西 喜美恵

大阪芸術大学/放送学科/
1987(昭和62年)卒業

16歳でNACタレントセンターに入所。映画やドラマ、レポーターとして出演後、19歳でMBS制作の昼ドラ「くれなゐ」にレギュラー出演以降、NHK朝ドラをはじめ、テレビCM出演等 関西を中心に活動。

1990年 吉本新喜劇に入団しマドンナ役で活躍

2004年 吉本新喜劇を退団し、各劇団の公演・イベントなど舞台俳優として活動中。

2022年 特定非営利活動法人音頭座からくに加入、和太鼓奏者としても活動中。

河内音頭をはじめとする 伝統芸能・文化の伝承と活性化

二人ともに大阪芸術大学では放送学科で、在学中から個々に芸能活動をしながら、将来はメディアの一線で活躍する事を目指して学んでおりました。

大学卒業後、石田善隆(扇羽祥嵩)は河内音頭の演奏活動をつづけながら、商社にて商品企画・開発に従事し、中西喜美恵は吉本新喜劇のマドンナ役として活動後、大阪を中心に各劇団の公演・イベントなど舞台俳優として活動しております。

2021年「河内音頭をはじめとする伝統芸能・文化の伝承と活性化」を目的に設立した、特定非営利活動法人音頭座からくに正会員として合流し、現在に至っております。

河内音頭は15世紀頃に京の都から盆踊り文化の伝来とともに河内国に生まれた民謡で、関西地方では盆踊りや夏祭りには欠かせないものです。河内音頭界は、師匠と弟子で構成された一門で活動することが慣習であり、芸は口伝によるもので伴奏には楽譜がなく、一門や会派によって独自のものがあるのが特徴です。

また、他の一門・会派の弟子や若手との横の繋がりがほとんどなく、閉鎖的なところもあります。そこで、河内音頭をはじめとする伝統芸能・文化の伝承と活性化を目指して世代やジャンルをこえた幅広い活動をする任意団体「音頭座からく」を結成し、2013年から沖縄をはじめ全国での活動を開始。

しかし、2020年以降はコロナ禍により活動機会がほぼ皆無となり更なる衰退を危惧し、師弟関係だけではなく、法人として継承することができるようにNPO法人を設立。次代を担う練習生・研修生を募集しての河内音頭講習会やインターネットラジオによる情報発信にも注力しながら、全国で様々なイベント提案・参画をしております。

推薦者/校友会理事 山口 俊介



盆踊り風景



沖縄☆大阪 音楽祭 2022_河内音頭



沖縄☆大阪 音楽祭 2022_エイサー



"新春"音頭まつり in 東大阪



春爛漫茶吉庵 河内音頭 BBQ ライブ

特定非営利活動法人音頭座からくホームページ
<https://ondozagaraku0505.wixsite.com/mysite>
特定非営利活動法人音頭座からく YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/@npo0505>



ライフワークは 猫と神社仏閣を 巡る旅

大阪芸術大学短期大学部卒業生の岩瀬です。製造業で企画デザインマーケティング及び社内外広報を担当、コーチとしても活動しています。卒業生の活躍を紹介する第2弾として、今回ご紹介するのは、写真家として活躍されている写真学科卒業の小森正孝さんです。



OM SYSTEM GALLERY 小森正孝 写真展「神様・仏様・おねこ様」

岩瀬 小森さんとは十何年来のお知り合いで、家猫モデルのコーディネートもさせていただいた事がありますね。

小森 はい。茶人さんの猫、お世話になりました。次回もよろしくお願いします。

岩瀬 2023年はどんな年でしたか？

小森 今まで「猫」を被写体として撮影してきて、雑誌「猫びより」の連載記事が20回を超えたので一度まとめたいなと思ってました。OM SYSTEM GALLERYに企画提案したところ7月27日(木)~8月7日(月)に個展が実現して力を入れた年でした。

岩瀬 東京展には何えなかったのですが、京都に巡回した際に観る事ができました。大判出力が大迫力でしたね。

小森 今回の企画展には、大きなテーマを設けていました。13年のあいだ「我々は猫である」をメインコンセプトとして取材してきましたが、「神様・仏様・おねこ様」を展示のテーマに日本の神社仏閣の猫にフォーカスして、日本の歴史の中で猫がどのように息づいてきたのかひもとくように作品をセレクトしました。

岩瀬 猫好きな方だけでなく、歴史好き、写真好き、はたまた海外の方にも興味をもってもらえそうなテーマですね。実際に京都展にいった時、海外からのお客様の多さに驚きました。

小森 はい、東京展では、様々な業界の方々に来て観て

インタビューする人 **岩瀬 美保**



大阪芸術大学 短期大学部 デザイン美術科
グラフィックデザインコース 1983年卒
1963年生まれ 大阪府出身
真生印刷株式会社企画デザイン部門を
経て2016年大紀商事株式会社社
マーケティング部所属
国際コーチング連盟日本支部 運営委員



◀コーチプロフィール

インタビューされる人 **小森 正孝**



大阪芸術大学 写真学科 1997年卒

1976年生まれ 愛知県出身
芸大卒業後、助手として研究室勤務
写真家 高田 誠三師事
現在は猫を中心に全国で活動中
雑誌「猫びより」にて雑誌連載
株式会社アフロ契約作家



◀ホームページ

いただき、京都では国際色豊かなお客様が来てくださり、写真集や今回写真展にむけて制作した御朱印帳やポストカードなどをご購入いただきました。

岩瀬 いろんな方々に小森さんの写真をみてもらえる機会になりましたね。

小森 こんなふう大きなテーマでの展示会は今回が初めての試みで、ディレクションをお願いし、出力紙にもこだわり、作品集もかなりのボリュームのものになり、細部にこだわった作品展となりました。クラウドファンディングにも初挑戦しました。今後も機会をいただいた場所で巡回していく予定です。

岩瀬 今回、個展の準備初期段階で私のコーチングを受けたのはいかがでしたか？

小森 いろいろ迷った時に役にたちました。

岩瀬 お役に立ててよかった！今後の展望をおしえてください。

小森 大きな個展をまたやってみたいという思いも沸いているので、さらに取材を深めて今後活かして行きたいと思えます。

岩瀬 がんばってください。その時、コーチングが必要な際はお声掛けください。

小森 はい。ありがとうございます。



京都写真美術館 ギャラリー・ジャパネスクでの京都展



展示写真の神社仏閣地図



ぬくとう みさき
抽冬 美紗稀

大阪芸術短期大学/保育科
2015年卒業

3歳から小学6年生まで習った書道の勉強を短大卒業前に再開し、現在書道家として大阪府堺市を拠点に書道パフォーマンスイベントの開催や教室運営をさせていただいております。

書道教室では保育学科で学んだことをフルに発揮し、現在は幼児から大人の方まで80名を超える方が足を運んでくださるようになりました。

学校で学んだことを強みに、生徒1人ひとりと向き合いながら楽しい教室創りをおこなっております。



@MISA0126

好きこそもの上手なれ

大阪芸術短期大学では保育科を専攻しておりました。大学で印象に残る出来事は2つあり、ひとつは保育実習です。大人の社会へ進むためのステップである実習先、沢山の子ども達と触れ合う時間が多く、心と体で感じることで学べる学びがあったとともに、仕事の厳しさや責任の大きさ、大変さを知りました。その際に培った子どもへの応対力は現在の「お子様に特化した書道教室」に活かしていると感じる事も多いです。

2つ目は制作です。保育には欠かせない大切な時間ですが「先生が厳しかった」ことが印象強く、おかげさまで合格する為に一生懸命だった自身を記憶します。

卒業後、事情があり保育士の道へは進みませんでしたでしたが、この時に制作に取り組んだことは自身の強みになっています。(厳しさに感謝です)

現在、書道教室では年に数回ではありますが作品制作の時間を取り入れています。生徒である子どもたちに様々な道具に触れて頂きたいことと、知識を増やしながら制作の楽しさを感じていただきたいからです。

これも大学で教えていただいた事が繋がっていると思います。2年間の短大生活での勉強、遊びなどすべてが卒業後の人生に大きく役立っており、今では関わっていただいたすべての方に感謝しかありません。

私が教室運営にあたり子ども達と向き合う心意気として、「どんな事でもいい、小さな頃に経験した努力は必ず自分の力となり知識を広げる、自分なら出来るという自信は将来の豊かな人生に繋がる」という視点です。保育学科であるからこそ経験できたことをフル活用させていただき、想いが伝わる教室をこれからも皆さんと創っていきたくと思っています。また、書道パフォーマンス、作品制作などを通して素敵な人との出会い、何よりも好きな書を通して仕事ができることに感謝し、今後も自身らしい「書」を創り続けます。

卒業して9年目、母校に感謝です。



2023年度お正月書道パフォーマンスにて



書道教室にて全国書道コンクールの作品制作



大仙公園日本庭園にて作品展示



着物と帯を使用した書作品



Kazuya Kitaura

撮影者: 横山大介 Daisuke Yokoyama

北浦 和也

大阪芸術大学短期大学部
2004年
デザイン美術学科
スペースデザインコース卒業
2005年
専攻科デザイン美術専攻
立体造形コース修了

略歴

2023年

- ・六甲ミーツアート「beyond」/
六甲高山植物園(神戸)
- ・個展「TOY!」/skiima gallery(大阪)

2022年

- ・「既知との遭遇 北浦和也×やんツー」/
京都精華大学Demachi(京都)
- ・個展「キボリことばわざ百景」/
夜長堂(大阪)
- ・個展「Piece of Peace/POP」/
galerie 6c(西宮)
- ・個展「PUFF」/VOU(京都)
- ・個展「PARTICLE」/MOTIF(香川)
- ・「MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館」/
曾爾村(奈良)
- 他



個展「PUFF」/VOU(京都)



Picnic on Circle Circus



TOKIDOKI DOKIDOKI

出会いの中で見つかる自分

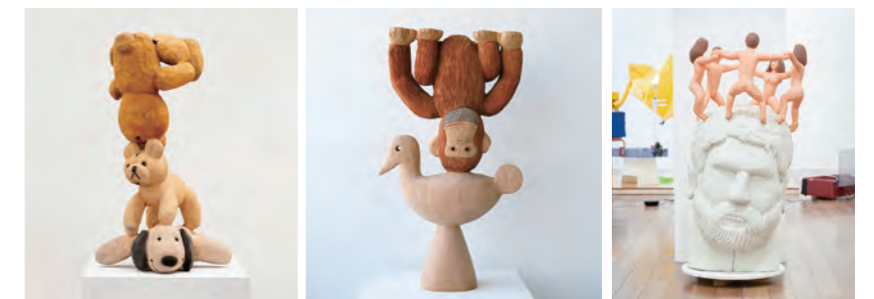
短大時代、スペースデザインコースで製図や空間デザインを2年、専攻科として1年立体造形コースで彫刻を学びました。

専攻科のスタートは家具を制作していましたが、当時立体造形コースの先生で、堀野利久先生、中西學先生、川島慶樹先生、副手の栗津謙吾さんの授業や作品制作の手伝いをしていううちに、刺激を受け、自分の作る物が家具から作品を作りたい気持ちへと変化していきました。

学生時代先生に言ってもらった「今のうちに会えるだけ色々な人に会った方がいいで、若いうちにしか出会えない人多いから～」という言葉が印象的で今に繋がっています。

卒業した1年後、栗津さん・同級生の佐川好弘くんの3人で豊能町に200坪の土地を借りてアトリエを作り「宮ノ前」^④として4年ほど拠点としました。

2010年からは先輩で陶芸作家の山本朱さん・佐川さんと共同で西中島にアトリエ「24ナカジマ」を作り現在も拠点としています。



toy toy toy

monkey&bird

dance

主に使う素材は木で、郷土玩具や童話・SFファンタジーなどに登場してくる動物や人などのモチーフ組み合わせ、木の塊から彫り出された彫刻は、荒々しい彫跡と共存するポップな色彩とファンシーでポップでシュールで見ると思わず微笑まじにはいられない作品を制作しています。

初個展は2009年の番画廊で「デテくるもの」をタイトルに木彫作品の展覧会を開催しました。

その後、発表する場をギャラリーや飲食店、服屋さん等場所にとらわれず個展を開催したり、誘ってもらったイベントなどなるべく断らずに参加してきました。

それは学生時代に言ってもらった、「今のうちに会える人に出会った方がいいで～」という言葉が実際に人と会う中で実感したからです。

彫刻家と肩書きをつけ出したのは、福岡道雄さんとお昼ご飯を食べている時に「キミは彫刻家？絵描き？」と聞かれ「彫刻家です。」と言っている自分にシッカリきたからです。

推薦者/大阪芸術大学短期大学部 デザイン美術学科 教授 堀野 利久

福原 野乃花

大阪芸術大学短期大学部
メディア・芸術学科 映像コース
2022年卒業



大学卒業後、病院に通いながら強迫症の治療に専念。2022年8月に自身の経験をもとにしたシナリオを書き始める。その後、短大時代の同級生に協力を募り、自主制作映画「悠優の君へ」の制作を始める。現在はSNSを通して強迫症についての発信を行いながら、脚本家を目指し執筆活動を行っている。YouTubeチャンネル「ののはらちゃんねる」にて動画も投稿中。



卒業後、短大時代の仲間とともに自主制作映画に挑戦

高校時代、強迫症の症状に苦しんでいた私には将来に対する希望が全くありませんでした。3年生になり、進路を決める時期が来ても、私は毎日生きるだけで精一杯で、どこに進むかなんて考える余裕も元気もありませんでした。それでも現実とは違って、私はどこかに進まなければいけなくて。毎日たくさんの大学について調べていました。私にとって大学進学は自分に与える最後の猶予でした。社会に出る前に病気を治す最後のチャンス。でも大学に行くにはお金がかかる。そこで私は決めました。「自分の好きなことを学ぼう」。自分の好きなこととはなんだろうか。そう考えたときに浮かんだのが、幼い頃から親しみのあった映画の存在でした。映像制作について学べて、学費をできるだけ抑えられて、なんとか通い続けるために短大で、映像以外に興味のあることも学べる大学。そこで見つけたのが大阪芸術大学短期大学部でした。私にとって短大はたくさん考え抜いた先に見つけたベストな選択でした。



クランクアップ時の様子

通い始めてからも症状はなかなかよくなり、鬱蒼とした日々を過ごす中で唯一の光となったのが執筆作業でした。それまでは自分が物語を書くなんて想像もしていませんでしたが、友人から「今の気持ちでしか書けないことがあるんじゃないか」と勧められ書き始めた脚本。誰にも話したことのなかった自身の高校時代のことを物語にしていくうちに、昔の自分が救われていくような感覚がありました。出来上がった脚本をまず見ていただきたいと思ったのが三原先生でした。先生にアドバイスを頂きながら、短大時代の同級生たちに声をかけて仲間を募り、映画「悠優の君へ」の制作が始まりました。思うようにできなかった学生時代でしたが、卒業してから、自分のしてきた選択の先で出会ったたくさんの人たちとこうして一緒に作品作りをすることができて、出会いや縁の大切さを実感しました。短大に通ってよかったと心から思います。

ののはらちゃんねるにて映画の予告動画を公開中です。



推薦者／大阪芸術大学短期大学部
メディア・芸術学科教授
三原 光尋



映画のワンシーン

版画から切り絵へ： 小さな生き物への 興味を作品に

いわた まいこ

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
美術工芸学科プリントメイキングコース
2002年卒業



Web サイト



美専では、プリントメイキングコースにおいて、木版画、銅版画、リトグラフ、写真など、多岐にわたる「プリント」の技法を学びました。インクやシンナーのにおい漂う工房で、自由な雰囲気の中で作品制作に没頭し、先生方からは技法だけでなく、「物事をどう見るか」という視点についても深い教えを受けました。

卒業後、私は小売業界に足を踏み入れ、しばらくは作品制作から遠ざかっていました。しかし、機会を得て動物園への転職。

動物園での仕事は、展示物の制作や教育普及に関わるものでした。子供向けの行事の企画を担当する中で、クリスマスツリーの装飾ワークショップを手がけることになりました。紙とハサミを駆使して作成した切り絵の動物たちが、クリスマスツリーを彩りました。子供たちと一緒に手を動かす楽しさを再発見し、作品制作への情熱が再燃しました。

その後、動物園を退職、独立の道を選びました。今では昆虫や魚など身近な生物から、顕微鏡の下で観察したプランクトンのような微生物など、とりわけ小さな生物を切り絵作品の題材として制作しています。



切り絵作品「2匹の金魚」

出会いは偶然でしたが、私にとって切り絵は、生物の造形の美しさ、緻密さ、巧みさを見たときの驚きをそのまま表現するのに最適な手段となりました。



切り絵こけし「けし子ちゃん」シリーズ

現在は個展やグループ展で展示する作品の制作のほか、絵本の制作も行なっ

ています。2021年には初めての絵本「アリのメアリ」がBL出版より刊行されました。

はじめに「絵本作りませんか？」と編集者の方から声をかけられてから3年の長い道のりでしたが、ストーリーからラフ、完成まで苦しくも楽しい作業でした。



絵本「アリのメアリ」

切り絵は学生の頃に学んだ技法とは違う方法ですが、何枚もの紙を重ねていくプロセスに、時折版画との共通点を見出すことがあります。

近々プレス機を使う機会がありそうなので、版画にも再挑戦してみようと考えています。

推薦者／大阪芸術大学 美術学科 教授 日下部 一司



切り絵作品「アノマロカリス」



バードウォッチング
Peng Tao
1620×1300
油彩/キャンバス



clng
中村 志穂
410×318
油彩/麻布



アヒルとゾウ
山本 廉太郎
380×455
油彩/キャンバス



"2"
伊藤 空音
560×640
シルクスクリーン/
油性インク・PHO紙



睡魔
ナイマ・ワジディ
359×329
銅版画/油性インク・ハーネミュレ紙

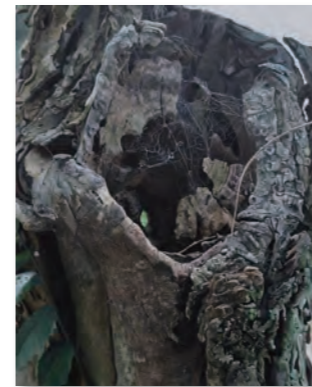


くま
奥 睦
215×215
銅版画/
油性インク・アクリルガッシュ
・ハーネミュレ紙

カーテン
竹本 結
350×350
シルクスクリーン/
油性インク・手彩色・和紙



巡礼
竹中 美空
1300×4860
紙本彩色/和紙



life
本多 徹朗
1620×1300
油彩/キャンバス



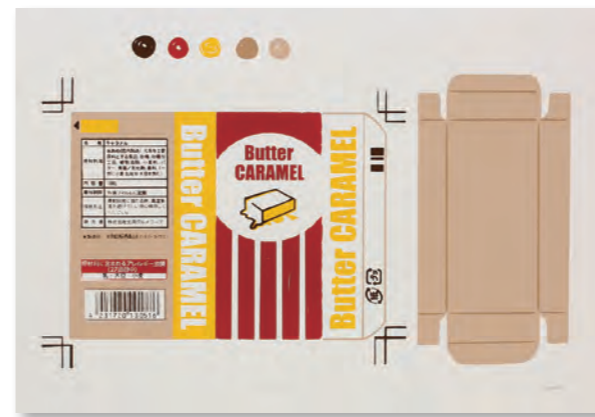
いつも通り。
瀧井 ひかり
1620×1300
油彩/キャンバス



向日葵
川戸 祥帆
1620×1300
油彩/キャンバス



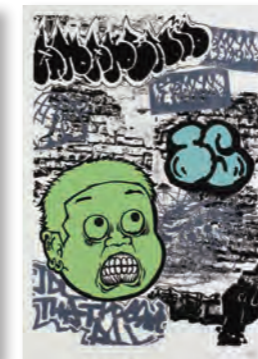
いつまでも
中村 萌々子
1620×1300
油彩/キャンバス



Butter Caramel
濱田 遼花
544×726
シルクスクリーン/紙



Lesson
西岡 壘
290×210
リトグラフ/紙



暴動
東 航輝
726×544
シルクスクリーン/紙



pattern
井口 杏
178×120
エッチング、アークアチント/紙



ひとり
井上 航汰
450×305
木版/紙

工芸学科
金属工芸コース

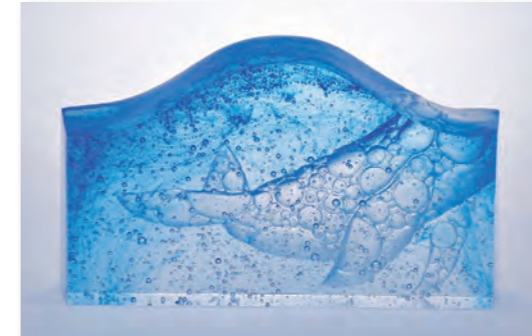


繋ぎ
Huang Ho Yi
各H30 × W100 × D100
彫金 / アルミニウム、銅

3回生銅金課題
江口 恵太
H500 × W300 × D300
銅金、彫金 / 真鍮

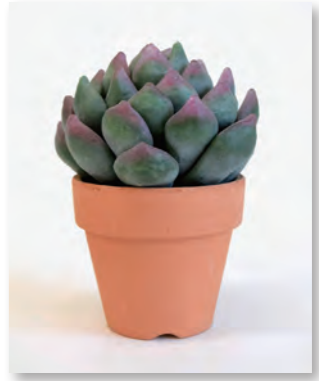


工芸学科
ガラスコース



Migratory fish
遊佐 彩音
H135 × W235 × D55
キルンキャスト / ガラス

陽
葉師寺 千誉
H110 × W150 × D110
キルンキャスト /
ガラス、植木鉢



わんこ
河西 菜緒
H500 × W500 × D300
蠟型鑄造、TIG溶接、手びねり / ブロンズ、銅、銀



鍛銅花器
澤 彩乃
各H130 × W100 × D100
鍛金 / 銅



Xx&Yy
Huang Yi
各500 × 600
溶接 / 鉄、銅



山粧う
宇川 和洋
H110 × φ50 H110 × φ70
ホットワーク、サンドブラスト / ガラス



メモリアルブーケ
斎藤 笑佳
H301 × W320 × D310
キルンキャスト / ガラス



flapping
村川 羽奈
H400 × W400 × D85
キルンキャスト / ガラス、モールドミックス

工芸学科
陶芸コース



吸いこみ
内丸 彩夏
H290 × W380 × D395
手びねり / 陶土

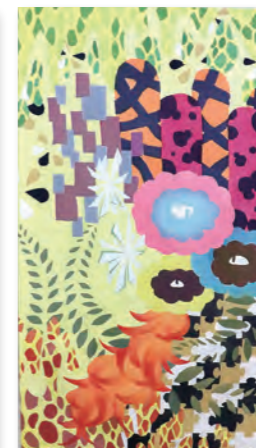


境界
中村 幹
H380 × W370 × D170
手びねり / 陶土

工芸学科
テキスタイル・染織
コース



すずめの世界
村田 佳緒
H450 × W390 × D3
綴織 / 綿糸



未完の記憶
福嶋 愛未
H1640 × W890
蠟染め / 綿布



深操
佐藤 幸一郎
H610 × W490 × D300
手びねり / 陶土



殻破り(意思)
峯松 亜嵐
H230 × W510 × D800
手びねり / 陶土



似た者
増子 僚
H250 × W215 × D275
タタラ技法 / 陶土



変化
丸谷 彩華
H1167 × W909 × D30
蠟染め / 綿布



Jelly fishman
辻村 舞里愛
H1260 × W2000
蠟染め、刺繍 / 綿布



マンドリル
竹下 穂乃香
H1350 × W650
ノッティング / 残糸

ハガキ 短 信

●足立千佳(旧姓・後藤)

大阪芸術大学 美術学科 平成 17 年卒
現学生さんの頑張る姿がたのもしく、また、懐かしく拝見させていただいております。直接存じないですが、同じ大学の方が日本中、世界中で活躍されておられることを知ることができて、とても励みになっています。ありがとうございます。

●北田綾花(旧姓・浅野)

大阪芸術大学 美術学科 平成 20 年卒
いつも wings 楽しく読ませていただいています。小学校図工の非常勤講師を続けながら、銅版画作品の制作発表を続けています。大芸での懐かしいことや、ご活躍される皆さまに触れられる時間をありがとうございます。

●蔵升章子

大阪芸術大学 美術学科 平成 11 年卒
Wings44 号で、同郷のデザイナー、佐々木侃司先生の遺作展が紹介されており、大変嬉しく思いました。北広島町は画家薔光も輩出した町です。この故郷に誇りを持って、これからも絵を描き続けて行きたいと思いました。

●敷名孝夫

大阪芸術大学 美術学科 昭和 55 年卒
私は文具と事務用家具のメーカーに勤めており、職務は空間デザインです。本年 1 月で満 65 歳となり、無事、定年退職になりました。その後、会社と契約を結び、契約社員としてデザインの仕事を続けています。(一年更新) 2 年毎に、同期約 20 名でグループ展を催しています。(マサゴ画廊) 今年が実施年になります。(12 月開催予定 / F6 展)

●林 昌尚

大阪芸術大学 美術学科 昭和 55 年卒
油絵を学びましたが、最近では写真ばかり撮影しています。2015 年には「日経ナショナルジオグラフィック写真賞」のネイチャー部門最優秀賞をいただきました。

●平井康夫

大阪芸術大学 美術学科 昭和 61 年卒
2023.3 月をもちまして 36 年間つとめた教諭生活に終止符をうち、退職しました。絵を描く時間を増やしていきたいです。

●道田篤男

大阪芸術大学 美術学科 昭和 58 年卒
・令和 4 年の「尾道の四季展」で、秀作に選ばれました。
・現在は中学校で非常勤講師をしながら、油絵を描いています。数年後、画材店の壁画を描く予定になっています。(2500×2000)

●森田真理子(旧姓・荒井)

大阪芸術大学 美術学科 平成 14 年卒
いつも楽しみにしております。高校教員となるために東京に出て、もう 20 年が過ぎました。母校の活躍はとても楽しみです。しかしながら、現在美術の授業や教員は全国的に減らされており、美術教育の危機でもあります。母校のために何か出来る事がございましたらお知らせ下さい。

●山岡明日香(旧姓・橋本)

大阪芸術大学 美術学科 平成 11 年卒
いつも楽しく拝見しております。私に通っていた時は震災の後行方不明の学生に宛てた掲示が多かったのを思い出しました。現在、長男が私の影響をうけて昨年芸術高校に進学し現在同じ芸大に入る為勉強しています。2 年後良い報告ができれば親子 2 代いけるかしら？と今からワクワクしています。

●初田尚吾

大阪芸術大学 デザイン学科 平成元年卒
今回の企画の「あのころ、あの場所で」(part3)が、すごく良かったです。思わず、見入ってしまいました。そして、校友会の齋藤先生が亡くなられた事にビックリしました。1985 年時、オレンジのギャラン、ラムダに乗られていました。

●輪場ミツ子(旧姓・奥山)

大阪芸術大学 デザイン学科 昭和 44 年卒
ウイングスを毎号ありがとうございます。2 期生で卒業して、多くの後輩が活躍されているのを知れるのは、喜びです。今は絵手紙を描くのを楽しみとして暮らしています。

●待田和宏

大阪芸術大学 工芸学科 昭和 51 年卒
前略、校友誌ウイングス拝読させて頂いております。毎時、素晴らしい校誌を楽しみにしております。扱て、御都合もあろうかと存じますが、もし宜しければ、話題の提供の一助になればと思いつ記させて頂きました。プロフィールは「待田和宏」か「陶芸家待田和宏」で検索して頂ければわかるかと存じます。因みに今年 8 月下旬に 5 年越しの個展を名古屋の松坂屋で開催予定です。どうぞ編集者の皆様は自愛下さいませ。

●荒堀和則

大阪芸術大学 建築学科 昭和 51 年卒
WINGS 送って頂きありがとうございます。今年は卒業制作展を見に行かせて頂こうと思います。また、白浜研修センターへも行きたいです。今後とも宜敷くお願いします。

●黒田多嘉雄

大阪芸術大学 建築学科 昭和 56 年卒
平素よりお世話になります。会報を見るたびに学生の頃をなつかしく思い出します。ありがとうございます。

●澤村幸男

大阪芸術大学 建築学科 昭和 59 年卒
「wings」をお送り下さりありがとうございます。今から 40 年前の学生時代を思い出します。今後とも継続していくことを希望します。

●野々村茂樹(旧姓・森脇)

大阪芸術大学 建築学科 昭和 50 年卒
毎年、大阪芸術大学卒業制作展、大学院修了制作展、大阪芸術大学グループ卒業制作選抜展等を見に行っています。若い学生さん方が命がけで制作された作品を見ると、今年も頑張ろう、生きよう！という気持ちが出てきます。近未来のアートの姿が、かすかに見えます。第三次世界大戦を回避して次の素晴らしい文明を築いて欲しいと願っています。

●丸岡彦太郎

大阪芸術大学 環境計画学科 平成 10 年卒
女子駅伝 10 位おめでとうありがとうございます。本誌が年々充実していることをうれしく思います。また職業的に福原先生がお元気で活躍されている記事がよかったです。はやいもので末の子が大学受験の年になりました。この歳になると大学時代を急に思い出し息子に語っております。

●黒田 誠

大阪芸術大学 映像計画学科 昭和 58 年卒
小学生の頃から図工が好きだった私が、中 2 で出会った「宇宙戦艦ヤマト」人生はヤマト一色になり気がつくると芸術大学へ入りました。すべて松本零士大先生のおかげだと思っております。先日の訃報を見て、又、日本は大切な宝(たから)をひとつ失ってしまったと涙しております。偉大なる松本零士大先生、永遠なれ!!

●荒巻道洋

大阪芸術大学 文芸学科 平成 6 年卒
芸大に属していた事は、今、年令を重ねる度に価値観や視点の多様性にあまり先入観や抵抗感を持つことなく触れることが出来る自分に気付くことで、光り輝きます。

●水野拓史

大阪芸術大学 文芸学科 平成 9 年卒
東京で 20 年、雑誌・書籍のデザインをしておりましたが、地元に戻ってフリーのデザイナーとして活動を始めております。主に朝日新聞出版のムック本などをデザインしていました。

●尾形寛子(旧姓・高木)

大阪芸術大学 放送学科 昭和 63 年卒
2023 年 1 月より、社内起業家制度で現代アートプラットフォーム「Art Valley」を立ち上げました。是非賛同いただける方は、ご参加いただきたいです。お問い合わせ下さい。EC サイト : artvalley-tokyu.jp Instagram : artvalley-tokyu ★東急(株)FDL Art Valley プロジェクトリーダー

●川村密善

大阪芸術大学 放送学科 平成 28 年卒
大学卒業後、山形県のケーブルテレビ、三重県のコミュニティ FM で制作・アナウンサー、そして岡山県のケーブルテレビでまたアナウンサーをやっています。転々としていますが、放送、しゃべりの仕事に就くことが出来、ありがたいと思う日常です。また、私生活では、一つ下の同じアナウンスコースの後輩と結婚し、3 月に子どもが生まれました。父としても頑張っていきます。

●木口賢司

大阪芸術大学 放送学科 平成 5 年卒
卒業後異業種の世界へ飛び込んで早 30 年。毎年、業界活躍の OB、OG の姿を見て活力を頂いております。

●田中利幸

大阪芸術大学 放送学科 平成 28 年卒
先日和歌山旅行に行った時、大阪芸術大学の看板が…。そういえば研修センターが白浜にあったんですね。在学時に利用した事がなかったので、今回の WINGS で紹介されているのを見て利用してみようと思いました!

●田中 祐

大阪芸術大学 放送学科 平成 2 年卒
毎回 Wings を拝見させていただいています。「あのころ、あの場所で、」を見ていて僕が通っていた頃と今ではがらりと変わりました。近鉄志志駅からバスに乗っていましたが、外の風景もみんな変わりました。場所や風景は変わっても、学校(学生)時代の思い出は変わることなく心の中にとどめています。

●前川 進

大阪芸術大学 放送学科 平成 5 年卒
和田浩明先生が昨年 3 月にご逝去されたこと B89 のグループ LINE で知りました。遅まきながら、和田先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

●黒田まり子

大阪芸術大学 音楽学科 昭和 47 年卒
カラー写真いっぱい立派な校友誌をありがとうございます。私方、目が悪くなり、残念ながら記事は多く読めませんが、写真で皆様のご活躍を感じ、うれしく拝見いたしました。高齢者になりましたが、学生時代に習った曲等をピアノで弾くことが、いやしと楽しみでございます。皆様、お元気で、ますますご活躍くださいませ。

●佐藤 岬

大阪芸術大学 音楽学科 平成 22 年卒
現在も大学の授業で結成したグループで活動しています。ぜひ、機会がありましたら、ライブ公演等お声がけ下さい!!

●長坂憲道

大阪芸術大学 音楽学科 平成 5 年卒
長年勤めた公立高校の音楽教員を辞め、ソロデビュー 20 周年のアルバムづくりで集中しようと思ったら、突然の立ち退き要求で 10 年住んだ家を追い出されることに。一念発起でスタジオ付き住居を購入、53 歳になった秋には第二子が誕生。上の子が 20 歳になる頃には私は 65 歳、そして下の子が 20 歳になる頃には 73 歳!なんとかして生き延びたいものです。

●石山真理(旧姓・村岡)

大阪芸術大学 演奏学科 平成 13 年卒
H16 より中学校採用となり音楽教師としてつとめております。また、スキルアップのため、本年度より兵庫教育大 大学院 障害科学コースで学んでおります。

●田村隆義

大阪芸術大学 演奏学科 昭和 51 年卒
毎年、12 月に開催される、全日本大学女子駅伝を、いつも楽しみにしています。陰ながら、応援しています。頑張ってください。ありがとうございます。

●土井千里(旧姓・藤林)

大阪芸術大学 演奏学科 平成元年卒
今回(昨年 12/19 フェスティバル H) にレクイエム聴きに行きました。今回 4/29 のフェニックスホール(ピアノ発表会)を申し込みました。「ピアノ」に興味があるので友人と聴きに行きます。ありがとうございます…

●濱田真里子(旧姓・藤岡)

大阪芸術大学 演奏学科 昭和 59 年卒
38 年間勤めた府中(中学や支援)学校を定年退職し、引き続き短時間で働いております。授業でピアノを演奏すると、曲想に合わせてじっときき入ったり、弾きおわると「自分も!」とばかり鍵盤をたたいたり、拍手で共感を示してくれたり…。次はどの曲を弾こうと。日々の練習にも熱が入り、音楽の喜びを実感する毎日です。

●山田 操

大阪芸術大学 演奏学科 昭和 62 年卒
今年 37 回目の発表回をむかえます。50 回はがんばりたい!! 毎回楽しんで拝読させていただいています。

●小林桃子

大阪芸術大学 舞台芸術学科 平成 9 年卒
毎年 WINGS を届けて下さってありがとうございます。上京してからも年に 1 回は舞台に立ち続けています。今年は原作のある作品への出演が決まっており、東京公演と 10 年以上ぶりの地方公演が控えています。芸大時代の毎日芝居漬けの生活が幸せだったと改めて感じる年女です。

ハガキ短信

●河合明子(旧姓・田中)——
大阪芸術大学 芸術計画学科 平成 14 年卒
2002年に大阪芸術大学芸術学部を卒業して
20年後の2022年3月宇都宮大学大学院を
修了しました。大卒資格があったから修士に
進むことができました!!
大学時代たくさん勉強はできなかったけど、大
人になって学び返せて幸せです。

●谷口昌弘——
大阪芸術大学 芸術計画学科 昭和 58 年卒
芸大卒業後、米国ニューヨークへ留学その
後就職し十数年生活、帰国後長女も芸大
演奏学科を卒業することができました。私は
日本で数年前に定年を無事迎えました。最近
はマラソンを始めて、先日フルマラソンを完走
しました。近々再びニューヨークに戻ってビジ
ネスを展開したいと思っています。いつまでも
元気で頑張ります。芸大万才!

●中尾なおみ(旧姓・阪上)——
大阪芸術大学 芸術計画学科 平成 4 年卒
去年の4月から私の長男が、建築学科通
信制3年次に学士で編入学しました。学科、
通学の形はちがっても、なんとなく、縁み
たいなもの、感じています。働きながらな
ので大変だろうけど、親として、先輩(?)
としてもサポートしていきます。
がんばれ、息子!!

●福井博章——
大阪芸術大学 芸術計画学科 昭和 62 年卒
ある日のイベント現場での一休みの時。
「音響さん、芸大出身なんや。」「えっ、照明
さんも映像さんも芸大」。そこへやって来た
MCさん。「私も芸大です。」舞監の私も芸大。
なんと芸大出身者の多い現場なのかと考え
ながら、そんな現場が多くなったことを実感
する。恐るべし大阪芸大である。

●宮野和典——
大阪芸術大学 芸術計画学科 昭和 54 年卒
サラリーマンを経て、20年前より起業、
現在オーダー家具&ガーデン「ウッドペッ
カー」として、現役中!
インスタアカウント:w.p_garden

●中島裕司——
大阪芸術大学 大学院博士課程 (後期)
平成 20 年修了
いつも、いろいろと有難うございます。博士
の名に恥じないように常に、前向きに進んで
います。
日本の大学、特に私学で単なるデブプロミ
ルとしての大学は意味をなさないので、キチ
ンとした就職まで世話するような存在として芸
大は日本をリードして欲しいですね。

●中村 愛——
大阪芸術大学 大学院博士課程 (前期)
平成 16 年修了
2023年4月より、短大から同志社女子大学
へと、勤務先が変わりました。幼児音楽から
初等音楽教育へと専門分野がひろがり様々な
経験をつんでいきたいと考えています。

●佐藤美智子(旧姓・渋谷)——
浪速短期大学 デザイン美術科
昭和 44 年卒
ありがとうございます。
皆様がんばっていらして嬉しいです。
現在ステンドグラスの製作をしています。
ガラスの色あわせなど楽しんでいます。
4月には作品展をするなどして小さな喜びを♥
なつかしい事がいっぱいウイングス、よろしく
おねがいします。

●上村みゆき(旧姓・広瀬)——
浪速短期大学 広報マスコミ科
昭和 63 年卒
卒業して35年になろうとしています。
伊丹学舎一期生です。
あの頃は学生がとても少なかったです。でも、
真新しい校舎は何もかもが素敵でした。今は
どうなっているのでしょうか?

●森山美穂子(旧姓・岩田)——
浪速短期大学 広報マスコミ科
昭和 55 年卒
卒業してから44年近くになりますが、
WINGSを見るたびに懐かしさを感じます。
同級生とは各地で数年毎に同窓会を開催して
います。昔の円形校舎を思い出して、あの地
を歩いてみたいとも思います。全てが思い出
です。お世話になった先生方御健在でしょ
うかね。人生60余年の中で一番楽しかった短
大2年間です。
WINGS万歳!!

●橋本博子——
浪速短期大学 広報科
昭和 62 年卒
塚本学院校友会の企画広報委員の皆様が、
広範囲の情報を集約して分析評価をされ、
未来へ繋いで行ける内容を冊子にして頂け
本当に感服しています。
私は看護師として介護職員に医療的ケアを
指導していますが、送付されてくる冊子を参
考にさせていただく事もあり、本当に有り難
いです。
有難うございました。

●難波勇貴——
浪速短期大学 広報科
平成 23 年卒
「WINGS」が届くたびに学生だった頃を思
い出します。
私の人生の中で一番楽しく、勉強できた年
でもありました。現在勤めている会社でも大
学で学んだ事が活かされています。
当時、一緒に遊んだ友達は元気にしてるの
かな?色々な思い出をくれた大学時代に感謝
です。

●池松 静——
浪速短期大学 通信教育部 デザイン美術学科
平成 27 年卒
最後まであきらめず、卒業出来たことをバ
ネに作品制作にはげんでいます。作品展で
祝花が、一段と華やかに色どり、又来られ
た方からも喜ばれます。作品の一部でチャ
リティをし、一部を小学校の子供の為の支
援活動を始めています。田舎ですが、是非
一度来てくださいネ。71才で頑張ってます。
(尾道から車で30分)

●相見美由紀(旧姓・下岡)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 59 年卒
表紙の絵がとてもすてきでした。
大好きなチーズとかわいいネズミが印象
的です。これからも活躍を応援しています。
ことし60才になりますが、絵を描こうと
思いました。

●在本桂子——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 54 年卒
夏の暑い時に学園内に泊まり込み実習の
学科を受けました。ピアノが一番きつた
のですが、一番やりがいがありました。勉強
させて頂いたおかげで幼稚園の勤務は10
年と短かったのですが、あとは地域おこ
しのため、全力投球し力を頂きました。

●大口英子(旧姓・和田)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 47 年卒
勤務2年目で通信教育、400名での夏1ヶ
月の実習が楽しく、バレー大会などのし
ました。
保育所勤務60才まで。短大の書類が届く
ととてもなつかしい。通信の教育がやる
気がつなりました。

●久保ハツミ(旧姓・横道)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 43 年卒
長い間学校との連絡がある事を嬉しく思
っています。通教で資格をとり、保育所に
35年間お陰で勤め上げる事が出来ました。
卒業時、塚本校長と5人ずつで対面させ
て頂きました事、やさしい笑顔が忘れら
れません。退職し、みかん作りを主人よ
り受け継ぎ、今も頑張っています。すで
に78才、これ迄に立派になった芸大を
誇らしく思っています。これ迄のご案内
に感謝し、母校の発展念じておます。

●関口幸子——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 52 年卒
通信教育で学び、その時の友が山の内
保育園の初代園長(野田初枝様)となり、
共に一からスタートしました。40年間
お世話になった保育園、退職後は、身
近な人達がこの世の中から居なくな
りました。
♥ウイングスの便りが、福永先生のお
元気な様子が励みになり、嬉しいです。
沢山の友達のお陰でウイングスが届く
感謝です♥
※岡山の寒竹洋美さんが我が家で2ヶ
月滞在し、学び一緒にスクーリング、
実習をしました。彼女の近況が知りた
い。

●多田サチ——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 45 年卒
公立幼稚園24年勤めました。
その後、市、社会教育指導、民生委員、
教育委員など務めることができました。
88才になりますが、今も元気でボラン
ティア活動をしています。
スクーリングの楽しさを思い出します。
通信ありがとうございます。

●仲井栄子(旧姓・植村)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 46 年卒
退職して14年、今でも思い出すのが短
大の夏のスクーリング(2回)学習よりも
夏の学園祭の出し物が楽しかったです。
資格を取り幼稚園教諭、園長11年と幼
児教育に携わってきました。ウイングス
が届くと短大の頃を懐かしく思い出
します。立派になった校友会誌いつも
ありがとうございます。

●西脇正子(旧姓・野田)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 45 年卒
ウイングスを送っていただき、ありが
とうございます。毎号、拝見する度に、
夏のスクーリング、体育館に宿泊して、
朝は早く起床し、レポート作成に頑
張ったこと、卒業式塚本学長から卒
業証書を授与した時の感動…。思
い出が蘇ってきます。幼稚園勤務
定年退職後も幼稚園、小学校の絵本
読み聞かせで子ども達からパワーを
もらっています。貴校のご発展をお祈
りします。

●華房 満(旧姓・大浦)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 36 年卒
☆すばらしい冊子を送付有難うござ
います☆
当方、浪速短大時代に保育科通信教
育にて幼稚園教諭資格を得て、中学
卒業から工場勤め10年後に25才で
幼稚園教諭として担任しました!
現在87才ですが、たっぷり楽しく読
ませて頂きました。
ありがとうございます。

●古市サチ子(旧姓・横井)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 43 年卒
後輩の皆様活躍をいつも楽しみに
しています。私は退職後、少しでも
地元へ貢献できればと、元気にボ
ランティアを続けています。

●松葉小夜子(旧姓・多田)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 37 年卒
保育科卒業から50年以上たち、40
年以上勤めた保育所も退職し、今
は趣味の俳句を楽しんで居ります。
古い昔の私達にも忘れる事なく、
ウイングスを届けて下さる事に感
謝の念で一杯です。あの頃のが
んばりがあったから、保育の道
を貫く事が出来たのだと思っ
て居ります。

●森 良子(旧姓・水津)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 45 年卒
いつもお世話になっております。
WINGS楽しみに読ませて頂いて
おります。この度、息子宅に同居
することになり断捨離を致しま
したが、保育科時代の思い出の
品々は大切に残しております。
いまでも連絡を取りあい友好を
深めております。保育科で学ば
せて頂いたことを30年間介護
の現場で活かしお仕事を続け
ております。今後も貴校の発展
と皆様の御活躍を祈っております。
有難うございました!!

●山本宏子(旧姓・山岡)——
浪速短期大学 通信教育部 保育科
昭和 39 年卒
何十年経っても学校からの通
信がきてうれしいです。
あの頃に戻って、今とくらべ、
ページをめくりながら感謝
しています。公立保育所、幼
稚園勤務40年間、車の運転
歴53年間80才で車の免許返
上しました。現在83才、徒歩
とバスでの日常生活でゆっ
くり、ゆっつりの一日を幸に
過ごしています。健康はあり
がたい事です。

●佐々木裕子(旧姓・木田)——
大阪美術専門学校 デザイン学科
昭和 60 年卒
今年はいつかと心待ちにしてい
ました。朝、ポストをみて
wingsが入っていたのでうれ
しく思いました。学生時代の
夢をたまたま見ていたのでも
ししたらと思っていたのがあ
たりました。今後よろしくお
願いします。

●賀川剣史——
大阪美術専門学校 デザイン学科
昭和 62 年卒
2022年2月のロシア侵攻から
困難な世界情勢が続きますが、
松井桂三先生が国際審査委員
長を務められましたGolden
Bee 15に作品出展参加する
ことができました。世界平和
が来る日を願っています。

ハガキ短信に寄せて…

…この数年ハガキ短信を送って下さる方が
大変増えて嬉しい限りです。懐かしい思
い出や記事についてのご意見、ご自分
の活動の様子等々。紙面の都合上その
すべての掲載が出来ないことは残念
ですが、皆様とウイングスを繋ぐ
欄として今後も多くのお便りをお
待ちしております。

書籍・CD・DVD出版

著者・出版物のご案内



BOOK 3訂 図書館と情報技術
検索技術者検定3級 対応
著者—徳田恵里 他
(大阪芸術大学文芸学科卒)
出版社—樹村房
定価—2,200円+税



BOOK 食糧経済年鑑
令和五年版
著者—宮脇 透
(大阪芸術大学文芸学科卒)
出版社—食糧経済通信社
定価—8,000円+税



BOOK 鼻腔ガンになった話
著者—やよいかめ
(大阪芸術大学工芸学科卒)
出版社—株式会社KADOKAWA
定価—1,200円+税



BOOK 大江戸秘密指令2
景気回復大作戦
著者—伊丹 完
(大阪芸術大学舞台芸術学科卒)
出版社—二見書房
定価—800円+税



BOOK 大江戸秘密指令3
お殿様の出番
著者—伊丹 完
(大阪芸術大学舞台芸術学科卒)
出版社—二見書房
定価—800円+税



BOOK 初恋写真
著者—藤野恵美
(大阪芸術大学文芸学科卒)
出版社—株式会社KADOKAWA
定価—860円+税



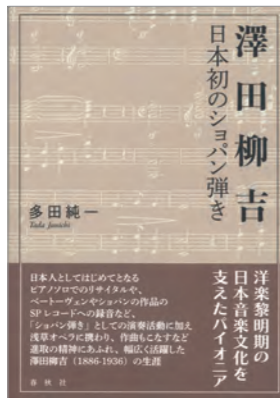
BOOK 人魚と過ごした夏
著者—蓮見恭子
(大阪芸術大学美術学科卒)
出版社—光文社
定価—1,800円+税



BOOK 井の中の蛙
人は繋がっている
著者—三浦部保男
(大阪芸術大学放送学科卒)
出版社—文芸社
定価—1,100円+税



BOOK ぐうちよきばあまん
著者—宮田 透
(大阪芸術大学芸術計画学科卒)
出版社—株式会社アラト
定価—500円(税込)



BOOK 澤田柳吉
日本初のシヨパン弾き
著者—多田純一
(大阪芸術大学大学院博士課程(後期) 修了)
出版社—株式会社春秋社
定価—4,500円+税



BOOK 暗き麗女たち
著者—高橋善丸
(大阪芸術大学デザイン学科卒)
出版社—パイ インターナショナル
定価—3,600円+税



BOOK 野田正明 50年の軌跡
—ニューヨークから世界へ—
著者—野田正明
(大阪芸術大学美術学科卒)
出版社—高梁市成羽美術館
定価—5,000円+税

令和5年度 校友会社会貢献等支援事業概要

塚本学院校友会社会貢献顕彰制度委員会 委員長 小山保広

令和5年度社会貢献等支援事業審査状況

社会貢献顕彰委員会では、毎年度校友会員の連帯意識の高揚と母校の発展を目指して会員等に対する表彰制度と会員による社会貢献等の事業支援制度につきましてその推薦又は申請について審査しております。令和5年度は、表彰制度は推薦がありませんでしたので、社会貢献等支援事業につきましてその審査結果について報告します。

本年度は申請が2件あり、審査の結果つぎの事業の支援が決定しました。

- ①特定非営利活動法人SST交流会が行う事業で、職場、学校等様々な場面での対人関係で不安を感じている人、精神的に生き辛さを感じている人達の改善に向けて「よいとこ探しとほめ方ワークショップ」を体験することで不安を取り除きたい。「讃めるといことは、共によるこぶこと」の理念を掲げ更なる社会貢献に寄与していきたいという事業を支援する。
- ②ニューアート・ZERO会が主催する様々なジャンル、年齢の幅広い作家の方々の作品展。“ゼロ展”を支援する。

塚本学院校友会事務局 〒546-0023 大阪府大阪市東住吉区矢田2-14-19
TEL 06-6607-1988 FAX 06-6607-7485

社会貢献顕彰制度委員会からのお知らせ

●塚本学院校友会 顕彰制度

芸術・文化・スポーツ活動等諸活動において、顕著な功績をあげ校友会及び母校の名を高めた会員(準会員含む)及びその団体等を表彰します。

- ◎自己推薦は、ご遠慮ください。
- 種類 塚本学院校友会賞(会員及びその団体)
- 塚本学院校友会奨励賞(準会員及びその団体)
- 塚本学院校友会会長賞(会員・準会員及びその団体)
- 塚本学院校友会特別賞(会員・準会員不問)

大阪芸術大学グループ

塚本学院校友会では、

会員の連帯意識の高揚と母校の発展を目的として表彰制度と社会貢献事業等への支援を行います。

●塚本学院校友会 社会貢献等支援事業制度

校友会員の士気の高揚と社会文化の発展に寄与することを目的に、会員(準会員含む)及びその団体が行う各種社会貢献活動等の円滑な推進を支援します。

種類(例示)

- 社会福祉推進事業の支援・災害に対する復旧・復興支援・国際交流事業の推進支援
- 学術・研究事業の推進支援・文化・芸術・スポーツ活動等の支援・その他社会貢献活動の支援

2024年度締め切り
2024年5月31日 金
消印有効

必ず配達記録郵便「レターパック」にて
校友会事務局まで郵送してください。



社会貢献顕彰制度委員会

塚本学院校友会事務局

〒546-0023 大阪市東住吉区矢田 2-14-19

TEL.06-6607-1988

FAX.06-6607-7485

HP:<http://koyukai.osaka-geidai.ac.jp>

E-mail:tgkouyukai-3@giga.ocn.ne.jp

手続き

- 会員等の推薦者
 - 事業支援希望者
- は、必要書類を校友会ホームページよりダウンロードするか、または事務局までご連絡ください。

大阪芸術大学体育会 アメリカンフットボール部OB会支部

大阪芸術大学体育会アメリカンフットボール部 総監督 岡田 邦彦

昨年12月に行われた甲子園ボウル(全日本大学アメリカンフットボール選手権大会の決勝)に23期OBの原田譲治くんがサイドジャッジとして出場いたしました。

長きに渡り公式審判員を務められ、その実績が関西学生アメリカンフットボール連盟に認められた結果です。OB会として原田君の長年の功績を讃え、特別功労賞として表彰することとなり、去る3月19日に大阪梅田のニュートウキョウで表彰式を執り行いました。

アメリカンフットボールの審判員は1試合7人ですが、全国の審判員の中の7人に選ばれたわけですから本当に素晴らしいことと言えます。

現在現役クラブが休部中なのでOB会活動の機会も少ない現状ですが、今出来ることを考え、活動を少しでも増やしていければと思っております。

校友会会員の皆様の中で高校でスポーツクラブに入っていたけれど、大学は芸術系に進みたいと思っている高校生の情報が有りましたら是非ともご一報お願いいたします。

アメリカンフットボールという競技は個々の特性を最も生かせるスポーツでオールマイティーなスポーツ能力は入りません。個々の個性を伸ばすという観点からも、私は最も芸大生に適したスポーツあると思います。

是非芸大アメリカンフットボール部バイパスに入学し、文武両道を実践してもらえたらと願います。

よろしく願いいたします。

Let's rise again Vipers!



原田譲治くん



梅田ニュートウキョウにて祝賀会



表彰式



記念トロフィー

校友会支部を立ち上げませんか

塚本学院校友会支部は、校友会本部との連携をもとに、支部会員相互の親睦と母校の発展に寄与することを目的に活動しています。現在、学科支部が5支部、クラブ支部が3支部、地域支部が3支部、それぞれ活動を展開中です。

会員のみなさんも校友会支部を立ち上げて、互いの親睦を図るとともにネットワークを築き、各種イベント等を企画し、楽しく活動をしませんか。開設前の事前相談等は、お気軽に校友会事務局までお問合せください。 支部運営委員長 奥見 俊晴

校友会事務局 TEL 06-6607-1988 FAX06-6607-7485

演奏学科管弦打支部

支部長 山本 恭平

大阪芸術大学卒業生の皆様こんにちは。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、徐々に生活を普通に戻すようになり、感染症対策を行って、大学内外でも演奏会等イベント活動が普通に開催されるようになりました。

感染者は減少しましたが、インフルエンザも学内で発生し演奏会の開催にも多少なりとも影響することがあります。

大阪芸術大学演奏学科管弦打支部では、定期的と同窓会総会及び同窓生の交流と親睦を兼ねて演奏会(大阪芸術大学卒業生による演奏会大阪芸術大学ヴィルトゥオーゾウインドオーケストラ演奏会)を開催していましたが、2020年から開催を中止しております。

塚本学院校友会より交付金(塚本学院校友会社会貢献等支援事業)の支援を賜りましたが誠に残念ながら「2年続けて中止」との判断をさせて頂きました。

同窓会総会及び演奏会については、「安心して演奏会が開催できる」と判断出来る時まで待ちたいと思います。卒業生の皆様におかれましては、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。演奏会開催の日が早く訪れることを祈り、お互いに笑顔で再会いたしましょう。



2015年 総会



2018年 15回演奏会

大学では、高校生を対象に関西音楽コンクールを2023年に開催いたしました。開催詳細(<https://oua.osaka-geidai.ac.jp/kancon/>)、昨年度の結果(<https://oua.osaka-geidai.ac.jp/kancon/prize.html>)をご覧ください。2024年も開催を予定しています。皆さんの周りにも高校生で演奏活動をされている方がおられましたら紹介ください。

大阪芸術大学主催で、「大阪芸術大学ドリーム・ウインド・オーケストラ」演奏会が開催されました。関西を中心に活躍する楽団や団体の枠を超えて集結した楽団で、6月に初公演を開催いたしました。詳細記事をご覧ください。(https://www.osaka-geidai.ac.jp/topics/concert_dwo_2023)

卒業生が徐々に教員として大学に戻り後進の指導に携わっていただいています。卒業生が母校に戻り指導いただけることは、大変うれしい事です。これからの学生の成長が楽しみです。

これからの大阪芸術大学演奏会予定をお知らせいたします。

文責 / 植村 悦和

2024年

- 3月 8日(金) 17:30 第45回オペラ公演 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール
- 3月 15日(金) 18:00 ポピュラー音楽コース卒業演奏会 大阪なんば hatch
- 3月 16日(土) 16:00 ピアノ・声楽・管弦打コース卒業演奏会 住友生命いづみホール
- 4月 21日(日) 15:00 大阪芸術大学学生によるピアノ演奏会 ザ・フェニックスホール

4公演が開催されます。

現役の学生の活躍をご覧ください。

入場券を希望の方はメールでご連絡いただけましたらご招待券を用意させていただきます。

Mail : y-uemura@osaka-geidai.ac.jp 植村までお願いいたします。

関西音楽コンクール 2023
詳細 結果



大阪芸術大学
ドリーム・ウインド・オーケストラ
2023 詳細



映像学科支部

コロナ禍の中で支部総会は同窓の懐かしい交友の場として対面で行いたいとの考えも有り

開催が中断しておりましたが、2023年2月19日(日)の卒業制作展最終日に7号館 映像学科の教室にて3年ぶり開催することが出来ました。3年ぶりの総会の大きな変化としての報告事項は、支部会長にV6村上敬造教授(芸術計画学科長)が就任。支部役員も運営のフットワークを円滑にするために在学の教員を中心に理事を選出。選出は理事会で行い、総会にて報告の形にて承認を得るなど、細かな改革を行うことで動きやすい体制の組織と成りました。改革の一つに「支部会は入学時に校友会費を納めたものを正会員として構成。」これにより諸事情での未卒業生も正会員として会員相互の親睦を深め、母校の交友会の発展に寄与して頂くことに成りました。正会員の皆様よろしくお願いします。

なお、支部事務局を大阪芸術大学芸術計画学科に置くことといたします。

総会では会長から「映像学科の支部活動を校友会として相互に支える立場を明確に示され、映像学科主導のもと今後の事業を交友の皆様と盛り上げて行きましょう。」との言葉。

その後、映像学科新学科長のV7田中光敏教授の挨拶が有り現在の映画界の現状と映像学科の映像教育の有り方を踏まえカリキュラム改革を進める目標を示されました。今後の映像学科を大学案内等でご確認頂けることと成ります。まさに映像学科と支部の新たなスタートと成りました。正会員の皆様方、どうぞ校友会に積極的にご参加をお願い致します。

ホームページとX(ツイッター)にアクセスをお願い致します。

寄稿文:支部校友会副代表 V8 千光士 義和
(芸術計画学科 客員教授)

校友会本部理事の吉川幸夫先生の退任に伴う推薦にて本部理事の支部活動運営委員会役員と成りました。今後本部と映像学科支部の円滑な運営と発展に努めますのでよろしくお願い致します。



村上会長(左)・田中学科長



支部総会

<事務局より>
コロナ禍で止まっておりました総会や記念同窓会は、開催に向け準備を進めています。決定次第、メール及びホームページ等でお知らせいたします。住所変更や入会の方は、映像学科支部事務局まで是非ご連絡ください。
(問い合わせ)
大阪芸術大学 芸術計画学科 担当:野田 副手
TEL:0721-93-3781(代)
支部Mail:v-dousou@osaka-geidai.ac.jp
支部HP:https://V-dousoukai-oua.jimdofree.com/
大阪芸術大学映像学科同窓会X(ツイッター):
https://twitter.com/DousouV77158

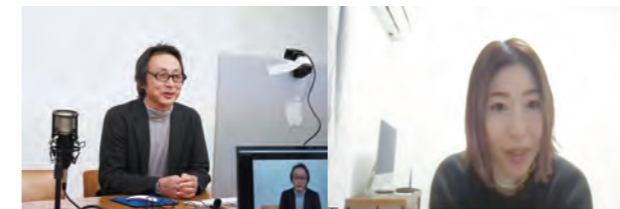
写真学科OB会支部活動報告

大阪芸術大学 写真学科 OB 会 支部長 奥見 俊晴

写真学科OB会総会2023年2月12日 記念イベントの報告

2018年12月に発足した写真学科OB会は、現在会員数が約400人になりました。会員相互の活動の輪を広げています。しかし、新型コロナウイルスの蔓延の影響により、OB会活動は様々な制約を余儀なくされておりました。卒業生同士の親睦を広めることこそ本会の最大の目的であり、この様な状況下でも可能なイベントを、総会に合わせ企画いたしました。

活躍されている卒業生を迎えてのトークショー
トークショーでは、卒業生の田中仁氏と筒井亜矢子氏を招いてお話を伺いました。東京工芸大学で教授を務められた田中仁氏には、井上博道先生が亡くなられて10年が経ち、2022年4月に記念館がオープンした井上先生の作品について、当時の思い出を交えてお話いただきました。また現在、奈良でSTUDIO WOMBを運営されニューボーンフォトの世界を牽引されている筒井亜矢子氏には、近年様々なメディアで注目を集めるニューボーンフォトの世界についてお話を伺いました。



田中仁氏 筒井亜矢子氏のオンライン放送

WEBギャラリーを用いた卒業生同士の近況報告
昨年に引き続き3DCGを使ったWEBギャラリー上に会員の皆様の作品や近況報告写真を展示し、一定期間卒業生に向けて公開いたしました。(WEBギャラリーはOB会専用となり、一般公開は致していません)。また総会当日は、Zoomを利用し、ギャラリー内を巡回しながら、お一人ずつ順番に写真に関するエピソードや近況などを語って頂き(希望者のみ)、学年の隔てなく同窓生同士の近況報告/ギャラリートークを行いました。

卒業制作展の展示風景紹介

2022年度大阪芸術大学卒業制作展の様子をオンライン

で紹介しました。関西を離れてなかなか卒業制作展に行く事ができない方にも、現在の学生たちがどのような作品を制作しているか見ていただく機会になりました。



オンライン放送メンバー

写真学科OB会も5年が経過し、ホームページでは卒業生の展示・出版等の活動告知や、総会などを通して、卒業生同士の交友を広げるべく活動を行なっております。

現在、OB会の運営は十数名の理事を中心にボランティアで行っておりますが、活動を継続するにあたり印刷費、ホームページの運用など諸々の経費が必要となっております。新型コロナウイルス感染が広がる以前は、総会の開催時に直接多くの方々から寄付を募り、会の運営資金として参りましたが、昨年度、本年度も大勢の人が集まる総会の開催ができず、今後の活動を継続するにあたりOB会運営費の調達が急務となっております。

つきましては、OB会の理念、活動にご賛同いただけます方々には、ぜひとも寄付金を賜りたく、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

今後さらなる卒業生の懇親、交流を広げると共に、次年度以降の卒業生とのつながりを持てる場を継続する為にも、OB会会員方々のご支援、ご協力をお願い申し上げます。誠に勝手ではありますが、事務処理の都合上、一口1,000円をお願いします。

OB会への寄付金に関しましては、OB会会計の口座までお振込みをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。三井住友銀行 阿倍野支店(449) 普通口座 7613105 名義 大阪芸大写真学科OB会会計 松井良浩
※誠に恐れ入りますが、振り込み手数料のご負担をお願い申し上げます。





創部メンバー (1984)

大阪芸術大学体育会弓道部 創部40周年

塚本学院校友会芸弓会支部 支部長 岡田 成生
大阪芸術大学体育会弓道部 初代主将・大阪芸術大学体育会弓道部芸弓会 会長

芸弓会とは、大阪芸術大学体育会弓道部のOB会名称であります。大阪芸術大学体育会弓道部は昨年、創部40周年を迎えました。と共に芸弓会も創立30周年を迎えるに至りました。本来なら周年事業として大々的に記念式典を催すところではありましたが、まだまだ昨年はコロナ禍から完全に抜けるに至らず、泣く泣く開催を断念することとなりました。記念式典を催していたら、きっとOB&OGの皆さんは、部活動の懐かしい昔



女子2部リーグ昇格 (2015)



話に花が咲かせていたことでありましょう。その式典会場を満たしたであろう懐かしい空気を共有するために、これまでの部活動40年の写真を掲載したいと思います。「ああ、昔の弓道場は、こんなだったなあ」、「毎回、練習の度に畳を背負って運んで、塚(あずち)を作っていたなあ」、「関西学生リーグ、男女ともに2部に昇格できた瞬間、本当に嬉しかったなあ」などと、それぞれの想いのなか、目を細めて見てくだされば幸いです。



インカレ女子団体4位 (2016)



男子2部リーグ昇格 (2016)

大阪芸術大学体育会 スキー部OB支部会活動報告書

支部長 山田 直之

大阪芸術大学の前身である浪速芸術大学で1964年に山岳スキー部として創部され後に大阪芸術大学体育会スキー部として2017年には創部50周年を迎えることが出来ました。スキー人口の減少、若者の体育会離れなどの要因で2019年に体育会スキー部は、廃部となり残念ながら浪速芸術大学からの59年の歴史に幕を閉じることとなりました。

又コロナという未曾有の事態に直面しOB会の活動も制限され今日に至りませんがコロナ制限が緩和され2023年9月に4年ぶりのOB総会を大阪で開催することが出来ました。東京でもリモートで同時総会を行い参加者は、学生時代の思い出に浸り楽しい時間を過ごしました。

体育会スキー部は、廃部になりましたがOB支部会は、又いつの日かスキー部が創部されることを切に願い活動を続けていきたいと思っています。



浪速芸術大学時代の部旗



保育学科支部活動

大阪芸術大学短期大学部 保育学科支部長 伊山 千鶴子

皆さま！お元気ですか。

卒業生の皆さんとの交流を目的として平成30年に設立した保育学科支部は5年目を迎えました。新型コロナウイルス感染症の不安な中で活動停止を余儀なくされていましたが、2023年10月20日に久しぶりの役員会を大阪学舎で開催しました。少人数での集りですが、コロナ禍の苦労話や日々の保育現場の話に花が咲き、今後の活動についても一気に話がまとまりました。さすが保育学科です。

2024年6月に改めて第3回定期総会を開催いたします。保育学科の先生方にもお声をかけます。ぜひ、皆さまご参加ください。第3回目は総会に加えて、お歌のコンサートも開催します。クラシックや童話など皆さまがよくご存知の曲をお届けします。

★保育学科支部総会は、卒業生であれば初めての方でも参加できます★

懇親会
イベント
Music Time

出演者
お歌
高橋 純先生
・保育学科講師
・京都市立芸術大学 大学院
音楽研究科 博士(後期)課程

ピアノ伴奏
岩本 愛先生
・通信教育部保育学科特任講師
・ドイツ国立ミュンヘン音楽演劇大学
大学院修了

次回支部総会・懇親会のご案内

日時：2024年6月15日(土)
午後13:30～16:00
会場：短期大学部大阪学舎(矢田)
会費：支部会費 1,000円
懇親会費 1,000円

内容：総会
音楽コンサート
懇親会
※懇親会ではお菓子、飲み物をご用意します。

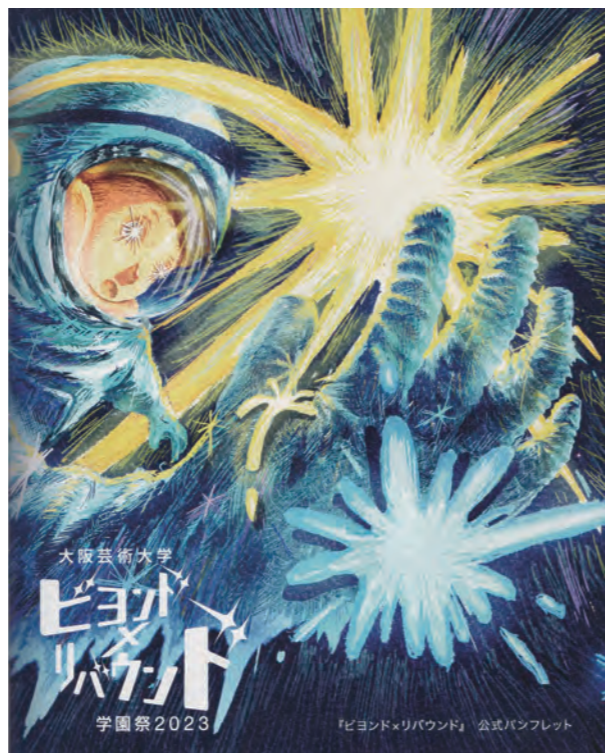
締切：2024年3月31日(日)

参加ご希望の方は以下からお申込みください。



【お問合せ先】
大阪芸術大学短期大学部 大阪学舎
事務室：楓井(かいで)
yuminnie.mayutan23@gmail.com

2023年11月4日・5日の2日間、開催された大阪芸術大学の学園祭を取材してきました。



今年のテーマは「ビヨンド×リバウンド」。

実行委員の学生さんたちは入学当初からコロナ禍だったため、入場規制や制限のある中で学園祭しか経験できなかったそうです。そして、今年は「今しかできない」学園祭を目標に一致団結して準備を進めてきたそうです。



受付



スタッフパーカーとジャンパー



掲示板

サークル活動のライブ演奏、パフォーマンスのステージ、作品の展示、発表も数多く見ることが出来ました。



学生スタッフ



体育館ステージリストバンド



体育館ステージ



ステージ



写真展



写真展



ゲーダイガー



ゲーダイガーショーの様子

オリジナルのヒーローショー。

「ゲーダイガー頑張ってる!!」という声援。小さい子供達に大人気でした。

てづくり横丁は学生さんが作ったグッズを購入することができる人気企画で、学生の作品目当てに多くの来場者で溢れていました。

この他にも半日の取材時間ではとても見切れない程のボリュームと多様性に溢れる学園祭でした。芸大生の「今」を体感できる学園祭。学園祭実行委員会の皆さん、お疲れ様でした。機会があればぜひ来年も取材させてもらえたらと思います。



てづくり横丁 (陶芸)



てづくり横丁



取材/2023.11.4

文責・写真/菅原 広司(企画広報委員)

2023年 新企画「大阪芸術大学 ドリーム・ウインド・オーケストラ」[関西音楽コンクール]
大阪芸術大学演奏学科 本田耕一教授のプロデュースにより新しく2つの大きなイベントが開催されました。

関西の精鋭音楽家による 夢の“響”宴 大阪芸術大学 ドリーム・ウインド・オーケストラ



2023年6月21日(水) ザ・シンフォニーホールにて「大阪芸術大学 ドリーム・ウインド・オーケストラ」が開催されました。

「大阪芸術大学 ドリーム・ウインド・オーケストラ」は関西を中心に活躍する精鋭の演奏家たちが、楽団や団体の枠を越えて集結した吹奏楽のためのオーケストラです。今回の演奏者の所属するオーケストラや室内楽団は15団体にも及び、そのほかフリーランスとして活動する演奏家や大学講師など、約60名のプロの演奏者が一夜限りのコンサートをお届けしました。

(制作統括：本田 耕一演奏学科教授 / 指揮：伊勢 敏之 演奏学科教授)

曲目は 酒井 格 演奏学科客員教授作曲「夢の円舞曲」(新作初演)をはじめ、吹奏楽の名曲や2023年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲など多彩な曲目が演奏されました。

このコンサートでは高校生以下は事前予約によるご招待で、部活動などで吹奏楽を学ぶ中学生・高校生たちも多数来場し熱い視線が注がれました。(多数の個人での申し込みのほか、団体での申し込みも約30校ありました。)華やかな吹奏楽の響きが会場いっぱいに広がり、約1,500名の超満員の観客を魅了しました。



本選 2023年6月3日(土) 大阪芸術大学 芸術劇場

「関西音楽コンクール」は次世代を担う若き演奏家の発掘と育成を願って開催されました。高等学校あるいはそれと同等とみなされる課程に在籍する19歳以下の方を対象に、声楽・ピアノ・弦楽器・管楽器・打楽器の全5部門で募集が行われました。映像審査で行われる予選には、北海道・北陸・関東・中部・近畿・四国・中国・山陰・九州と全国各地から多数の応募がありました。本選は2023年6月3日(土)に行われ、予選を経て選ばれた27名が本選会場の大阪芸術大学芸術劇場に集まりました。実は、本選前日の6月2日は気象警報が出される大荒れの天候、大阪芸術大学の授業も午後から休講となるほどの大雨で新幹線も大幅な遅延や運休となり、遠方からの本選出場者の中には移動が出来ず、本選に参加出来なかった方もおられました。

本選では、繊細な演奏・ダイナミックな演奏とそれぞれの良さを発揮し、熱のこもった演奏が繰り広げられました。

審査は、本選の後、審査委員会により厳正なる協議のもとに行われ、引き続き芸術劇場で発表・授与式が行われ、審査委員長の大阪芸術大学演奏学科長 三原 剛教授から、応募された皆様へのねぎらいと演奏への賛辞、今後の勉強への激励の言葉が述べられました。

本コンクールでは、全体の第1位から第3位・それぞれの部門の優秀賞・審査員特別賞が選ばれ、表彰状と副賞(奨学金 または大阪芸術大学 初年度授業料もしくは入学金免除)が授与されました。

コンクールは引き続き行われる予定です。未来ある方々が才能を発揮され、自分の夢をつかみとる第1歩となることを願っています。

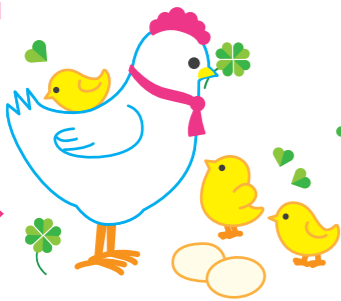
文責/企画広報委員 豊田 千晶



げい
いたん
ひろば

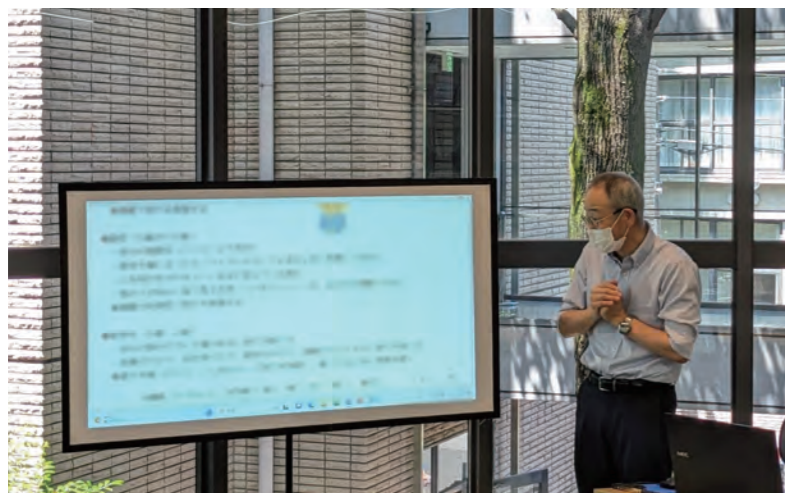
ぴよ
びよ
ぴよ

保育学科地域貢献



保育学科では地域の小さなお子さんと保護者に参加していただく「ぴよびよいたんひろば」を開催しています。保育学科教員が専門を通して、絵本の楽しさ、子育てのヒント、楽しく歌う方法などをお伝えしています。特に好評なのが図書館で、絵本だけでなく、花の形や象の形をした椅子があり絵本ミュージアムのようなディスプレイも子どもたちの目を引き付けます。参加された保護者の方からは、「子どもがリラックスして過ごせるのが他の図書館とは違います。もっと開催していただくと嬉しいです」とお言葉もいただきました。

保護者の方の交流や子どもたちの育ちの場所となるよう、地域の子育てを豊かなものにするためにも引き続き取り組んでいきます。



令和5年7月11日(火) イライラしない子育てのコツ～見方とことばをかえて共に成長しましょう～



令和5年6月7日(水) 芸短の図書館でたくさんの絵本とふれあひましよう!



令和5年9月21日(木) 楽しく子どものうたを歌いましよう!!

ビセンの
美専祭
開催しました!

昨年はコロナ禍の後、3年ぶりに開催された美専祭でした。卒業式の謝辞で「美専祭がとても楽しかった。無事に開催させていただけたこと、ありがとうございました。」という言葉に泣きました。こちらこそ、もっともいろいろな時間を経験させてあげたかったという思いでした。

10コース13分野ごとに固定の時間割が動いていまずので、コースを越えて交流する機会はめったになく、美専祭は学生たちの交流の場となります。

手作り商品のレベルも「さすが美専生!」と思える完成度です。

陶芸品、アクセサリ、缶バッジ、絵葉書(イラストレーション&写真)、シルクスクリーンで作る布バッグなど、コースの特色が生かされていて、見ているだけでも楽しい物販コーナーです。

昨年は学生、教職員、関係者のみでの開催になりましたが、今年は完全にもとの美専祭復活です。11月3日(金)に開催されました。「美専万博」をテーマに、ギャラリーとホールいっぱい店が並んで、通りすがりの方たちも数多く入場されて賑わいました。展示ホールではライブイベントがありました。絵が描けて演奏が出来て、歌も上手い!多才です。



各コースの先生方の作品展示に加えて、グラフィックデザインコースの先生方による合同ライブペイントは圧巻でした。10月から事務室前に飾られていたハロウィンの大きなかぼちゃの重量予想正解者発表や壁面落書きコーナーなど、ほのぼのとしていて、和気あいあいとした雰囲気が美専祭の特徴です。

教室で見かける制作者の「静」の顔から一転笑顔はじける表情を見ることができた日となりました。そして、実行委員の方たちは「お疲れさまでした。」

来年も11月3日(日・祝)に開催予定です。卒業生の皆様も是非お越しください。





クレナズム

昨年、ボクが所属する、企画広報委員会では中核を担う、お二人の先輩がご逝去されました。お二人について、備忘録的に書いておきます。

香川文人副委員長(熱い太陽)

齋藤 信委員(温かい太陽)

お二人とは校友会員になる前、学生時代から約30年の付き合いで、校友会員になってからも、可能性を広げることのできる心強い存在でした。

例えば、香川さんは『誠』～土方歳三のように、なんといっても深い、快い生き方を学ぶことができる方なりました。

齋藤先生※(ボクがその時呼んで心地よい呼び方で…)『義』～直江兼統のように、正に「己にとって美しく生きる」という方なりました。

何が「正しい」のか、時と場合と状況によって異なることがあります。そのとき、大切なのが自分の「信念」であることがあります。その信念が、「今、成そうとすることは、自分にとって恥ずかしくないことだろうか。己の本心にそっているだろうか」という自問を「美しい」という表現にしているのです。

だからこそ、男らしい、だけではありません。

「漢」と書いて「おとこ」と読む、漢らしい人とは、性別関係なく、男も女も惚れてしまうようなカッコいい人のことなのです。

大胆、かつ繊細な心の持ち主。正義感が強いということだと思います。恥ずかしながら、ボクは年が長ずるに従い、温和で、父を慕うようにお二人のことを慕っておりました。

ボクがお二人から学んだことは、「考えたことを振り返り、経験として落とし込む」。これは真の探究で、考えた以降の自分、未来の自分が変わらないと探究とは言えない。自分の考えを簡潔に伝えるにはどうすればいいか。「重要なのは伝え方よりも『伝える前の準備』だ」と。

読者の中には、ご存知で、実践されておられる方も多いと思いますが、書き綴っていくこと。それが、「思い出すこと」につながる活動の一つだと思います。つまりは、振り返りを書くこと自体が一つの学びになるのです。

「時間」

時間厳守。「もし遅刻するなら、参加するな。」会議を含め参加者の方たちは基本的に意思決定ができる人やその分野の説明ができる人を中心に構成されます。つまり、忙しい人ばかりだと言っていいでしょう。議事をとるたびに進行が妨げられてしまうため、それだと時間が間延びしてしまうことも。だからこそ参加するなということなのです。

「3秒ルール」

プレゼン。「質問の後、すぐに回答するのではなく、3秒以上待って回答しなさい」「3秒以上、よく考えて回答しなさい」ということです。質問後、3秒間隔でポンポンとリズムカルに返事が返ってくるということは、質問者にとって何よりも心地良いコミュニケーションのリズムです。「3秒+S」で5秒後に答える、また-2秒に、つまり、相手が話し中に答えると、最近の若い人は「かぶせる」「食い気味」というのかもしれない。

「マイルール」※

プロトコルマナー。と呼ばれるノックの公式マナーがあります。これは世界的に採用されているマナーです。ノック2回はトイレでの在室確認。ノック4回はビジネスなど公式な場での入室確認。海外映画ではよく出てくるシーンです。これは就活に励む学生の皆さんに限らず社会人になってからでもNGなマナーですので、入室確認には使用しないようにしましょう。

※日本では3回が一般的で、日本企業の面接では3回のノックでも問題ありません。外資系企業の場合は、4回ノックすることをおすすめします。

「マイルール」

ご挨拶。一番古い話で、寮の出入り、学校の校門で、訪れた際、気持ちを込めて一礼するのも良いでしょう。好ましい立ち振る舞いをしたゆえ、ボクも相手も落ち着ついてコミュニケーションの取れる、和やかな雰囲気を作り出せます。これは、今も続けており、ある種クセになっています。勤務先の、なんの変哲のない雑居ビルに、7年間一礼していました。今は別の会社ですが…。

「メモ魔」

プレゼン。
“4×4の枠”※1の使い方 自分の考えを簡潔に伝えるにはどうすればいいか。「重要なのは伝え方よりも『伝える前の準備』です。ToDo リストを用い、集中する時間、整った生活、心の平穏なタスク管理をしましょうということです。①考えるベースとなる「情報を整理する」②自分なりに「考えをまとめる」のプロセスでできていると定義します。
齋藤先生が自前のToDo リストを多用されていたことの、応用でB5サイズのコピー用紙(ボクがB5ノートを好んでいるため…)に引きます。これで、2×2の「枠=4フレーム」の集合体が完成しました。項目が複雑になれば、さらにタテ線を2本、ヨコ線を2本引きます。これで、4×4の「枠=16フレーム」の集合体が完成。キーワードで埋めていき、伝える順番を立てて行きます。伝える前に活用していく「紙1枚」思考整理法の概要です。ボクがデザイナーをやっていたときからの、わずか5分程度のスキマ時間で、たった「紙1枚」書くだけです。

「酒」

マナー。
酒は飲んでも呑まれるな、酒は飲んでもいっこうにかまわれないが、飲み過ぎて酔いしれ、他人に迷惑をかけるようなことがあってはならないという戒め。そもそも「頭のIQや学歴」と「酒とうまくつきあえるか」は関係がない。たかだか飲み会1回でバれてしまう

「二流の人間の故障っぷり」飲み会によって二流の人の人間的欠陥は、恥ずかしいほどバレてしまうものである。ボクは「人脈形成における余裕のないガッツキ癖」がある。とにもかくにもやることなすこと、幼稚なのである。これはお二人からもよく、怒られたもので、いまだに私は「怒られっぱなし」なのであります。

「待て」

人間に生まれる感情の中には、良いものもあれば悪いものもあります。
香川さんは経営者。齋藤先生は教師。部下や生徒たちを育てる義務があります。
ボクもアートディレクターとよばれていた時にも、部下がいました。心を開いて全てを受け止めるならば、嫌な感情が生まれることもあるでしょう。そしてそれは人生が長く続けば続くだけ増えていきます。
けれど、そうだとでもいいから心を開いていたい。その覚悟がボクにはありませんでした。

ボクが今までやってきたたくさんひどい事。ボクが今まで言ってきたたくさんひどい言葉。涙なんかじゃ終わらない忘れられない出来事。それはきっと「忘れたよ」とは言いつつ「忘れられない出来事」がたくさんあるからでしょう。つまりボクが青春時代をとくに過ぎててもここまで生きてきた証です。そういった意味ではボクは大人にはなっていないのです。広告屋ですから、当然締めきりがあります。部下に任せて、早く帰ってみる。翌日出来ていない際は、自分が仕上げる、得意先と時間を交渉する。何度も繰り返して来ました。あるいは、取り上げ自分が仕上げる。ボクの思いはこうです。自分がしてきた無駄な努力はせず、簡単にボクのレベルに来てほしい。ですから、前述のようなことが起きてしまう。人には育つ時間が必要だということです。

もう一度いいます、その覚悟がボクにはありませんでした。個人のスキルアップが目的だったからです。だからいまだに「忘れたよ」とは言いつつ「忘れられない出来事」がたくさんあります。それでも、待ってくださったお二人からは、気付きと誉れをいただいたことは、ボクの慰めと励みになっているように思います。



以上が、お二人から教えられた『誠』と『義』なのです。

さて、偶然かどうか、お二人に最後にお会いしたのが、酒の席でしかも二人きりの席で、香川さんとはBarで、何げない話をした後で、

「オレさあ、Barとかいかねえから、なにたのんだらいんだよお」と聞かれて、「女性と同伴なら、彼女にはマンハッタンを、自分は、マスターにおすすめのソーダ割りをたのみますねえ。」「あっ、二杯目はキューバンリバーすかねえ。由来は【キューバの自由(Cuba Libre)】から来ているというからってうんちくがカッコいい。」なんて、おそらく知っているだろう会話をし、近鉄 阿部野橋の改札でお見送りしたのが最後だった。

齋藤先生ともBarであった。先生の好きな拓郎を最後に聞いて、堺筋でタクシーでお見送りしたのが最後だった。

もっと聞くことがあったらうに、こういう時「二流の人間の故障っぶり」が出てしまうのが、ボクだ。

その後、お二人の訃報を聞き、一人、神崎川で泣き明かした。

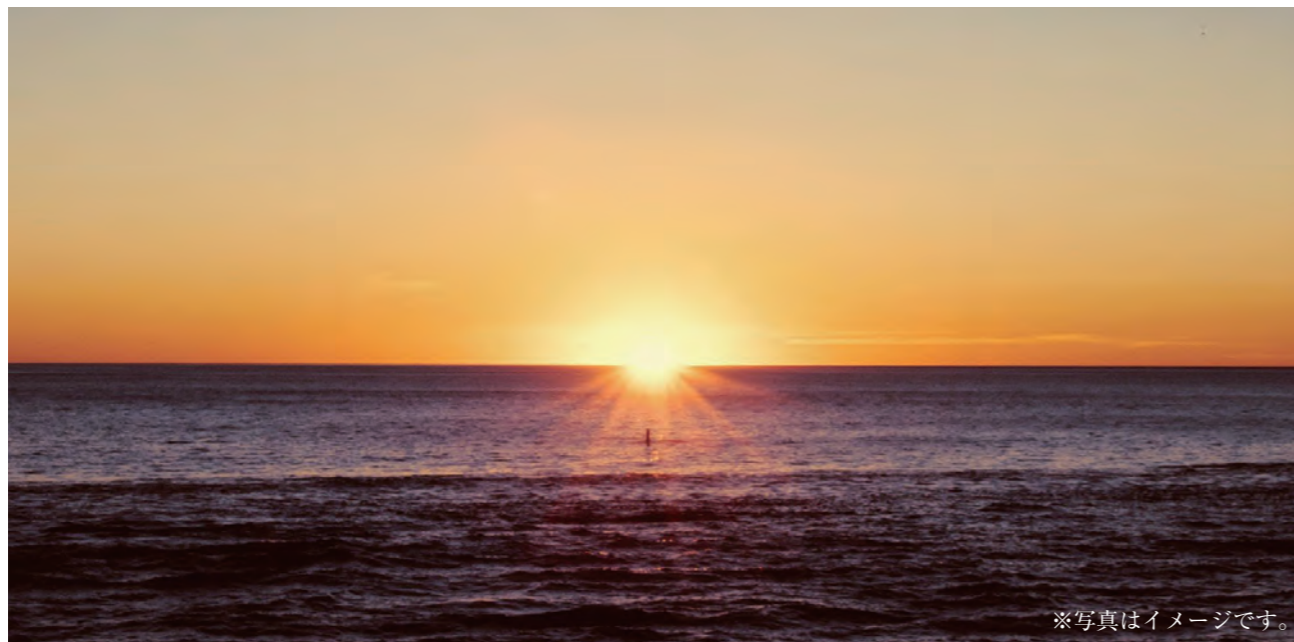
こんなボクには、幸いなことに多くの校友がいる。“私を見ていてくださる人があり私を照らしてください”※2 ボクは広報委員として、お二人の長年にわたり多くのご功績を残されましたことに敬意を表しますとともに、今後、会員との親睦と交流を深め、相互に励まし合い、高め合うとともに、後輩学生の成長と母校の益々の発展を期して、物心両面から支えてまいります。月並みな表現ではありますが、文字通りの「重責を担う」が、偽らざるボクの気持ちを言い当てています。

そして今、水平線はすっかり暮れなずんでいった。

企画広報委員の皆様、事務局の皆様にごこのような機会をいただきありがとうございます。また、あくまで、これは私見であり、皆様のご参考の一助になれば嬉しく思うものであります。

引用元：※1.浅田すぐる 『「伝える前」が9割 言いたいことが最短で伝わる！「紙1枚」下書き術』(KADOKAWA)
※2.榎本栄一 詩集『群生海』

編集・文責／企画広報委員 木下 淳史



※写真はイメージです。

学びのフィールド

現代芸術の多彩なフィールドを網羅する、大阪芸大グループの令和6年度の学科編成

大阪芸術大学

[アートサイエンス学科] <small>〈研究領域〉</small> ●アートエンターテインメント ●先端デザイン	[工芸学科] ●金属工芸コース ●陶芸コース ●ガラス工芸コース ●テキスタイル・染織コース	[映像学科] <small>〈研究分野〉</small> ●映画 ●映像 ●シナリオ ●映像学	[放送学科] ●制作コース ●アナウンス音声表現コース ●先端メディアコミュニケーションコース ●声優コース	[音楽学科] ●音楽・音響デザインコース ●音楽教育コース
[美術学科] ●油画コース ●日本画コース ●版画コース ●彫刻コース	[写真学科] <small>〈研究分野〉</small> ●ファインアート ●プロフェッショナル ●映像表現	[キャラクター造形学科] ●漫画コース ●アニメーションコース ●ゲームコース ●フィギュアアーツコース	[芸術計画学科] <small>〈研究分野〉</small> ●アートプロデュース ●イベントプロデュース	[演奏学科] ●ピアノコース ●声楽コース ●管弦打コース ●ポピュラー音楽コース
[デザイン学科] ●グラフィックデザインコース ●イラストレーションコース ●デジタルメディアコース ●デジタルアーツコース ●プロダクトデザインコース ●空間デザインコース ●デザインプロデュースコース	[建築学科] <small>〈研究分野〉</small> ●建築 ●環境デザイン	[文芸学科] <small>〈研究分野〉</small> ●創作(小説・詩・脚本) ●ノンフィクション・文芸批評 ●出版・編集 ●翻訳・講読	[舞台芸術学科] ●演技演出コース ●ミュージカルコース ●舞踊コース ●ポピュラーダンスコース ●舞台美術コース ●舞台音響効果コース ●舞台照明コース	[初等芸術教育学科]

大阪芸術大学短期大学部

[大阪学舎]	[伊丹学舎]
[保育学科]	[メディア・芸術学科] ●メディアコース <small>(先端メディア専攻 / 広告専攻 / 放送専攻 / 映像専攻)</small> ●舞台芸術コース <small>(身体表現専攻 / 舞台制作専攻)</small> ●ポピュラー音楽コース ●声優コース ●ポピュラーダンスコース
	[デザイン美術学科] ●グラフィックデザイン・イラストレーションコース ●空間演出デザインコース ●アートサイエンスコース ●ドローンクリエイターズコース ●アニメーション・デジタルデザイン・ゲームコース ●キャラクター・マンガ・フィギュアコース ●絵画・版画コース ●工芸・立体デザインコース

大阪芸術大学附属 大阪美術専門学校

[総合デザイン学科(3年制)] ●グラフィックデザインコース ●デジタルデザインコース ●イラストレーションコース	●プロダクトデザインコース ●インテリアデザインコース	[コミック・アート学科(2年制)] ●マンガコース ●コミックイラストコース ●アニメコース	●フィギュアコース ●美術・工芸コース <small>(絵画・版画・アクセサリー・陶芸)</small>
---	--------------------------------	--	--

各校の詳細はコチラ

	大阪芸術大学		大阪芸術大学短期大学部		大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
--	--------	--	-------------	--	------------------

The information of the Graduation Work Exhibition
2024 卒業制作展のご案内

**大阪芸術大学
卒業制作展**

学内展

「令和5年度 大阪芸術大学 卒業制作展」
 期間：令和6年2月11日(日・祝)～18日(日)
 11:00～17:00
 会場：大阪芸術大学
 ※同時に芸術情報センター展示ホールにて「優秀作品展」を開催



学外展

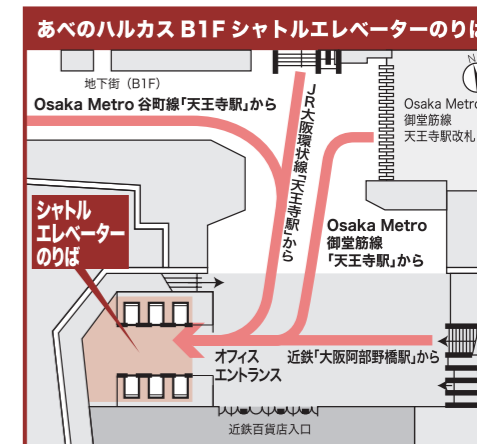
○大学院
 「令和5年度 大阪芸術大学大学院 修了制作展」
 期間：令和6年2月6日(火)～16日(金)
 11:00～19:00 (入場は18:30まで)
 会場：大阪芸術大学スカイキャンパス
 【休館日 2/13(火)】

○芸術学部・短期大学部・大阪美術専門学校
 「令和5年度 大阪芸術大学グループ
 卒業制作選抜展」
 期間：令和6年2月22日(木)～3月3日(日)
 11:00～19:00 (入場は18:30まで)
 会場：大阪芸術大学スカイキャンパス
 【休館日 2/26(月)】

※詳細については、大阪芸大ウェブサイトをご確認ください。

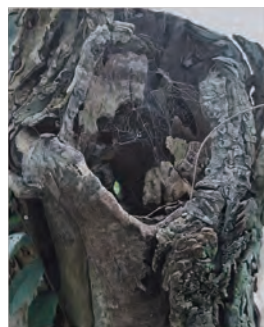
■大阪芸術大学スカイキャンパス

〒545-6090 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス 24F
 TEL 06-6654-5557
 ※あべのハルカスには本学専用駐車場がございません。恐れ入りますが公共交通機関をご利用の上、ご来場ください



あべのハルカス B1F オフィスエントランスよりシャトルエレベーターをご利用ください。(17F オフィスロビーにて、オフィスエレベーター(低層用)に乗り換え)

**大阪芸術大学
短期大学部
卒業制作**

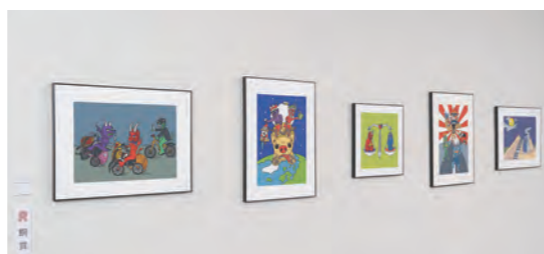


▲デザイン美術学科 (最優秀賞)

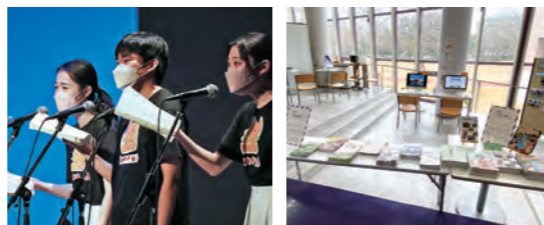
学内展(デザイン美術学科)(メディア・芸術学科)
 期間：2024年2月8日(木)～12日(月・祝)
 10:00～16:00
 会場：大阪芸術大学短期大学部 伊丹学舎

学外公演

- メディア・芸術学科 舞台芸術コース
 期間：2024年3月3日(日)
 会場：AI・HALL (伊丹市立演劇ホール)
- メディア・芸術学科 ポピュラーダンスコース
 期間：2024年2月29日(木)
 会場：あましん アルカイックホール オクト
- メディア・芸術学科 ポピュラー音楽コース
 期間：2024年3月17日(日)
 会場：ビルボードライブ大阪



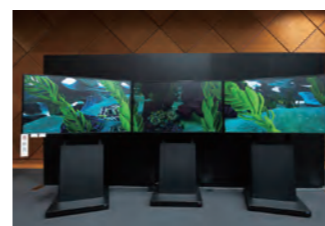
▲デザイン美術学科-版画



▲メディア・芸術学科 声優



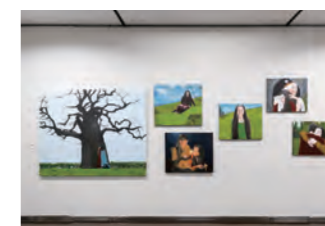
▲メディア・芸術学科 ライティング・編集・取材・ウェブ



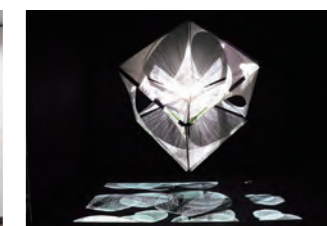
▲デザイン美術学科 アニメーション・デジタルデザイン・ゲーム



▲デザイン美術学科 グラフィックデザイン



▲デザイン美術学科 絵画



▲デザイン美術学科 アートサイエンス



▲メディア・芸術学科 放送



▲メディア・芸術学科 舞台芸術



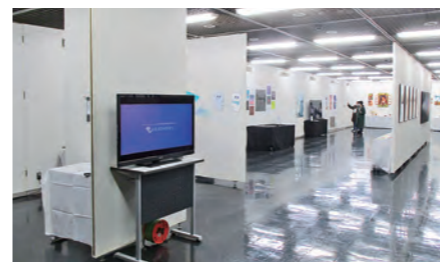
▲メディア・芸術学科 ポピュラーダンス



▲メディア・芸術学科 ポピュラー音楽

**大阪芸術大学附属
大阪美術専門学校
卒業制作展**

期間：2024年2月10日(土)～13日(火)
 10:00～17:00
 会場：大阪芸術大学附属 大阪美術専門学校



WINGS vol.45

執筆等、お世話になった方々

石田 善隆	大船 光洋	葉指 ささく	武友 朋子	中野 木綿子	宮武 翼
伊山 千鶴子	岡田 清子	小森 正孝	田島 剛毅	抽冬 美紗稀	安井 寿磨子
岩瀬 美保	奥見 俊晴	笹川 晃希	田中 雅文	浜畑 賢吉	山田 直之
いわたまいこ	小黒 真平	島村 和香子	塚本 英邦	ヒロセ マリ	山本 恭平
上田 昌	河村 幸詩	杉崎 真之助	留目 正丈	福原 野乃花	山澤 敬子
上田 和典	北浦 和也	千光士 義和	中川 佳宣	古市 真崇	脇田 昌美
上田 真由美	紀平 真理	高田 雄吉	中瀬 洋一	松本 唯	(50音順) (敬省略)
植村 悦和	日下部 一司	高橋 善丸	中西 喜美恵	宮越 衣絵	

ウイングス編集の行程で大変お世話になりました。塚本学院校友会 事務局 事務局長／芝野 晴夫さん 職員／柴田 稔子さん 松本 晴名さんに感謝します。

企画広報委員会

担当副会長 竹内 美子	委 員 岡田 成生	委 員 木下 淳史	委 員 豊田 千晶
委 員 長 東陰地 正喜	委 員 田村 昭彦	委 員 薩摩 嘉克	委 員 東 真一郎
副委員長 竹垣 恵子	委 員 吉田 昇	委 員 下村 宗生	委 員 福留 愛生
副委員長 和田 貢	委 員 植村 幸治	委 員 菅原 広司	委 員 山口 俊介
委 員 岡田 邦彦	委 員 楓井 由美	委 員 高橋 亜希	

WINGS ネットワークシステム スタッフ一覧(118名)

中村 秀輝	吉江 秀郎	小川 玲子	石川 裕敏	坪田 昌之	片岡 昭夫
武田 明子	高尾 行一	鈴木 健司	石川 薫	篠田 美代子	金好 利美
糸屋 幸	太田 実	安永 紀子	下岡 清	宮本 明香	土井 範江
森澤 麻家	松永 喬	飯田 浩人	山中 愛子	北田 綾花	三澤 浩二
谷本 直也	中村 文治	藤原 靖子	小栗 高志	高田 雄吉	山根 満広司
滝沢 太郎	藤森 淳司	古市 真崇	室谷 丞一郎	中野 広典	大野 圭司
川野 雅通	出田 吏市	作野 周史	万井 純	森田 玲子	大西 洋三
江本 祐介	小牧 伸輔	大平 正道	河本 一英	戸川 由子	高垣 昭男
深山 佳嗣	種田 寿雄	水野 恵子	石井 学	伊藤 寛子	室井 貴峰
永田 明日香	金山 豊	酒井 雅恵	植村 哲	武田 祥子	中村 茂昭
伊藤 華苗	渡山 安徳	皆山 武史	赤穂 正秀	木村 康佑	井上 美奈子
松岡 智沙	唐木 孝治	皆山 武史	水落 学	西岡 純子	田中 芳行
上田 早紀	林 武史	水島 直春	保坂 一穂	松下 智幸	宮地 崇仁
飯田 有加	平木 円香	金山 直樹	南山 直宏	小出 厚子	藤原 薫
山本 花乃	河原崎 貴	和泉 智香子	天摩 郁子	八木 和昭	田崎 洋一
江連 時弘	秦 照文	十川 賀菜子	那須 啓代	吉川 羽由	広瀬 真理
水落 誠一	玉川 由美子	吉村 まり子	小原 慶治	仲原 圭太	吉田 孝則
才加 志 実	富田 信雄	吉岡 ななこ	酒井 浩司	尾崎 実哉	亀井 洋一郎
海津 智子	富田 悦子	平澤 卓	岡田 英朗	中西 幹夫	
中原 義郎	袴田 伸二	丸尾 紘美	富田 英樹	渡邊 志津子	

編集後記



今号にて、私、田村昭彦は企画広報委員会を辞任させていただきます。ご協力ありがとうございました。

元大阪芸術大学 美術学科教授 坪田正彦(政彦)先生が令和5年12月1日にご逝去されました。享年77歳 合掌
謹んでご報告させていただきます。

田村 昭彦



長らく企画広報委員長を勤められた田村昭彦先生から委員長の任を引継ぎました東陰地(ひがしおんじ)です。田村先生はじめ企画広報委員会のメンバー、松本さんはじめ事務局スタッフ、さらに田辺プリント社の優秀なデザイナーの方たちのご協力で何とか年内発行にこぎつけました。

企画広報委員はみな自分の仕事の傍ら、無償で取材・執筆・編集作業をしているため、どうしても行き届かない面も多々ございます。寄稿いただいた方々、取材先のみなさまにも大いに助けていただきました。あらためてお礼を申し上げます。おかげさまで今号も読み応えのある内容になったと自負しております。どうぞゆっくりとお楽しみください。

さて来年は校友会設立55周年。11月の記念行事(裏表紙に詳細)に向けて校友会役員一丸となって準備して参ります。ぜひご参加いただきたいと思います。Wingsと周年イベントが校友のみなさまを繋ぐ架け橋となることを祈って。

新企画広報委員長 東陰地 正喜



正誤表

昨年発刊の『Wings No.44』にて下記の誤りがございました。お詫びして訂正致します。

(ページ)	(コーナー)	(誤)	(正)
P.22	佐々木 侃司先生 しごきの野球部展 プロフィール一行目	旅順大連生まれ	東京生まれ
P.57	凸凹母校 大阪芸術大学 安井 寿磨子先生 絵本キャプション	ほんじより工場	ほじよりん工場

遠藤賢治・井村隆・千光士義和 キネティック アートな3人展

2024年3月30日(土) → 4月21日(日) 奈良県立図書情報館(入場無料)
〒630-8135 奈良市大安寺西1丁目1000番地 TEL.0742-34-2111



塚本学院校友会設立55周年

2024 wings vol.45

2024年、塚本学院校友会は設立55周年を迎えます

55年前、塚本英世初代理事長・学長が「今後、校友会組織が絶対に必要となる」と旗を振ってください、校友会が設立されました。以来、年々卒業生が増えるとともに校友会会員も増え、みなさんが繋がるハブとして、校友会は堅実に組織を運営・維持してまいりました。これも、校友会を見守ってくださった学院の役員や先生方、そして校友会を運営してこられた先輩理事の方々、事務局のみなさま、多くの方の尽力の賜物と思います。

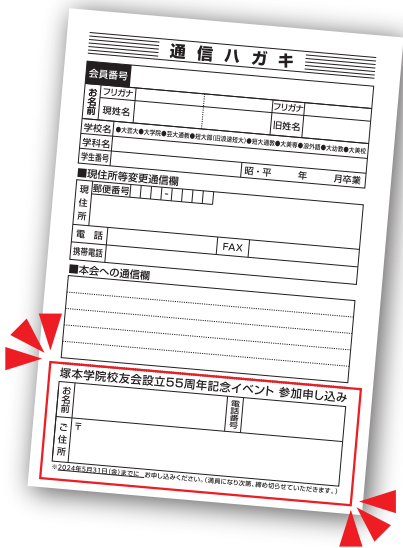
前回50周年の式典・パーティーでは、多数の校友の方にご参加いただき、盛大に記念行事を開催し、「来て良かった」との喜びの声もたくさんいただきました。旧交を温め、また新たな繋がりも得る絶好の機会となったと思います。

今回の55周年も、校友の繋がりを大切に、記念行事を開催いたします。校友のご友人、先輩・後輩、お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

校友会設立55周年記念事業検討委員会
委員長 東陰地 正喜



大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
美術工芸学科プリントメイキングコース 卒業
切り絵作品「けし子ちゃん」シリーズ
いわたまいこ



↑お申し込み方法↑

同封の通信ハガキの所定の欄（上図の赤枠部分）にご記入の上、事務局までお送りください。（切手不要）

※2名以上で参加希望の場合は通信欄に人数と同伴者のお名前をお書きください。

※参加者は、校友会会員に限ります。

参加申し込みの会員には、後日、参加費払込用紙と案内状をお送りいたします。1/15から5/31までに投函してください。先着300名まで（定員に達し次第締め切らせていただきますので、お早めにお申し込みください）

塚本学院校友会設立55周年記念行事

【日時】2024年11月23日（土・祝）13:00～

【会場】シェラトン都ホテル大阪（上本町）

【参加費】お一人6,000円（差額は校友会が負担）

第1部 講演会

講師 法隆寺管長 古谷正覚氏 / テーマ「未定」

第2部 式典・祝宴

ゲスト

卒業生代表 大阪芸術大学 芸術学部 工芸学科卒業
重要無形文化財保持者（人間国宝）前田昭博氏

パフォーマンス 大阪芸術大学 芸術学部 放送学科 卒業
石田善隆氏 / 中西喜美恵氏
NPO 法人音頭座がらく 河内音頭

大阪芸術大学 芸術学部 環境計画学科 卒業
豊来家玉之助氏 太神楽曲芸



50周年記念パーティーの様子

塚本学院校友会

【事務局】〒546-0023 大阪市東住吉区矢田2-14-19

TEL 06-6607-1988

FAX 06-6607-7485

mail: tgkoyukai-3@giga.ocn.ne.jp